

## 基本計画書

基本計画											
事項	記入欄								備考		
計画の区分	学部の設置										
フリガナ設置者	ガッコウアカトミ アトミケン 学校法人 跡見学園										
フリガナ大学の名称	アトミケンジョウガク 跡見学園女子大学 (Atomi University)										
大学本部の位置	東京都文京区大塚一丁目5番2号										
大学の目的	本学は、学術を中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、学園創立者跡見花蔭の教育精神を継承して有能なる社会人、家庭人たる女性の育成を目的とする。										
新設学部等の目的	本学部は、人の心についての広く深い科学的な知見と技術をもとに、人々の健康的な人生に寄与し、人間関係の理解とスキルを活かした豊かな組織と社会づくりに貢献する人材の養成を目的とする。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	心理学部 [Faculty of Psychology]	4	120	0	480	学士 (臨床心理学)	平成30年4月 第1年次	(1・2年次) 埼玉県新座市中野一丁目9番6号			
	臨床心理学科 [Department of Clinical Psychology]							(3・4年次) 東京都文京区大塚一丁目5番2号			
	計							120 0 480			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	文学部 臨床心理学科(廃止) (△120) ※平成30年4月学生募集停止										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
		講義	演習	実験・実習	計						
	心理学部 臨床心理学科	151科目	116科目	15科目	282科目	124単位					
教員の組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
				教授	准教授	講師	助教	計		助手	
	新設分	心理学部 臨床心理学科			6人 (6)	2人 (2)	2人 (2)	0人 (0)	10人 (10)	0人 (0)	202人 (106)
		計			6 (6)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	— (—)
	既設分	文学部 人文学科			16 (18)	10 (8)	3 (2)	0 (0)	29 (28)	0 (0)	307 (315)
		現代文化表現学科			4 (5)	4 (4)	2 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	311 (321)
		コミュニケーション文化学科			4 (5)	4 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	288 (296)
		臨床心理学科			0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (307)
		マネジメント学部 マネジメント学科			10 (10)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	273 (282)
		生活環境マネジメント学科			4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	270 (279)
観光コミュニティ学部 観光デザイン学科			6 (8)	5 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	224 (231)		
コミュニティデザイン学科			4 (4)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	216 (225)		
合計			54 (61)	39 (34)	11 (9)	1 (1)	105 (105)	0 (0)	— (—)		

平成30年4月募集停止  
(文学部臨床心理学科)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		62 (62)	11 (11) 人	73 (73) 人					
	技 術 職 員		0 (0)	5 (5)	5 (5)					
	図 書 館 専 門 職 員		6 (6)	0 (0)	6 (6)					
	そ の 他 の 職 員		0 (1)	0 (0)	0 (1)					
計		68 (69)	16 (16)	84 (85)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	14,204.85 m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	14,204.85 m <sup>2</sup>					
	運 動 場 用 地	48,813.06 m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	48,813.06 m <sup>2</sup>					
	小 計	63,017.91 m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	63,017.91 m <sup>2</sup>					
	そ の 他	3,355.64 m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	3,355.64 m <sup>2</sup>					
合 計		66,373.55 m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	66,373.55 m <sup>2</sup>					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		52,068.94 m <sup>2</sup> ( 52,068.94m <sup>2</sup> )	0m <sup>2</sup> ( 0m <sup>2</sup> )	0m <sup>2</sup> ( 0m <sup>2</sup> )	52,068.94 m <sup>2</sup> ( 52,068.94m <sup>2</sup> )					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	89 室	34 室	15 室	14 室 (補助職員 8人)	0 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		心理学部		10 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書、学術雑誌（電子ジャーナル含む）は、学部単位での特定不能なため、大学全体の数。視聴覚資料、機械・器具については心理学部に係る数。		
	心理学部 臨床心理学科	512,492 [86,086] (512,492 [86,086])	7,123 [1,019] (7,123 [1,019])	83 [ 83 ] ( 83 [ 83 ])	205 ( 205 )	170 ( 170 )	0 ( 0 )			
	計	512,492 [86,086] (512,492 [86,086])	7,123 [1,019] (7,123 [1,019])	83 [ 83 ] ( 83 [ 83 ])	205 ( 205 )	170 ( 170 )	0 ( 0 )			
図 書 館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		6,747.46 m <sup>2</sup>		728		603,100				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		3,934.20 m <sup>2</sup>		テニスコート3面						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体
		教員1人当り研究費等		463千円	463千円	463千円	463千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		13,750千円	13,750千円	13,750千円	13,750千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	16,000千円	16,000千円	16,000千円	16,000千円	16,000千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	2,000千円	3,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	— 千円	— 千円		
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,202千円	1,022千円	1,042千円	1,062千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、寄付金収入、受取利息・配当金収入から調達した財源をもって学校経営に要する費用に充当する。							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	跡見学園女子大学大学院								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	人文科学研究科	年	人	年次	人		倍		(人文科学研究科) 埼玉県新座市中野一丁目9番6号	
	日本文化専攻	2	8	—	16	修士(人文学)	0.31	平成17年度		
	臨床心理学専攻	2	12	—	24	修士(臨床心理学)	1.16	平成17年度	(マネジメント研究科) 東京都文京区大塚一丁目5番2号	
マネジメント研究科	2	10	—	20	修士(マネジメント学)	0.30	平成18年度			

大学等の名称	跡見学園女子大学							
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
既設大学等の状況	文学部	年	人	年次人	人			
	人文学科	4	160	—	660	学士（人文学）	1.05	平成14年度
	現代文化表現学科	4	120	—	450	学士（文化表現学）	1.09	平成22年度
	コミュニケーション文化学科	4	110	—	450	学士（コミュニケーション文化学）	1.02	平成18年度
	臨床心理学科	4	120	—	480	学士（臨床心理学）	1.10	平成13年度
	マネジメント学部						1.08	
	マネジメント学科	4	180	—	750	学士（マネジメント学）	1.11	平成14年度
	観光マネジメント学科	4	—	—	—	学士（マネジメント学）	—	平成22年度
	生活環境マネジメント学科	4	80	—	300	学士（マネジメント学）	1.02	平成18年度
	観光コミュニティ学部						1.02	
	観光デザイン学科	4	120	—	360	学士（観光学）	1.31	平成27年度
コミュニティデザイン学科□	4	80	—	240	学士（社会学）	0.59	平成27年度	
附属施設の概要	<p><b>【心理教育相談所】</b>  平成14年4月に文学部臨床心理学科を設置したことを契機に開設された。子どもの発達および教育のみならず、青年・成人・高齢者の精神的健康、家族や地域社会・職場での人間関係の問題等について、臨床心理学とその関連分野の専門的な立場から相談業務を行い、地域社会に貢献するとともに、本学の教育に寄与することを目的とするものである。</p> <p>一階建て、延床面積323.65㎡の建物に相談室3室、相談観察室2室、プレイルーム2室、同準備室1室、心理査定室・演習室・事務室各1室を備える。</p> <p>大学院人文科学研究科臨床心理学専攻開設以降は、臨床心理士養成のための教育課程における学内実習機関・教育研究機関としての機能と、一般向け講習会の実施等による地域貢献・社会貢献としての機能が、心理教育相談所の二つの大きな柱となっている。</p> <p>さらに、臨床心理学科専門科目「カウンセリング実習」の連絡センターとして活用するなどの実績もあげてきた。</p> <p>また、平成25年5月、文京キャンパス近くに設置された跡見ギャラリーの2階部分に開設した心理教育相談所分室である「ATOMI さくらルーム」は、平成28年8月、場所を東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅前ユニゾ茗荷谷ビル7階に移し、延床面積約176㎡のスペースに相談室2室、プレイルーム兼演習室1室、その他事務スペースおよびミーティングスペース等を備える。</p> <p>ATOMI さくらルームは、大学院生の実習機関・教育研究機関としての機能を保ちつつも、社会に開かれた大学として、より地域に根付いた交流の場となるべく、「高齢者のためのコミュニティカフェ」や「子育て支援プログラム」の実施など、地域貢献・社会貢献により重点を置いた活動を行ってきたところである。</p> <p><b>【情報メディアセンター】</b>  情報メディアセンターは、跡見学園女子大学における情報機器およびメディア機器を用いた教育、研究及び学習、ならびに事務の活動支援と、その環境整備を行うことを目的とし、全学の共同施設として設置している。</p> <p>平成10年度に研究教育組織としてマルチメディア教育センターを設置し、年次計画に基づき施設設備及び組織を充実させてきた。平成14年度からそれらをより充実させ、情報メディアセンターに改め、学内における情報メディアに関わる教育研究の充実のみならず、文京キャンパスとの遠隔地授業の準備や、インターネット環境を活用した学外へのコンテンツの提供等を行っている。</p>							

<p>附属施設の概要</p>	<p><b>【花隈記念資料館】</b>  平成7年（1995）11月、跡見学園の開学120周年及び女子大学創立30周年を記念し、地域の生涯教育及び本学の教育研究活動に資するため開設した。鉄筋コンクリート造り、地上7階建ての女子大学2号館一階西側部分（延床面積289.7㎡）に展示室2室、整理・実習室、収蔵庫、サービスコーナーを備えている。  館名に創立者跡見花隈（1840～1926）の名を冠しているように、幕末期における花隈の修養時代から明治8年（1875）「跡見学校」の開学を経て今日に至るまでの跡見学園の歴史を写真パネル等でたどる常設展示、女流画家、書家として活躍した跡見花隈の作品の展示、大学構内遺跡出土品等を用いる企画展を開催している。さらに、学内の教員の協力を得た企画展覧会を開催する等、研究教育上の目的を達成する一環としての活動を行っている。  また、平成8年12月には、埼玉県教育委員会より博物館相当施設として指定されており、現在本学学芸員課程博物館実習受講生の実習の場としても利用されている。  大学院人文科学研究科日本文化専攻には、現役の美術館・博物館の学芸員や学芸員志望者（特に本学文学部卒業生）の入学が見込まれる。これらの学生による企画展の開催等、正課外の研鑽の場としても利用する。</p>
----------------	---

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の出定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要														
(心理学部臨床心理学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
全学共通科目	英語A I a	1前		2				○						兼4
	英語A I b	1前		2				○						兼3
	英語A II a	1後		2				○						兼3
	英語A II b	1後		2				○						兼2
	英語A III a	2前		2				○						兼3
	英語A III b	2前		2				○						兼3
	英語A IV a	2後		2				○						兼3
	英語A IV b	2後		2				○						兼1
	英語B I a	1前		2				○						兼1
	英語B I b	1前		2				○						兼1
	英語B II a	1後		2				○						兼1
	英語B II b	1後		2				○						兼1
	英語B III a	2前		2				○						兼2
	英語B III b	2前		2				○						兼2
	英語B IV a	2後		2				○						兼2
	英語B IV b	2後		2				○						兼2
	英語 I	1前		2				○						兼4
	英語 II	1後		2				○						兼2
	英語 III	2前		2				○						兼4
	英語 IV	2後		2				○						兼5
	フランス語 I	1前		2				○						兼2
	フランス語 II	1後		2				○						兼2
	フランス語 III	2前		2				○						兼5
	フランス語 IV	2後		2				○						兼5
	ドイツ語 I	1前		2				○						兼2
	ドイツ語 II	1後		2				○						兼2
	ドイツ語 III	2前		2				○						兼5
	ドイツ語 IV	2後		2				○						兼5
	中国語 I	1前		2				○						兼2
	中国語 II	1後		2				○						兼2
	中国語 III	2前		2				○						兼5
	中国語 IV	2後		2				○						兼5
	朝鮮・韓国語 I	1前		2				○						兼2
	朝鮮・韓国語 II	1後		2				○						兼2
	朝鮮・韓国語 III	2前		2				○						兼3
	朝鮮・韓国語 IV	2後		2				○						兼3
	英語マルチメディアレッスン	1・2前・後		1				○						兼1
	英語再入門A	1後・2前後		1				○						兼2
	英語再入門B	1後・2前後		1				○						兼2
	英語リーディング	2前		1				○						兼1
	英語ライティング	2後		1				○						兼1
	フランス語リーディング・ライティング	2後		1				○						兼1
	ドイツ語リーディング・ライティング	2後		1				○						兼1
	中国語リーディング・ライティング	2後		1				○						兼1
	朝鮮・韓国語リーディング・ライティング	2後		1				○						兼1
	テーマで学ぶ英語(文化) I	3・4前		1				○						兼1
	テーマで学ぶ英語(文化) II	3・4後		1				○						兼1
	テーマで学ぶ英語(ビジネス) I	3・4前		1				○						兼1
	テーマで学ぶ英語(ビジネス) II	3・4後		1				○						兼1
	テーマで学ぶ英語(観光) I	3・4前		1				○						兼1
テーマで学ぶ英語(観光) II	3・4後		1				○						兼1	
テーマで学ぶ英語(社会問題) I	3・4前		1				○						兼1	
テーマで学ぶ英語(社会問題) II	3・4後		1				○						兼1	
テーマで学ぶ英語(メディア) I	3・4前		1				○						兼1	
テーマで学ぶ英語(メディア) II	3・4後		1				○						兼1	
フランス語上級 I	3・4前		1				○						兼1	
フランス語上級 II	3・4後		1				○						兼1	
ドイツ語上級 I	3・4前		1				○						兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
外国語科目	ドイツ語上級Ⅱ	3・4後		1			○								兼1	
	中国語上級Ⅰ	3・4前		1			○								兼1	
	中国語上級Ⅱ	3・4後		1			○								兼1	
	朝鮮・韓国語上級Ⅰ	3・4前		1			○								兼1	
	朝鮮・韓国語上級Ⅱ	3・4後		1			○								兼1	
	小計(63科目)	—	0	99	0				0	0	0	0	0	0	兼67	—
情報処理科目	情報リテラシーⅠ	1前	1				○								兼2	
	情報リテラシーⅡ	1後	1				○								兼3	
	画像処理基礎演習	1・2前		1			○								兼1	
	Web制作	1・2前・後		1			○								兼2	
	マルチメディア基礎演習(映像制作)	1・2前		1			○								兼1	
	マルチメディア基礎演習(音楽制作)	1・2後		1			○								兼1	
	Microsoft Office Specialist 基礎演習	1・2前・後		1			○								兼2	
	コンピュータ・グラフィックス	3・4前		1			○								兼1	
	デジタル・アニメーション	3・4後		1			○								兼1	
	デジタル編集	3・4前		1			○								兼1	
	アプリケーション・プログラミング	3・4後		1			○								兼1	
Microsoft Office Specialist 演習	3・4前・後		1			○								兼1		
小計(12科目)	—	2	10	0				0	0	0	0	0	0	兼9	—	
導入科目	プロゼミⅠ	1前	1				○		2	2	1					
	プロゼミⅡ	1後	1				○		4		1					
	小計(2科目)	—	2	0	0				6	2	2	0	0	0	兼0	—
全学共通科目	文芸理論	1・2前・後		2			○								兼3	
	歴史理論	1・2前・後		2			○								兼3	
	言語科学	1・2前・後		2			○								兼1	
	記号論	1・2後		2			○								兼1	
	日本現代史	1・2後		2			○								兼1	
	アジア現代史	1・2前		2			○								兼1	
	ヨーロッパ現代史	1・2前・後		2			○								兼2	
	日本文学	1・2前・後		2			○								兼2	
	中国文学	1・2後		2			○								兼1	
	英文学	1・2前		2			○								兼1	
	ドイツ文学	1・2前・後		2			○								兼1	
	フランス文学	1・2前・後		2			○								兼1	
	ロシア文学	1・2前・後		2			○								兼1	
	西洋古典文学	1・2前・後		2			○								兼1	
	百人一首	1・2前・後		2			○								兼2	
	異文化理解	1・2前		2			○								兼1	
	地理学	1・2前		2			○								兼1	
	社会学	1・2前・後		2			○								兼1	
	国際関係論	1・2前		2			○								兼1	
	ボランティア論	1・2前・後		2			○								兼1	
	法学	1・2後		2			○								兼1	
	日本国憲法	1・2前・後		2			○								兼1	
	政治学	1・2後		2			○								兼1	
	経済学	1・2前・後		2			○								兼1	
	家政学	1・2後		2			○								兼1	
	哲学	1・2前		2			○								兼1	
	倫理学	1・2後		2			○								兼1	
	論理学	1・2前		2			○								兼1	
	認識論	1・2前・後		2			○								兼1	
	心理学	1・2前・後		2			○			1					兼1	
	教育学	1・2前・後		2			○								兼1	
	保育学	1・2前・後		2			○								兼1	
	統計学	1・2前		2			○								兼1	
科学史	1・2後		2			○								兼1		
情報科学	1・2前・後		2			○								兼1		
数学	1・2前		2			○								兼1		
物理学	1・2後		2			○								兼1		
地球科学	1・2前		2			○								兼1		
生物学	1・2前		2			○								兼1		
化学	1・2後		2			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
全学 共通科目	自然保護論	1・2前		2		○									兼1		
	生理学	1・2後		2		○									兼1		
	健康科学	1・2前・後		2		○									兼1		
	日本宗教論	3・4後		2		○									兼1		
	聖書学	3・4前・後		2		○									兼1		
	ヨーロッパ中世文学	3・4前・後		2		○									兼1		
	ミステリー文学	3・4前・後		2		○									兼1		
	児童文学	3・4前・後		2		○									兼1		
	ギリシア語とギリシア文化	3・4前		2		○									兼1		
	ラテン語とローマ文化	3・4後		2		○									兼1		
	イタリア語とイタリア文化	3・4前		2		○									兼1		
	スペイン語とスペイン文化	3・4前		2		○									兼1		
	ロシア語とロシア文化	3・4前		2		○									兼1		
	ファッション論	3・4前・後		2		○									兼2		
	ジェンダー論	3・4前・後		2		○									兼1		
	刑事法	3・4前		2		○									兼1		
	民事法	3・4前		2		○									兼1		
	労働法	3・4前		2		○									兼1		
	国際法	3・4後		2		○									兼1		
	国際社会論	3・4前		2		○									兼1		
	国際経済	3・4前・後		2		○									兼1		
	深層心理学	3・4前・後		2		○									兼1		
	精神病理学	3・4前・後		2		○									兼1		
	天文学	3・4前		2		○									兼1		
	建築環境論	3・4前・後		2		○									兼2		
	水産学	3・4前・後		2		○									兼1		
	河川海洋学	3・4前		2		○									兼1		
	農林科学	3・4後		2		○									兼1		
	公衆衛生論	3・4後		2		○									兼1		
	ネットワーク論	3・4前		2		○									兼1		
	小計(70科目)		—	0	140	0	—			1	0	0	0	0	0	兼64	—
	全学 専門科目	環境心理学	1・2前		2		○									兼1	
		コミュニティ心理学	1・2前		2		○									兼1	
教育原理		1・2前・後		2		○									兼1		
生涯学習概論		1・2前・後		2		○									兼1		
教育社会学		1・2前		2		○									兼1		
人間関係論		1・2前		2		○									兼1		
社会調査法		1・2後		2		○									兼1		
フィールドワーク方法論		1・2後		2		○									兼1		
現代ジャーナリズム論		1・2前・後		2		○									兼1		
イベント論		1・2前		2		○									兼1		
家族心理学		3・4前		2		○			1						兼1		
マーケティング心理学		3・4後		2		○									兼1		
教育学概論		3・4前・後		2		○									兼1		
近代家族論		3・4前・後		2		○									兼1		
男性学		3・4後		2		○									兼1		
マーケティングコミュニケーション		3・4前		2		○									兼1		
メディア環境論		3・4後		2		○									兼1		
プロダクトデザイン論	3・4後		2		○									兼1			
小計(18科目)		—	0	36	0	—			1	0	0	0	0	0	兼16	—	
社会 人形 成 科 目	花咲の教育とライフプラン・キャリアプラン	1前	2			○									兼1		
	パーソナリティを考える	1・2前		2		○									兼1		
	「自分らしさ」を探る	1・2後		2		○									兼1		
	対人関係のスキル	1・2前		2		○			1						兼1		
	ストレス・マネジメント	1・2前		2		○				1					兼1		
	職業人のルールとモラル	1・2後		2		○									兼1		
	産業と職業	1・2前		2		○									兼1		
	マスコミとの付き合い方	1・2後		2		○									兼1		
	ソーシャルマナー	1後	1					○							兼4		
	ビジネス文章表現演習	1・2前・後		1				○							兼1		
	ディベート演習	1・2前		1				○							兼1		
自己表現演習	1・2前・後		1				○							兼1			
プレゼンテーション演習	1・2前・後		1				○							兼1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
全学 共通 科目	キャリア基礎演習(グループワーク)	2前・後		1			○									兼1
	キャリア基礎演習(公務員・数的処理) I	1・2前		1			○									兼1
	キャリア基礎演習(公務員・数的処理) II	1・2後		1			○									兼1
	キャリア基礎演習(公務員・法律) I	1・2前		1			○									兼1
	キャリア基礎演習(公務員・法律) II	1・2後		1			○									兼1
	キャリア基礎演習(公務員・政治経済) I	1・2前		1			○									兼1
	キャリア基礎演習(公務員・政治経済) II	1・2後		1			○									兼1
	秘書技能演習	1・2前・後		1			○									兼1
	簿記会計基礎演習 I	1・2前		2			○									兼1
	簿記会計基礎演習 II	1・2後		2			○									兼1
	TOEIC特別演習 I	1・2前・後		1			○									兼2
	ボランティア実践A	1・2前・後		2					○							兼1
	日本語演習	3前・後		1			○									兼5
	キャリア演習(公務員・数的処理) I	3・4前		1			○									兼1
	キャリア演習(公務員・数的処理) II	3・4後		1			○									兼1
	キャリア演習(公務員・法律) I	3・4前		1			○									兼1
	キャリア演習(公務員・法律) II	3・4後		1			○									兼1
	キャリア演習(公務員・政治経済) I	3・4前		1			○									兼1
	キャリア演習(公務員・政治経済) II	3・4後		1			○									兼1
	簿記会計演習 I	3・4前		2			○									兼1
	簿記会計演習 II	3・4後		2			○									兼1
	ITパスポート演習 I	3・4前		1			○									兼1
	ITパスポート演習 II	3・4後		1			○									兼1
	TOEIC特別演習 II	3・4前・後		1			○									兼1
	イベント検定演習	3・4前・後		1			○									兼1
	ビジネス実務法務検定演習	3・4前・後		1			○									兼1
色彩検定演習	3・4前・後		1			○									兼2	
ボランティア実践B	3・4前・後		2					○							兼1	
小計(41科目)	—	—	3	52	0	—	—	—	1	1	0	0	0	0	兼33	—
体育 実技 科目	体育実技A	1・2前・後		1				○								兼1
	体育実技B	1・2前		1				○								兼1
	体育実技C	1・2前		1				○								兼1
	体育実技D	1・2後		1				○								兼1
	体育実技E(水泳)	1・2前		1				○								兼1
	体育実技F(水泳)	1・2前		1				○								兼1
	体育実技G	1・2前		1				○								兼1
	体育実技H	1・2後		1				○								兼1
小計(8科目)	—	—	0	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼3	—
総合 科目	総合科目(地域文化)	3・4前		2			○									兼2
	総合科目(地域社会)	3・4後		2			○									兼2
	総合科目(日本とアジア)	3・4前		2			○									兼2
	総合科目(国際政治)	3・4前		2			○									兼2
	総合科目(国際経済)	3・4前		2			○									兼2
	総合科目(現代社会)	3・4前		2			○									兼2
	総合科目(観光)	3・4後		2			○									兼2
	総合科目(芸術と社会)	3・4後		2			○									兼2
	総合科目(人間と自然)	3・4前		2			○									兼2
	総合科目(生活と環境)	3・4後		2			○									兼2
	総合科目(キャリア)	3・4前		2			○									兼2
小計(11科目)	—	—	0	22	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼21	—



科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総論	心理学概論	1前	2			○				1						
	臨床心理学概論	1後	2			○				1						
	心理学研究法	1・2前		2		○					1					兼1
	知覚・認知心理学	1・2前		2		○						1				兼1
	学習・言語心理学	1・2前		2		○						1				兼1
	発達心理学	1・2後		2		○										兼1
	社会・集団・家族心理学	1・2後		2		○										兼1
	心理学史	1・2後		2		○			1							
	教育・学校心理学	1・2前		2		○					1					
	健康教育概論	1・2後		2		○			1							
	人体の構造と機能及び疾病	1・2後		2		○			1							
小計(11科目)	—	4	18	0				2	2	2	0	0	兼2	—		
研究入門	心理学統計法	2前	2			○			1							
	小計(1科目)	—	2	0	0				1	0	0	0	0	兼0	—	
臨床心理学科専門科目 各論	神経・生理心理学	3・4前		2		○				1						兼1
	視覚と芸術の心理学	3・4後		2		○					1					兼1
	感情・人格心理学	3・4前		2		○					1					兼1
	言語心理学	3・4前		2		○						1				兼1
	思考心理学	3・4前		2		○							1			兼1
	道徳心理学	3・4後		2		○			1							
	青年期の発達心理学	3・4前		2		○			1							
	高齢者の心理学	3・4後		2		○					1					
	心理学的支援法	3・4前		2		○					1					
	力動論的アプローチ	3・4後		2		○										兼1
	認知行動療法	3・4後		2		○										兼1
	家族療法論	3・4後		2		○										兼1
	心理教育的アセスメント	3・4後		2		○			1							
	健康心理アセスメント	3・4前		2		○										兼1
	データ解析	3・4前・後		2		○										兼1
	実験計画法	3・4前・後		2		○										兼1
	公認心理師の職責	3・4後		2		○			1							
	関係行政論	3・4前		2		○										兼1
	臨床教育学	3・4前		2		○										兼1
	学校臨床心理学	3・4後		2		○			1							
	発達障害の心理と指導援助	3・4後		2		○										兼1
	キャリアカウンセリング	3・4後		2		○						1				
	健康・医療心理学	3・4前		2		○						1				
	健康心理カウンセリング	3・4後		2		○					1					
	福祉心理学	3・4後		2		○										兼1
	障害者(児)心理学	3・4前		2		○										兼1
	産業・組織心理学	3・4前		2		○										兼1
産業カウンセリング	3・4前		2		○			1								
司法・犯罪心理学	3・4後		2		○										兼1	
精神疾患とその治療	3・4前		2		○			1								
心身医学	3・4後		2		○										兼1	
子どもの心とからだ	3・4前		2		○										兼1	
小計(32科目)	—	0	64	0				5	2	1	0	0	兼15	—		
特殊演習	心理演習	3前		2			○		1		1					共同
	遊戯・芸術療法	3・4後		1			○		1							
	心理的アセスメント	3・4前		1			○			1						
小計(3科目)	—	0	4	0				2	1	1	0	0	兼0	—		
実習	心理学実験	2前・後	2					○	1							
	健康心理アセスメント実習	3・4前		2				○			1					
	心理実習A	3・4前		1				○	1	1						共同・集中
	心理実習B	3後		1				○	1		1					共同・集中
	心理実習C	3前		1				○	1		1					共同・集中
小計(5科目)	—	2	5	0				3	1	2	0	0	兼0	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨床心理学 演習	臨床心理学演習ⅠA	3前	1				○		6	2	2				
	臨床心理学演習ⅠB	3後	1				○		6	2	2				
	臨床心理学演習ⅡA	4前	1				○		6	2	2				
	臨床心理学演習ⅡB	4後	1				○		6	2	2				
	小計(4科目)	—	4	0	0		—		6	2	2	0	0	兼0	—
卒業論文・卒業研究 専門科目	卒業論文・卒業研究	4通	2				○		6	2	2				
	小計(1科目)	—	2	0	0		—		6	2	2	0	0	兼0	—
合計(282科目)		—	21	458	0		—		6	2	2	0	0	兼20	—
学位又は称号		学士(臨床心理学)			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p>授業科目を前期課程科目(1・2年次)と後期課程科目(3・4年次)に分けて、それぞれにおいて全学共通科目と学部専門科目を開設する。</p> <p>卒業に要する単位数は、全学共通科目と心理学部臨床心理学専攻科目をあわせて124単位以上修得する。</p> <p>前期課程から後期課程への進級に要する修得単位数は、62単位(全学共通科目42単位及び学部専門科目20単位)とする。</p> <p>(履修科目の登録上限:半期22単位)</p> <p>全学共通科目          &lt;前期課程&gt;          外国語科目16単位以上、情報処理科目2単位以上、導入科目2単位、教養科目10単位以上、社会人形成科目3単位以上を含む42単位以上を修得する。</p> <p>&lt;後期課程&gt;          教養科目4単位以上、社会人形成科目1単位以上を含む16単位以上を修得する。</p> <p>心理学部臨床心理学専攻科目          &lt;前期課程&gt;          総論12単位以上、研究入門2単位、実習2単位を含む20単位以上を修得する。</p> <p>&lt;後期課程&gt;          各論24単位以上、特殊演習及び実習から2単位以上、演習4単位、卒業論文・卒業研究2単位を含む46単位以上を修得する。</p>							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要

(心理学部臨床心理学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通科目	英語A I a	1前		2				○								兼4
	英語A I b	1前		2				○								兼3
	英語A II a	1後		2				○								兼3
	英語A II b	1後		2				○								兼2
	英語A III a	2前		2				○								兼3
	英語A III b	2前		2				○								兼3
	英語A IV a	2後		2				○								兼3
	英語A IV b	2後		2				○								兼1
	英語B I a	1前		2				○								兼1
	英語B I b	1前		2				○								兼1
	英語B II a	1後		2				○								兼1
	英語B II b	1後		2				○								兼1
	英語B III a	2前		2				○								兼2
	英語B III b	2前		2				○								兼2
	英語B IV a	2後		2				○								兼2
	英語B IV b	2後		2				○								兼2
	英語 I	1前		2				○								兼4
	英語 II	1後		2				○								兼2
	英語 III	2前		2				○								兼4
	英語 IV	2後		2				○								兼5
	フランス語 I	1前		2				○								兼2
	フランス語 II	1後		2				○								兼2
	フランス語 III	2前		2				○								兼5
	フランス語 IV	2後		2				○								兼5
	ドイツ語 I	1前		2				○								兼2
	ドイツ語 II	1後		2				○								兼2
	ドイツ語 III	2前		2				○								兼5
	ドイツ語 IV	2後		2				○								兼5
	中国語 I	1前		2				○								兼2
	中国語 II	1後		2				○								兼2
	中国語 III	2前		2				○								兼5
	中国語 IV	2後		2				○								兼5
	朝鮮・韓国語 I	1前		2				○								兼2
	朝鮮・韓国語 II	1後		2				○								兼2
	朝鮮・韓国語 III	2前		2				○								兼3
	朝鮮・韓国語 IV	2後		2				○								兼3
	英語マルチメディアレッスン	1・2前・後		1				○								兼1
	英語再入門A	1後・2前後		1				○								兼2
	英語再入門B	1後・2前後		1				○								兼2
	英語リーディング	2前		1				○								兼1
	英語ライティング	2後		1				○								兼1
	フランス語リーディング・ライティング	2後		1				○								兼1
	ドイツ語リーディング・ライティング	2後		1				○								兼1
	中国語リーディング・ライティング	2後		1				○								兼1
	朝鮮・韓国語リーディング・ライティング	2後		1				○								兼1
小計(45科目)		—	0	81	0			—	0	0	0	0	0		兼60	—
情報処理科目	情報リテラシー I	1前	1					○								兼2
	情報リテラシー II	1後	1					○								兼3
	画像処理基礎演習	1・2前		1				○								兼1
	Web制作	1・2前・後		1				○								兼2
	マルチメディア基礎演習(映像制作)	1・2前		1				○								兼1
	マルチメディア基礎演習(音楽制作)	1・2後		1				○								兼1
	Microsoft Office Specialist 基礎演習	1・2前・後		1				○								兼2
小計(7科目)		—	2	5	0			—	0	0	0	0	0		兼7	—
導入科目	プロゼミ I	1前	1					○	2	2	1					
	プロゼミ II	1後	1					○	4		1					
	小計(2科目)	—	2	0	0			—	6	2	2	0	0		兼0	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学 共通科目	文芸理論	1・2前・後		2		○										兼3
	歴史理論	1・2前・後		2		○										兼3
	言語科学	1・2前・後		2		○										兼1
	記号論	1・2後		2		○										兼1
	日本現代史	1・2後		2		○										兼1
	アジア現代史	1・2前		2		○										兼1
	ヨーロッパ現代史	1・2前・後		2		○										兼2
	日本文学	1・2前・後		2		○										兼2
	中国文学	1・2後		2		○										兼1
	英文学	1・2前		2		○										兼1
	ドイツ文学	1・2前・後		2		○										兼1
	フランス文学	1・2前・後		2		○										兼1
	ロシア文学	1・2前・後		2		○										兼1
	西洋古典文学	1・2前・後		2		○										兼1
	百人一首	1・2前・後		2		○										兼2
	異文化理解	1・2前		2		○										兼1
	地理学	1・2前		2		○										兼1
	社会学	1・2前・後		2		○										兼1
	国際関係論	1・2前		2		○										兼1
	ボランティア論	1・2前・後		2		○										兼1
	法学	1・2後		2		○										兼1
	日本国憲法	1・2前・後		2		○										兼1
	政治学	1・2後		2		○										兼1
	経済学	1・2前・後		2		○				1						兼1
	家政学	1・2後		2		○										兼1
	哲学	1・2前		2		○										兼1
	倫理学	1・2後		2		○										兼1
	論理学	1・2前		2		○										兼1
	認識論	1・2前・後		2		○										兼1
	心理学	1・2前・後		2		○										兼1
	教育学	1・2前・後		2		○										兼1
	保育学	1・2前・後		2		○										兼1
	統計学	1・2前		2		○										兼1
	科学史	1・2後		2		○										兼1
	情報科学	1・2前・後		2		○										兼1
	数学	1・2前		2		○										兼1
	物理学	1・2後		2		○										兼1
	地球科学	1・2前		2		○										兼1
	生物学	1・2前		2		○										兼1
	化学	1・2後		2		○										兼1
	自然保護論	1・2前		2		○										兼1
	生理学	1・2後		2		○										兼1
	健康科学	1・2前・後		2		○										兼1
小計(43科目)	—	—	0	86	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	兼40	—
共 通 専 門 科 目	環境心理学	1・2前		2		○										兼1
	コミュニティ心理学	1・2前		2		○										兼1
	教育原理	1・2前・後		2		○										兼1
	生涯学習概論	1・2前・後		2		○										兼1
	教育社会学	1・2前		2		○										兼1
	人間関係論	1・2前		2		○										兼1
	社会調査法	1・2後		2		○										兼1
	フィールドワーク方法論	1・2後		2		○										兼1
	現代ジャーナリズム論	1・2前・後		2		○										兼1
	イベント論	1・2前		2		○										兼1
小計(10科目)	—	—	0	20	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼9	—
社 会 人 形 成 科 目	花咲の教育とライフプラン・キャリアプラン	1前	2			○										兼1
	パーソナリティを考える	1・2前		2		○										兼1
	「自分らしさ」を探る	1・2後		2		○										兼1
	対人関係のスキル	1・2前		2		○			1							
	ストレス・マネジメント	1・2前		2		○				1						
	職業人のルールとモラル	1・2後		2		○										兼1
産業と職業	1・2前		2		○										兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
社会科学形成科目 全学共通科目	マスコミとの付き合い方	1・2後		2		○										兼1
	ソーシャルマナー	1後	1				○									兼4
	ビジネス文章表現演習	1・2前・後		1			○									兼1
	ディベート演習	1・2前		1			○									兼1
	自己表現演習	1・2前・後		1			○									兼1
	プレゼンテーション演習	1・2前・後		1			○									兼1
	キャリア基礎演習(グループワーク)	2前・後		1			○									兼1
	キャリア基礎演習(公務員・数的処理) I	1・2前		1			○									兼1
	キャリア基礎演習(公務員・数的処理) II	1・2後		1			○									兼1
	キャリア基礎演習(公務員・法律) I	1・2前		1			○									兼1
	キャリア基礎演習(公務員・法律) II	1・2後		1			○									兼1
	キャリア基礎演習(公務員・政治経済) I	1・2前		1			○									兼1
	キャリア基礎演習(公務員・政治経済) II	1・2後		1			○									兼1
	秘書技能演習	1・2前・後		1			○									兼1
	簿記会計基礎演習 I	1・2前		2			○									兼1
簿記会計基礎演習 II	1・2後		2			○									兼1	
TOEIC特別演習 I	1・2前・後		1			○									兼2	
ボランティア実践A	1・2前・後		2					○							兼1	
小計(25科目)	—		3	33	0	—	—	—	1	1	0	0	0	0	兼19	—
体育実技科目	体育実技A	1・2前・後		1				○								兼1
	体育実技B	1・2前		1				○								兼1
	体育実技C	1・2前		1				○								兼1
	体育実技D	1・2後		1				○								兼1
	体育実技E(水泳)	1・2前		1				○								兼1
	体育実技F(水泳)	1・2前		1				○								兼1
	体育実技G	1・2前		1				○								兼1
	体育実技H	1・2後		1				○								兼1
小計(8科目)	—		0	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼3	—
臨床心理学科専門科目	心理学概論	1前	2			○										
	臨床心理学概論	1後	2			○				1						
	心理学研究法	1・2前		2		○					1					兼1
	知覚・認知心理学	1・2前		2		○						1				
	学習・言語心理学	1・2前		2		○							1			
	発達心理学	1・2後		2		○										兼1
	社会・集団・家族心理学	1・2後		2		○										兼1
	心理学史	1・2後		2		○				1						
	教育・学校心理学	1・2前		2		○						1				
	健康教育概論	1・2後		2		○				1						
	人体の構造と機能及び疾病	1・2後		2		○				1						
小計(11科目)	—		4	18	0	—	—	—	2	2	2	0	0	0	兼2	—
研究入門	心理学統計法	2前	2			○				1						
	小計(1科目)	—		2	0	0	—	—	1	0	0	0	0	0	兼0	—
実習	心理学実験	2前・後	2					○		1						
	小計(1科目)	—		2	0	0	—	—	1	0	0	0	0	0	兼0	—
合計(153科目)		—		15	251	0	—	—	6	2	2	0	0	0	兼133	—
学位又は称号		学士(臨床心理学)			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
<p>授業科目を前期課程科目(1・2年次)と後期課程科目(3・4年次)に分けて、それぞれにおいて全学共通科目と学部専門科目を開設する。</p> <p>卒業に要する単位数は、全学共通科目と心理学部臨床心理学科専門科目をあわせて124単位以上修得する。</p> <p>前期課程から後期課程への進級に要する修得単位数は、62単位(全学共通科目42単位及び学部専門科目20単位)とする。</p> <p>(履修科目の登録上限:半期22単位)</p>						1学年の学期区分						2期				
<p>全学共通科目</p> <p>&lt;前期課程&gt;</p> <p>外国語科目16単位以上、情報処理科目2単位以上、導入科目2単位、教養科目10単位以上、社会人形成科目3単位以上を含む42単位以上を修得する。</p> <p>&lt;後期課程&gt;</p> <p>教養科目4単位以上、社会人形成科目1単位以上を含む16単位以上を修得する。</p>						1学期の授業期間						15週				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	心理学部臨床心理学科専門科目 <前期課程> 総論12単位以上、研究入門2単位、実習2単位を含む20単位以上を修得する。 <後期課程> 各論24単位以上、特殊演習及び実習から2単位以上、演習4単位、卒業論文・卒業研究2 単位を含む46単位以上を修得する。							1時限の授業時間						90分

(注)

- 1 学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には, 授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合, 大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は, この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて, 適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(心理学部臨床心理学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語科目	テーマで学ぶ英語(文化)Ⅰ	3・4前		1			○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(文化)Ⅱ	3・4後		1			○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(ビジネス)Ⅰ	3・4前		1			○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(ビジネス)Ⅱ	3・4後		1			○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(観光)Ⅰ	3・4前		1			○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(観光)Ⅱ	3・4後		1			○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(社会問題)Ⅰ	3・4前		1			○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(社会問題)Ⅱ	3・4後		1			○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(メディア)Ⅰ	3・4前		1			○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(メディア)Ⅱ	3・4後		1			○							兼1	
	フランス語上級Ⅰ	3・4前		1			○							兼1	
	フランス語上級Ⅱ	3・4後		1			○							兼1	
	ドイツ語上級Ⅰ	3・4前		1			○							兼1	
	ドイツ語上級Ⅱ	3・4後		1			○							兼1	
	中国語上級Ⅰ	3・4前		1			○							兼1	
	中国語上級Ⅱ	3・4後		1			○							兼1	
	朝鮮・韓国語上級Ⅰ	3・4前		1			○							兼1	
	朝鮮・韓国語上級Ⅱ	3・4後		1			○							兼1	
小計(18科目)		—	0	18	0		—		0	0	0	0	0	兼12	—
情報処理科目	コンピュータ・グラフィックス	3・4前		1			○							兼1	
	デジタル・アニメーション	3・4後		1			○							兼1	
	デジタル編集	3・4前		1			○							兼1	
	アプリケーション・プログラミング	3・4後		1			○							兼1	
	Microsoft Office Specialist 演習	3・4前・後		1			○							兼1	
小計(5科目)		—	0	5	0		—		0	0	0	0	0	兼4	—
全学共通科目	日本宗教論	3・4後		2			○							兼1	
	聖書学	3・4前・後		2			○							兼1	
	ヨーロッパ中世文学	3・4前・後		2			○							兼1	
	ミステリー文学	3・4前・後		2			○							兼1	
	児童文学	3・4前・後		2			○							兼1	
	ギリシア語とギリシア文化	3・4前		2			○							兼1	
	ラテン語とローマ文化	3・4後		2			○							兼1	
	イタリア語とイタリア文化	3・4前		2			○							兼1	
	スペイン語とスペイン文化	3・4前		2			○							兼1	
	ロシア語とロシア文化	3・4前		2			○							兼1	
	ファッション論	3・4前・後		2			○							兼2	
	ジェンダー論	3・4前・後		2			○							兼1	
	刑事法	3・4前		2			○							兼1	
	民事法	3・4前		2			○							兼1	
	労働法	3・4前		2			○							兼1	
	国際法	3・4後		2			○							兼1	
	国際社会論	3・4前		2			○							兼1	
	国際経済	3・4前・後		2			○							兼1	
	深層心理学	3・4前・後		2			○							兼1	
	精神病理学	3・4前・後		2			○							兼1	
	天文学	3・4前		2			○							兼1	
	建築環境論	3・4前・後		2			○							兼2	
	水産学	3・4前・後		2			○							兼1	
	河川海洋学	3・4前		2			○							兼1	
	農林科学	3・4後		2			○							兼1	
	公衆衛生論	3・4後		2			○							兼1	
	ネットワーク論	3・4前		2			○							兼1	
小計(27科目)		—	0	54	0		—		0	0	0	0	0	兼27	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通専門科目	家族心理学	3・4前		2		○			1							
	マーケティング心理学	3・4後		2		○										兼1
	教育学概論	3・4前・後		2		○										兼1
	近代家族論	3・4前・後		2		○										兼1
	男性学	3・4後		2		○										兼1
	マーケティングコミュニケーション	3・4前		2		○										兼1
	メディア環境論	3・4後		2		○										兼1
	プロダクトデザイン論	3・4後		2		○										兼1
小計(8科目)	—	0	16	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	0	兼7	—
社会人形成科目	日本語演習	3前・後		1			○									兼5
	キャリア演習(公務員・数的処理) I	3・4前		1			○									兼1
	キャリア演習(公務員・数的処理) II	3・4後		1			○									兼1
	キャリア演習(公務員・法律) I	3・4前		1			○									兼1
	キャリア演習(公務員・法律) II	3・4後		1			○									兼1
	キャリア演習(公務員・政治経済) I	3・4前		1			○									兼1
	キャリア演習(公務員・政治経済) II	3・4後		1			○									兼1
	簿記会計演習 I	3・4前		2			○									兼1
	簿記会計演習 II	3・4後		2			○									兼1
	ITパスポート演習 I	3・4前		1			○									兼1
	ITパスポート演習 II	3・4後		1			○									兼1
	TOEIC特別演習 II	3・4前・後		1			○									兼1
	イベント検定演習	3・4前・後		1			○									兼1
	ビジネス実務法務検定演習	3・4前・後		1			○									兼1
色彩検定演習	3・4前・後		1			○									兼2	
ボランティア実践B	3・4前・後		2				○								兼1	
小計(16科目)	—	0	19	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	兼16	—
総合科目	総合科目(地域文化)	3・4前		2		○										兼2
	総合科目(地域社会)	3・4後		2		○										兼2
	総合科目(日本とアジア)	3・4前		2		○										兼2
	総合科目(国際政治)	3・4前		2		○										兼2
	総合科目(国際経済)	3・4前		2		○										兼2
	総合科目(現代社会)	3・4前		2		○										兼2
	総合科目(観光)	3・4後		2		○										兼2
	総合科目(芸術と社会)	3・4後		2		○										兼2
	総合科目(人間と自然)	3・4前		2		○										兼2
	総合科目(生活と環境)	3・4後		2		○										兼2
総合科目(キャリア)	3・4前		2		○										兼2	
小計(11科目)	—	0	22	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	兼21	—
臨床心理学科専門科目	神経・生理心理学	3・4前		2		○										
	視覚と芸術の心理学	3・4後		2		○										兼1
	感情・人格心理学	3・4前		2		○				1						
	言語心理学	3・4前		2		○										兼1
	思考心理学	3・4前		2		○										兼1
	道徳心理学	3・4後		2		○			1							
	青年期の発達心理学	3・4前		2		○			1							
	高齢者の心理学	3・4後		2		○				1						
	心理学的支援法	3・4前		2		○				1						
	力動論的アプローチ	3・4後		2		○										兼1
	認知行動療法	3・4後		2		○										兼1
	家族療法論	3・4後		2		○										兼1
	心理教育的アセスメント	3・4後		2		○			1							
	健康心理アセスメント	3・4前		2		○										兼1
	データ解析	3・4前・後		2		○										兼1
	実験計画法	3・4前・後		2		○										兼1
	公認心理師の職責	3・4後		2		○			1							
	関係行政論	3・4前		2		○										兼1
	臨床教育学	3・4前		2		○										兼1
学校臨床心理学	3・4後		2		○			1								
発達障害の心理と指導援助	3・4後		2		○										兼1	
キャリアカウンセリング	3・4後		2		○						1					



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
臨床心理学専門科目	各論	健康・医療心理学	3・4前	2		○					1							
		健康心理カウンセリング	3・4後	2		○				1								
		福祉心理学	3・4後	2		○												兼1
		障害者(児)心理学	3・4前	2		○												兼1
		産業・組織心理学	3・4前	2		○												兼1
		産業カウンセリング	3・4前	2		○				1								
		司法・犯罪心理学	3・4後	2		○												兼1
		精神疾患とその治療	3・4前	2		○				1								
		心身医学	3・4後	2		○												兼1
		子どものころとからだ	3・4前	2		○												兼1
	小計(32科目)	—	0	64	0	—	—	—	5	2	1	0	0	兼15	—			
	特殊演習	心理演習	3前		2			○		1		1						共同
		遊戯・芸術療法	3・4後		1			○		1								
		心理的アセスメント	3・4前		1			○			1							
		小計(3科目)	—	0	4	0	—	—	2	1	1	0	0	兼0	—			
	実習	健康心理アセスメント実習	3・4前		2				○			1						共同・集中
		心理実習A	3・4前		1				○	1	1							共同・集中
		心理実習B	3後		1				○	1		1						共同・集中
		心理実習C	3前		1				○	1		1						共同・集中
小計(4科目)	—	0	5	0	—	—	3	1	2	0	0	兼0	—					
演習	臨床心理学演習ⅠA	3前	1				○		6	2	2							
	臨床心理学演習ⅠB	3後	1				○		6	2	2							
	臨床心理学演習ⅡA	4前	1				○		6	2	2							
	臨床心理学演習ⅡB	4後	1				○		6	2	2							
小計(4科目)	—	4	0	0	—	—	6	2	2	0	0	兼0	—					
卒業論文・卒業研究	卒業論文・卒業研究	4通	2				○		6	2	2							
	小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	6	2	2	0	0	兼0	—				
合計(129科目)		—	6	207	0	—	—	6	2	2	0	0	兼94	—				
学位又は称号	学士(臨床心理学)	学位又は学科の分野			文学関係													
卒業要件及び履修方法					授業期間等													
<p>授業科目を前期課程科目(1・2年次)と後期課程科目(3・4年次)に分けて、それぞれにおいて全学共通科目と学部専門科目を開設する。</p> <p>卒業に要する単位数は、全学共通科目と心理学部臨床心理学専門科目をあわせて124単位以上修得する。</p> <p>前期課程から後期課程への進級に要する修得単位数は、62単位(全学共通科目42単位及び学部専門科目20単位)とする。</p> <p>(履修科目の登録上限:半期22単位)</p> <p>全学共通科目</p> <p>&lt;前期課程&gt;</p> <p>外国語科目16単位以上、情報処理科目2単位以上、導入科目2単位、教養科目10単位以上、社会人形成科目3単位以上を含む42単位以上を修得する。</p> <p>&lt;後期課程&gt;</p> <p>教養科目4単位以上、社会人形成科目1単位以上を含む16単位以上を修得する。</p> <p>心理学部臨床心理学専門科目</p> <p>&lt;前期課程&gt;</p> <p>総論12単位以上、研究入門2単位、実習2単位を含む20単位以上を修得する。</p> <p>&lt;後期課程&gt;</p> <p>各論24単位以上、特殊演習及び実習から2単位以上、演習4単位、卒業論文・卒業研究2単位を含む46単位以上を修得する。</p>					1学年の学期区分	2期												
					1学期の授業期間	15週												
					1時限の授業時間	90分												

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部臨床心理学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
全学共通科目 外国語科目	英語A I a	1前		2				○							兼2
	英語A I b	1前		2				○							兼4
	英語A II a	1後		2				○							兼3
	英語A II b	1後		2				○							兼2
	英語A III a	2前		2				○							兼4
	英語A III b	2前		2				○							兼4
	英語A IV a	2後		2				○							兼3
	英語A IV b	2後		2				○							兼4
	英語B I a	1前		2				○							兼1
	英語B I b	1前		2				○							兼1
	英語B II a	1後		2				○							兼2
	英語B II b	1後		2				○							兼2
	英語B III a	2前		2				○							兼2
	英語B III b	2前		2				○							兼2
	英語B IV a	2後		2				○							兼2
	英語B IV b	2後		2				○							兼2
	英語 I	1前		2				○							兼5
	英語 II	1後		2				○							兼5
	英語 III	2前		2				○							兼8
	英語 IV	2後		2				○							兼8
	フランス語 I	1前		2				○							兼2
	フランス語 II	1後		2				○							兼2
	フランス語 III	2前		2				○							兼5
	フランス語 IV	2後		2				○							兼6
	ドイツ語 I	1前		2				○							兼2
	ドイツ語 II	1後		2				○							兼2
	ドイツ語 III	2前		2				○							兼5
	ドイツ語 IV	2後		2				○							兼5
	中国語 I	1前		2				○							兼2
	中国語 II	1後		2				○							兼2
	中国語 III	2前		2				○							兼5
	中国語 IV	2後		2				○							兼5
	朝鮮・韓国語 I	1前		2				○							兼1
	朝鮮・韓国語 II	1後		2				○							兼1
	朝鮮・韓国語 III	2前		2				○							兼4
	朝鮮・韓国語 IV	2後		2				○							兼4
	英語マルチメディアレッスン	1・2前・後		1				○							兼1
	英語再入門A	1後・2前後		1				○							兼2
	英語再入門B	1後・2前後		1				○							兼2
	英語リーディング	2前		1				○							兼1
	英語ライティング	2後		1				○							兼1
	フランス語リーディング・ライティング	2後		1				○							兼1
	ドイツ語リーディング・ライティング	2後		1				○							兼1
	中国語リーディング・ライティング	2後		1				○							兼1
	朝鮮・韓国語リーディング・ライティング	2後		1				○							兼1
	テーマで学ぶ英語(文化) I	3・4前		1				○							兼1
	テーマで学ぶ英語(文化) II	3・4後		1				○							兼1
	テーマで学ぶ英語(ビジネス) I	3・4前		1				○							兼1
	テーマで学ぶ英語(ビジネス) II	3・4後		1				○							兼1
	テーマで学ぶ英語(観光) I	3・4前		1				○							兼1
テーマで学ぶ英語(観光) II	3・4後		1				○							兼1	
テーマで学ぶ英語(社会問題) I	3・4前		1				○							兼1	
テーマで学ぶ英語(社会問題) II	3・4後		1				○							兼1	
テーマで学ぶ英語(メディア) I	3・4前		1				○							兼1	
テーマで学ぶ英語(メディア) II	3・4後		1				○							兼1	
フランス語上級 I	3・4前		1				○							兼1	
フランス語上級 II	3・4後		1				○							兼1	
ドイツ語上級 I	3・4前		1				○							兼1	
ドイツ語上級 II	3・4後		1				○							兼1	
中国語上級 I	3・4前		1				○							兼1	
中国語上級 II	3・4後		1				○							兼1	
朝鮮・韓国語上級 I	3・4前		1				○							兼1	
朝鮮・韓国語上級 II	3・4後		1				○							兼1	
小計(63科目)		—	0	99	0		—								兼79
															—

集中

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
情報処理科目	情報リテラシー I	1前	1				○								兼7
	情報リテラシー II	1後	1				○								兼7
	画像処理基礎演習	1・2前		1			○								兼1
	Web制作	1・2前・後		1			○								兼2
	マルチメディア基礎演習(映像制作)	1・2前		1			○								兼1
	マルチメディア基礎演習(音楽制作)	1・2前・後		1			○								兼2
	Microsoft Office Specialist 基礎演習	1・2前・後		1			○								兼2
	コンピュータ・グラフィックス	3・4前・後		1			○								兼1
	デジタル・アニメーション	3・4後		1			○								兼1
	デジタル編集	3・4前		1			○								兼1
	アプリケーション・プログラミング	3・4後		1			○								兼1
	Microsoft Office Specialist 演習	3・4前・後		1			○								兼1
小計(12科目)	—	—	2	10	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	兼13
導入科目	プロゼミ I	1前	1				○		2	1	1				
	プロゼミ II	1後	1				○		3		1				
	小計(2科目)	—	2	0	0	—	—	—	5	1	2				—
全学共通科目 教養科目	文芸理論	1・2前・後		2			○								兼3
	歴史理論	1・2前・後		2			○								兼3
	言語科学	1・2前・後		2			○								兼1
	記号論	1・2後		2			○								兼1
	日本現代史	1・2後		2			○								兼1
	アジア現代史	1・2前		2			○								兼1
	ヨーロッパ現代史	1・2前・後		2			○								兼2
	日本文学	1・2前・後		2			○								兼2
	中国文学	1・2後		2			○								兼1
	英文学	1・2前		2			○								兼1
	ドイツ文学	1・2前・後		2			○								兼1
	フランス文学	1・2前・後		2			○								兼1
	ロシア文学	1・2前・後		2			○								兼1
	西洋古典文学	1・2前・後		2			○								兼1
	百人一首	1・2前・後		2			○								兼2
	異文化理解	1・2前・後		2			○								兼2
	地理学	1・2前		2			○								兼1
	社会学	1・2前・後		2			○								兼1
	国際関係論	1・2前		2			○								兼1
	ボランティア論	1・2前・後		2			○								兼1
	法学	1・2後		2			○								兼1
	日本国憲法	1・2前・後		2			○								兼1
	政治学	1・2後		2			○								兼1
	経済学	1・2前・後		2			○								兼1
	家政学	1・2後		2			○								兼1
	哲学	1・2前		2			○								兼1
	倫理学	1・2後		2			○								兼1
	論理学	1・2前		2			○								兼1
	認識論	1・2前・後		2			○								兼1
	心理学	1・2前・後		2			○			1		1			兼1
	教育学	1・2前・後		2			○								兼1
	保育学	1・2前・後		2			○								兼1
	統計学	1・2前		2			○								兼1
	科学史	1・2後		2			○								兼1
	情報科学	1・2前・後		2			○								兼1
	数学	1・2前		2			○								兼1
	物理学	1・2後		2			○								兼1
	地球科学	1・2前		2			○								兼1
	生物学	1・2前		2			○								兼1
	化学	1・2後		2			○								兼1
自然保護論	1・2前		2			○								兼1	
生理学	1・2後		2			○								兼1	
健康科学	1・2前・後		2			○								兼1	

集中

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	日本宗教論	3・4後		2		○									兼1	
	聖書学	3・4前・後		2		○									兼1	
	ヨーロッパ中世文学	3・4前・後		2		○									兼1	
	ミステリー文学	3・4前・後		2		○									兼1	
	児童文学	3・4前・後		2		○									兼1	
	ギリシア語とギリシア文化	3・4前		2		○									兼1	
	ラテン語とローマ文化	3・4後		2		○									兼1	
	イタリア語とイタリア文化	3・4前		2		○									兼1	
	スペイン語とスペイン文化	3・4前		2		○									兼1	
	ロシア語とロシア文化	3・4前		2		○									兼1	
	ファッション論	3・4前・後		2		○									兼3	
	ジェンダー論	3・4前・後		2		○									兼1	
	刑事法	3・4前		2		○									兼1	
	民事法	3・4前		2		○									兼1	
	労働法	3・4前		2		○									兼1	
	国際法	3・4後		2		○									兼1	
	国際社会論	3・4前		2		○									兼1	
	国際経済	3・4前・後		2		○									兼1	
	深層心理学	3・4前・後		2		○									兼1	
	精神病理学	3・4前・後		2		○									兼1	
	天文学	3・4前		2		○									兼1	
建築環境論	3・4前・後		2		○									兼2		
水産学	3・4前・後		2		○									兼1		
河川海洋学	3・4前		2		○									兼1		
農林科学	3・4後		2		○									兼1		
公衆衛生論	3・4後		2		○									兼1		
ネットワーク論	3・4前		2		○									兼1		
小計(70科目)	—	—	0	140	0	—	—	—	1		1			兼67	—	
全学 共通科目	環境心理学	1・2前		2		○									兼1	
	コミュニティ心理学	1・2前		2		○									兼1	
	教育原理	1・2前・後		2		○									兼1	
	生涯学習概論	1・2前・後		2		○									兼1	
	教育社会学	1・2前		2		○									兼1	
	人間関係論	1・2前		2		○									兼1	
	社会調査法	1・2後		2		○									兼1	
	フィールドワーク方法論	1・2後		2		○									兼1	
	現代ジャーナリズム論	1・2前・後		2		○									兼1	
	イベント論	1・2前		2		○									兼1	
	家族心理学	3・4前		2		○				1						
	マーケティング心理学	3・4後		2		○									兼1	
	教育学概論	3・4前・後		2		○									兼1	
	近代家族論	3・4前・後		2		○									兼1	
	男性学	3・4後		2		○									兼1	
	マーケティングコミュニケーション	3・4前・後		2		○									兼2	
	メディア環境論	3・4後		2		○									兼1	
	プロダクトデザイン論	3・4前・後		2		○									兼1	
小計(18科目)	—	—	0	36	0	—	—	—	1					兼17	—	
社会 人形 成科 目	花咲の教育とライフプラン・キャリアプラン	1前	2			○									兼1	
	パーソナリティを考える	1・2前		2		○									兼1	
	「自分らしさ」を探る	1・2後		2		○									兼1	
	対人関係のスキル	1・2前		2		○			1							
	ストレス・マネジメント	1・2前		2		○			1							
	職業人のルールとモラル	1・2後		2		○									兼1	
	産業と職業	1・2前		2		○									兼1	
	マスコミとの付き合い方	1・2後		2		○									兼1	
	ソーシャルマナー	1後	1				○								兼5	
	ビジネス文章表現演習	1・2前・後		1			○								兼1	
	ディベート演習	1・2前		1			○								兼1	
	自己表現演習	1・2前・後		1			○								兼1	
	プレゼンテーション演習	1・2前・後		1			○								兼1	
キャリア基礎演習(グループワーク)	2前・後		1			○								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学 共通科目	キャリア基礎演習(公務員・数的処理) I	1・2前		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習(公務員・数的処理) II	1・2後		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習(公務員・法律) I	1・2前		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習(公務員・法律) II	1・2後		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習(公務員・政治経済) I	1・2前		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習(公務員・政治経済) II	1・2後		1			○								兼1	
	秘書技能演習	1・2前・後		1			○								兼1	
	簿記会計基礎演習 I	1・2前		2			○								兼1	
	簿記会計基礎演習 II	1・2後		2			○								兼1	
	TOEIC特別演習 I	1・2前・後		1			○								兼3	
	ボランティア実践A	1・2前・後		2					○						兼1	
	日本語演習	3前・後		1			○								兼5	
	キャリア演習(公務員・数的処理) I	3・4前		1			○								兼1	
	キャリア演習(公務員・数的処理) II	3・4後		1			○								兼1	
	キャリア演習(公務員・法律) I	3・4前		1			○								兼1	
	キャリア演習(公務員・法律) II	3・4後		1			○								兼1	
	キャリア演習(公務員・政治経済) I	3・4前		1			○								兼1	
	キャリア演習(公務員・政治経済) II	3・4後		1			○								兼1	
	簿記会計演習 I	3・4前		2			○								兼1	
	簿記会計演習 II	3・4後		2			○								兼1	
	ITパスポート演習 I	3・4前		1			○								兼1	
	ITパスポート演習 II	3・4後		1			○								兼1	
	TOEIC特別演習 II	3・4前・後		1			○								兼2	
	イベント検定演習	3・4前・後		1			○								兼1	
	ビジネス実務法務検定演習	3・4前・後		1			○								兼1	
	色彩検定演習	3・4前・後		1			○								兼2	
	ボランティア実践B	3・4前・後		2					○						兼1	
	小計(41科目)	—		3	52	0				2					兼36	—
	体育 実技科目	体育実技A	1・2前・後		1				○						兼1	
		体育実技B	1・2前・後		1				○						兼1	
		体育実技C	1・2前・後		1				○						兼1	
		体育実技D	1・2前・後		1				○						兼1	
		体育実技E(水泳)	1・2前		1				○						兼1	
		体育実技F(水泳)	1・2前		1				○						兼1	
		体育実技G	1・2前		1				○						兼1	
		体育実技H	1・2前・後		1				○						兼1	
	小計(8科目)	—		0	8	0								兼4	—	
	総合 科目	総合科目(地域文化)	3・4前		2			○							兼2	
		総合科目(地域社会)	3・4後		2			○							兼2	
		総合科目(日本とアジア)	3・4前		2			○							兼2	
		総合科目(国際政治)	3・4前		2			○							兼2	
総合科目(国際経済)		3・4前		2			○							兼2		
総合科目(現代社会)		3・4前		2			○							兼2		
総合科目(観光)		3・4後		2			○							兼2		
総合科目(芸術と社会)		3・4後		2			○							兼2		
総合科目(人間と自然)		3・4前		2			○							兼2		
総合科目(生活と環境)		3・4後		2			○							兼2		
総合科目(キャリア)	3・4前		2			○							兼2			
小計(11科目)	—		0	22	0				0	0	0	0	0	兼22	—	
文学部 共通 専攻 科目	英語実用文法	1・2前		2			○							兼1		
	レトリック概論	1・2後		2			○							兼1		
	言語学概論	1・2前		2			○							兼1		
	芸術論	1・2前		2			○							兼1		
	造形論	1・2前		2			○							兼1		
	色彩論	1・2前・後		2			○							兼2		
	装いの心理学	1・2前		2			○							兼1		
	化粧の心理学	1・2後		2			○							兼1		
	教育相談及びカウンセリング	1・2前・後		2			○			1						
	教育の方法及び技術の研究	1・2前・後		2			○								兼1	
	生徒指導及び進路指導	1・2前・後		2			○								兼2	
	図書館概論	1・2前・後		2			○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
文学部共通専門科目	演劇論	3・4後		2		○			1						兼1		
	言語哲学	3・4前		2		○										兼1	
	朗読法	3・4前・後		2		○										兼1	
	コミュニケーション心理学	3・4後		2		○											
	情報文化史	3・4前		2		○											
	色彩象徴論	3・4後		2		○											
	図書・図書館史	3・4後		2		○											
	小計(19科目)	—	0	38	0	—	—	—	2	0	0	0	0	0	兼15	—	
	芸術芸能実習(茶道)	1・2前・後		1				○								兼1	
	芸術芸能実習(華道)	1・2前・後		1				○								兼1	
芸術芸能実習(香道)	1・2前・後		1				○								兼1		
小計(3科目)	—	0	3	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼3	—		
演習	情報サービス演習A	3・4前・後		1			○								兼2		
小計(1科目)	—	0	1	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼2	—		
総論	心理学概論	1前	2			○			1								
	教育心理学	1前・後	2			○					1						
	人間の行動	2前	2			○					1						
	学校心理学概論	2前	2			○			1								
	臨床心理学	1・2前		2		○				1							
	発達心理学	1・2後		2		○									兼1		
	認知心理学	1・2前		2		○									兼1		
	社会心理学	1・2後		2		○									兼1		
	健康教育概論	1・2後		2		○					1						
	心理学史	1・2後		2		○			1								
	医学概論	1・2後		2		○			1								
小計(11科目)	—	8	14	0	—	—	—	4	1	2	0	0	0	兼2	—		
研究入門	心理統計	2前	2			○			1								
小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0		—		
実習	心理学基礎実験	2前・後	2					○	1								
小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0		—		
臨床心理学科専門科目	健康心理学	3・4前		2		○					1						
	視覚と芸術の心理学	3・4後		2		○									兼1	集中	
	思考心理学	3・4前		2		○									兼1		
	言語心理学	3・4前		2		○									兼1		
	道徳心理学	3・4後		2		○			1								
	産業心理学	3・4前		2		○									兼1		
	人格心理学	3・4前		2		○			1								
	高齢者の心理学	3・4後		2		○				1							
	犯罪心理学	3・4後		2		○									兼1	集中	
	データ解析	3・4前・後		2		○									兼1		
	実験計画法	3・4前・後		2		○									兼1		
	青年期の発達心理学	3・4前		2		○			1								
	学校臨床心理学	3・4後		2		○					1						
	キャリアカウンセリング	3・4後		2		○			1								
	臨床行政論	3・4後		2		○									兼1		
	障害児(者)の心理と行動	3・4前		2		○									兼1	集中	
	知的障害の心理と指導援助	3・4前		2		○									兼1		
	カウンセリング心理学	3・4後		2		○			1								
	家族療法論	3・4後		2		○									兼1		
	健康心理カウンセリング	3・4後		2		○				1							
	健康心理アセスメント	3・4前		2		○									兼1		
	心理教育的アセスメント	3・4後		2		○			1								
	認知カウンセリング	3・4後		2		○									兼1		
	LD、ADHDの心理と指導援助	3・4後		2		○									兼1	集中	
	精神医学	3・4前		2		○			1								
	医療・看護の心理学	3・4前		2		○									兼1		
	精神保健福祉論	3・4後		2		○									兼1		
	心身医学	3・4後		2		○									兼1		
	生理心理学	3・4前		2		○					1						
	臨床教育学	3・4前		2		○									兼1		
	職場のメンタルヘルス	3・4前		2		○									兼1		
	産業カウンセリング	3・4前		2		○			1								
小計(32科目)	—	0	64	0	—	—	—	6	1	1	0	0	0	兼16	—		
特殊演習	遊戯・芸術療法	3・4後		1				○	1								
心理査定法	3・4前		1					○		1							
小計(2科目)	—	0	2	0	—	—	—	1	1	0	0	0	0		—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨床心理学 専門科目	健康心理アセスメント実習	3・4後		2				○			1				共同 共同 共同 共同
	心理学臨地実習A	3前		1				○	2						
	心理学臨地実習B	3後		1				○	2						
	カウンセリング実習A	3前		1				○	1						
	カウンセリング実習B	3後		1				○	1						
	小計(5科目)	—	0	6	0			—	3	0	1	0	0		—
	臨床心理学演習ⅠA	3前	1					○	6	1	2				
	臨床心理学演習ⅠB	3後	1					○	6	1	2				
	臨床心理学演習ⅡA	4前	1					○	6	1	2				
	臨床心理学演習ⅡB	4後	1					○	6	1	2				
小計(4科目)	—	4	0	0			—	6	1	2	0	0		—	
卒業論文・卒業研究	4通	2					○	6	1	2					
小計(1科目)	—	2	0	0			—	6	1	2	0	0		—	
合計(305科目)		—	25	495	0			—	6	1	2	0	0	兼24名	—
学位又は称号		学士(臨床心理学)			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p>授業科目を前期課程科目(1・2年次)と後期課程科目(3・4年次)に分けて、それぞれにおいて全学共通科目と学部専門科目(学部共通専門科目、学科専門科目)を開設する。卒業に要する単位数は、全学共通科目と文学部共通専門科目、文学部臨床心理学専門科目をあわせて124単位以上修得する。前期課程から後期課程に進級に要する修得単位数は、62単位(全学共通科目42単位及び学部専門科目20単位)とする。(履修科目の登録上限:半期22単位)</p> <p>全学共通科目          &lt;前期課程&gt;          外国語科目16単位以上、情報処理科目2単位以上、導入科目2単位、教養科目10単位以上、社会人形成科目3単位以上を含む42単位以上を修得する。          &lt;後期課程&gt;          教養科目4単位以上、社会人形成科目1単位以上を含む16単位以上を修得する。</p> <p>文学部共通専門科目、臨床心理学専門科目          &lt;前期課程&gt;          総論8単位以上、研究入門2単位、実習2単位を含む20単位以上を修得する。          &lt;後期課程&gt;          各論、特殊演習、実習から26単位以上、演習4単位、卒業論文・卒業研究2単位を含む46単位以上を修得する。</p>							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要

(文学部臨床心理学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通科目	英語A I a	1前		2			○								兼2	
	英語A I b	1前		2			○								兼4	
	英語A II a	1後		2			○								兼3	
	英語A II b	1後		2			○								兼2	
	英語A III a	2前		2			○								兼4	
	英語A III b	2前		2			○								兼4	
	英語A IV a	2後		2			○								兼3	
	英語A IV b	2後		2			○								兼4	
	英語B I a	1前		2			○								兼1	
	英語B I b	1前		2			○								兼1	
	英語B II a	1後		2			○								兼2	
	英語B II b	1後		2			○								兼2	
	英語B III a	2前		2			○								兼2	
	英語B III b	2前		2			○								兼2	
	英語B IV a	2後		2			○								兼2	
	英語B IV b	2後		2			○								兼2	
	英語 I	1前		2			○								兼5	
	英語 II	1後		2			○								兼5	
	英語 III	2前		2			○								兼8	
	英語 IV	2後		2			○								兼8	
	フランス語 I	1前		2			○								兼2	
	フランス語 II	1後		2			○								兼2	
	フランス語 III	2前		2			○								兼5	
	フランス語 IV	2後		2			○								兼6	
	ドイツ語 I	1前		2			○								兼2	
	ドイツ語 II	1後		2			○								兼2	
	ドイツ語 III	2前		2			○								兼5	
	ドイツ語 IV	2後		2			○								兼5	
	中国語 I	1前		2			○								兼2	
	中国語 II	1後		2			○								兼2	
	中国語 III	2前		2			○								兼5	
	中国語 IV	2後		2			○								兼5	
	朝鮮・韓国語 I	1前		2			○								兼1	
	朝鮮・韓国語 II	1後		2			○								兼1	
	朝鮮・韓国語 III	2前		2			○								兼4	
	朝鮮・韓国語 IV	2後		2			○								兼4	
	英語マルチメディアレッスン	1・2前・後		1			○								兼1	
	英語再入門A	1後・2前後		1			○								兼2	
	英語再入門B	1後・2前後		1			○								兼2	
	英語リーディング	2前		1			○								兼1	
	英語ライティング	2後		1			○								兼1	
	フランス語リーディング・ライティング	2後		1			○								兼1	
	ドイツ語リーディング・ライティング	2後		1			○								兼1	
	中国語リーディング・ライティング	2後		1			○								兼1	
	朝鮮・韓国語リーディング・ライティング	2後		1			○								兼1	
小計(45科目)		—	0	81	0		—		0	0	0	0	0	0	兼71	—
情報処理科目	情報リテラシー I	1前	1				○								兼7	
	情報リテラシー II	1後	1				○								兼7	
	画像処理基礎演習	1・2前		1			○								兼1	
	Web制作	1・2前・後		1			○								兼2	
	マルチメディア基礎演習(映像制作)	1・2前		1			○								兼1	
	マルチメディア基礎演習(音楽制作)	1・2前・後		1			○								兼2	
	Microsoft Office Specialist 基礎演習	1・2前・後		1			○								兼2	
小計(7科目)		—	2	5	0		—		0	0	0	0	0	0	兼11	—



科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
導入科目	プロゼミⅠ	1前	1				○		2	1	1				
	プロゼミⅡ	1後	1				○		3		1				
	小計(2科目)	—	2	0	0	—			5	1	2	0	0		—
全学共通科目	文芸理論	1・2前・後		2		○									兼3
	歴史理論	1・2前・後		2		○									兼3
	言語科学	1・2前・後		2		○									兼1
	記号論	1・2後		2		○									兼1
	日本現代史	1・2後		2		○									兼1
	アジア現代史	1・2前		2		○									兼1
	ヨーロッパ現代史	1・2前・後		2		○									兼2
	日本文学	1・2前・後		2		○									兼2
	中国文学	1・2後		2		○									兼1
	英文学	1・2前		2		○									兼1
	ドイツ文学	1・2前・後		2		○									兼1
	フランス文学	1・2前・後		2		○									兼1
	ロシア文学	1・2前・後		2		○									兼1
	西洋古典文学	1・2前・後		2		○									兼1
	百人一首	1・2前・後		2		○									兼2
	異文化理解	1・2前・後		2		○									兼2
	地理学	1・2前		2		○									兼1
	社会学	1・2前・後		2		○									兼1
	国際関係論	1・2前		2		○									兼1
	ボランティア論	1・2前・後		2		○									兼1
	法学	1・2後		2		○									兼1
	日本国憲法	1・2前・後		2		○									兼1
	政治学	1・2後		2		○									兼1
	経済学	1・2前・後		2		○									兼1
	家政学	1・2後		2		○									兼1
	哲学	1・2前		2		○									兼1
	倫理学	1・2後		2		○									兼1
	論理学	1・2前		2		○									兼1
	認識論	1・2前・後		2		○									兼1
	心理学	1・2前・後		2		○			1		1				兼1
	教育学	1・2前・後		2		○									兼1
	保育学	1・2前・後		2		○									兼1
	統計学	1・2前		2		○									兼1
	科学史	1・2後		2		○									兼1
	情報科学	1・2前・後		2		○									兼1
	数学	1・2前		2		○									兼1
	物理学	1・2後		2		○									兼1
	地球科学	1・2前		2		○									兼1
	生物学	1・2前		2		○									兼1
	化学	1・2後		2		○									兼1
	自然保護論	1・2前		2		○									兼1
	生理学	1・2後		2		○									兼1
	健康科学	1・2前・後		2		○									兼1
小計(43科目)	—		0	86	0	—			1	0	1	0	0	兼44	—
共通専門科目	環境心理学	1・2前		2		○									兼1
	コミュニティ心理学	1・2前		2		○									兼1
	教育原理	1・2前・後		2		○									兼1
	生涯学習概論	1・2前・後		2		○									兼1
	教育社会学	1・2前		2		○									兼1
	人間関係論	1・2前		2		○									兼1
	社会調査法	1・2後		2		○									兼1
	フィールドワーク方法論	1・2後		2		○									兼1
	現代ジャーナリズム論	1・2前・後		2		○									兼1
	イベント論	1・2前		2		○									兼1
小計(10科目)	—		0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼9	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
全学共通科目	社会人形成科目	花嫁の教育とライフプラン・キャリアプラン	1前	2			○									兼1	
		パーソナリティを考える	1・2前		2			○								兼1	
		「自分らしさ」を探る	1・2後		2			○								兼1	
		対人関係のスキル	1・2前		2			○								兼1	
		ストレス・マネジメント	1・2前		2			○								兼1	
		職業人のルールとモラル	1・2後		2			○								兼1	
		産業と職業	1・2前		2			○								兼1	
		マスコミとの付き合い方	1・2後		2			○								兼1	
		ソーシャルマナー	1後	1												兼5	
		ビジネス文章表現演習	1・2前・後		1				○							兼1	
		ディベート演習	1・2前		1				○							兼1	
		自己表現演習	1・2前・後		1				○							兼1	
		プレゼンテーション演習	1・2前・後		1				○							兼1	
		キャリア基礎演習(グループワーク)	2前・後		1				○							兼1	
		キャリア基礎演習(公務員・数的処理)Ⅰ	1・2前		1				○							兼1	
		キャリア基礎演習(公務員・数的処理)Ⅱ	1・2後		1				○							兼1	
		キャリア基礎演習(公務員・法律)Ⅰ	1・2前		1				○							兼1	
		キャリア基礎演習(公務員・法律)Ⅱ	1・2後		1				○							兼1	
		キャリア基礎演習(公務員・政治経済)Ⅰ	1・2前		1				○							兼1	
		キャリア基礎演習(公務員・政治経済)Ⅱ	1・2後		1				○							兼1	
		秘書技能演習	1・2前・後		1				○							兼1	
		簿記会計基礎演習Ⅰ	1・2前		2				○							兼1	
		簿記会計基礎演習Ⅱ	1・2後		2				○							兼1	
TOEIC特別演習Ⅰ	1・2前・後		1				○							兼3			
ボランティア実践A	1・2前・後		2					○						兼1			
小計(25科目)	—		3	33	0		—		2	0	0	0	0	兼21	—		
全学共通科目	体育実技科目	体育実技A	1・2前・後		1										兼1		
		体育実技B	1・2前・後		1										兼1		
		体育実技C	1・2前・後		1										兼1		
		体育実技D	1・2前・後		1										兼1		
		体育実技E(水泳)	1・2前		1										兼1		
		体育実技F(水泳)	1・2前		1										兼1		
		体育実技G	1・2前		1										兼1		
		体育実技H	1・2前・後		1										兼1		
		小計(8科目)	—		0	8	0		—		0	0	0	0	0	兼4	—
文学部共通専門科目	講義	英語実用文法	1・2前		2			○							兼1		
		レトリック概論	1・2後		2			○							兼1		
		言語学概論	1・2前		2			○							兼1		
		芸術論	1・2前		2			○							兼1		
		造形論	1・2前		2			○							兼1		
		色彩論	1・2前・後		2			○							兼2		
		装いの心理学	1・2前		2			○							兼1		
		化粧の心理学	1・2後		2			○							兼1		
		教育相談及びカウンセリング	1・2前・後		2			○							兼1		
		教育の方法及び技術の研究	1・2前・後		2			○			1				兼1		
		生徒指導及び進路指導	1・2前・後		2			○							兼2		
		図書館概論	1・2前・後		2			○							兼1		
	小計(12科目)	—		0	24	0		—		1	0	0	0	0	兼12	—	
	文学部共通専門科目	実習	芸術芸能実習(茶道)	1・2前・後		1										兼1	
芸術芸能実習(華道)			1・2前・後		1										兼1		
芸術芸能実習(香道)			1・2前・後		1										兼1		
小計(3科目)	—		0	3	0		—		0	0	0	0	0	兼3	—		
臨床心理学科専門科目	総論	心理学概論	1前	2			○			1							
		教育心理学	1前・後	2			○					1					
		人間の行動	2前	2			○					1					
		学校心理学概論	2前	2			○			1							
		臨床心理学	1・2前		2		○				1					兼1	
		発達心理学	1・2後		2		○									兼1	
		認知心理学	1・2前		2		○									兼1	
		社会心理学	1・2後		2		○									兼1	
		健康教育概論	1・2後		2		○					1					
		心理学史	1・2後		2		○				1						
		医学概論	1・2後		2		○				1						
小計(11科目)	—		8	14	0		—		4	1	2	0	0	兼2	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨床心理学 研究入門	心理統計	2前	2			○			1						
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0		—
臨床心理学 実習	心理学基礎実験	2前・後	2					○	1						
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0		—
合計(168科目)		—	19	274	0	—			6	1	2	0	0	兼167	—
学位又は称号		学士(臨床心理学)			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>授業科目を前期課程科目(1・2年次)と後期課程科目(3・4年次)に分けて、それぞれにおいて全学共通科目と学部専門科目(学部共通専門科目、学科専門科目)を開設する。卒業に要する単位数は、全学共通科目と文学部共通専門科目、文学部臨床心理学専門科目をあわせて124単位以上修得する。前期課程から後期課程に進級に要する修得単位数は、62単位(全学共通科目42単位及び学部専門科目20単位)とする。(履修科目の登録上限:半期22単位)</p> <p>全学共通科目          &lt;前期課程&gt;          外国語科目16単位以上、情報処理科目2単位以上、導入科目2単位、教養科目10単位以上、社会人形成科目3単位以上を含む42単位以上を修得する。          &lt;後期課程&gt;          教養科目4単位以上、社会人形成科目1単位以上を含む16単位以上を修得する。</p> <p>文学部共通専門科目、臨床心理学専門科目          &lt;前期課程&gt;          総論8単位以上、研究入門2単位、実習2単位を含む20単位以上を修得する。          &lt;後期課程&gt;          各論、特殊演習、実習から26単位以上、演習4単位、卒業論文・卒業研究2単位を含む46単位以上を修得する。</p>						1学年の学期区分		2期							
						1学期の授業期間		15週							
						1時限の授業時間		90分							

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部臨床心理学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語科目	テーマで学ぶ英語(文化) I	3・4前		1			○							兼1	集中
	テーマで学ぶ英語(文化) II	3・4後		1			○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(ビジネス) I	3・4前		1			○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(ビジネス) II	3・4後		1			○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(観光) I	3・4前		1			○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(観光) II	3・4後		1			○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(社会問題) I	3・4前		1			○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(社会問題) II	3・4後		1			○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(メディア) I	3・4前		1			○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(メディア) II	3・4後		1			○							兼1	
	フランス語上級 I	3・4前		1			○							兼1	
	フランス語上級 II	3・4後		1			○							兼1	
	ドイツ語上級 I	3・4前		1			○							兼1	
	ドイツ語上級 II	3・4後		1			○							兼1	
	中国語上級 I	3・4前		1			○							兼1	
	中国語上級 II	3・4後		1			○							兼1	
	朝鮮・韓国語上級 I	3・4前		1			○							兼1	
	朝鮮・韓国語上級 II	3・4後		1			○							兼1	
小計(18科目)	—	0	18	0		—		0	0	0	0	0	0	兼12	—
情報処理科目	コンピュータ・グラフィックス	3・4前・後		1			○							兼1	—
	デジタル・アニメーション	3・4後		1			○							兼1	
	デジタル編集	3・4前		1			○							兼1	
	アプリケーション・プログラミング	3・4後		1			○							兼1	
	Microsoft Office Specialist 演習	3・4前・後		1			○							兼1	
小計(5科目)	—	0	5	0		—		0	0	0	0	0	0	兼4	—
全学共通科目	日本宗教学	3・4後		2			○							兼1	—
	聖書学	3・4前・後		2			○							兼1	
	ヨーロッパ中世文学	3・4前・後		2			○							兼1	
	ミステリー文学	3・4前・後		2			○							兼1	
	児童文学	3・4前・後		2			○							兼1	
	ギリシア語とギリシア文化	3・4前		2			○							兼1	
	ラテン語とローマ文化	3・4後		2			○							兼1	
	イタリア語とイタリア文化	3・4前		2			○							兼1	
	スペイン語とスペイン文化	3・4前		2			○							兼1	
	ロシア語とロシア文化	3・4前		2			○							兼1	
	ファッション論	3・4前・後		2			○							兼3	
	ジェンダー論	3・4前・後		2			○							兼1	
	刑法	3・4前		2			○							兼1	
	民法	3・4前		2			○							兼1	
	労働法	3・4前		2			○							兼1	
	国際法	3・4後		2			○							兼1	
	国際社会論	3・4前		2			○							兼1	
	国際経済	3・4前・後		2			○							兼1	
	深層心理学	3・4前・後		2			○							兼1	
	精神病理学	3・4前・後		2			○							兼1	
	天文学	3・4前		2			○							兼1	
	建築環境論	3・4前・後		2			○							兼2	
	水産学	3・4前・後		2			○							兼1	
	河川海洋学	3・4前		2			○							兼1	
	農林科学	3・4後		2			○							兼1	
	公衆衛生論	3・4後		2			○							兼1	
	ネットワーク論	3・4前		2			○							兼1	
小計(27科目)	—	0	54	0		—		0	0	0	0	0	0	兼28	—
共通専門科目	家族心理学	3・4前		2			○		1					兼1	—
	マーケティング心理学	3・4後		2			○							兼1	
	教育学概論	3・4前・後		2			○							兼1	
	近代家族論	3・4前・後		2			○							兼1	
	男性学	3・4後		2			○							兼1	
	マーケティングコミュニケーション	3・4前・後		2			○							兼2	
	メディア環境論	3・4後		2			○							兼1	
	プロダクトデザイン論	3・4前・後		2			○							兼1	
小計(8科目)	—	0	16	0		—		1	0	0	0	0	0	兼8	—
—	日本語演習	3前・後		1			○							兼5	—
	キャリア演習(公務員・教的処理) I	3・4前		1			○							兼1	
	キャリア演習(公務員・教的処理) II	3・4後		1			○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
全学共通科目	社会人形成科目	キャリア演習(公務員・法律) I		1			○									兼1			
		キャリア演習(公務員・法律) II		1			○										兼1		
		キャリア演習(公務員・政治経済) I		1			○										兼1		
		キャリア演習(公務員・政治経済) II		1			○										兼1		
		簿記会計演習 I		2			○										兼1		
		簿記会計演習 II		2			○										兼1		
		ITパスポート演習 I		1			○										兼1		
		ITパスポート演習 II		1			○										兼1		
		TOEIC特別演習 II		1			○										兼2		
		イベント検定演習		1			○										兼1		
		ビジネス実務法務検定演習		1			○										兼1		
		色彩検定演習		1			○										兼2		
		ボランティア実践B		2					○								兼1		
		小計(16科目)		—	0	19	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼17	—	
		全学共通科目	総合科目	総合科目(地域文化)		2			○									兼2	
				総合科目(地域社会)		2			○										兼2
総合科目(日本とアジア)				2			○										兼2		
総合科目(国際政治)				2			○										兼2		
総合科目(国際経済)				2			○										兼2		
総合科目(現代社会)				2			○										兼2		
総合科目(観光)				2			○										兼2		
総合科目(芸術と社会)				2			○										兼2		
総合科目(人間と自然)				2			○										兼2		
総合科目(生活と環境)				2			○										兼2		
総合科目(キャリア)				2			○										兼2		
小計(11科目)		—	0	22	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼22	—			
文学部共通専門科目	講義	演劇論		2			○									兼1			
		言語哲学		2			○									兼1			
		朗読法		2			○									兼1			
		コミュニケーション心理学		2			○			1									
		情報文化史		2			○									兼1			
		色彩象徴論		2			○									兼1			
		図書・図書館史		2			○									兼1			
	小計(7科目)		—	0	14	0	—	—	1	0	0	0	0	0	兼6	—			
文学部共通専門科目	演習	情報サービス演習A		1			○									兼2			
		小計(1科目)		—	0	1	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼2	—		
臨床心理学科専門科目	各論	健康心理学		2			○												
		視覚と芸術の心理学		2			○									兼1	集中		
		思考心理学		2			○									兼1			
		言語心理学		2			○									兼1			
		道徳心理学		2			○			1									
		産業心理学		2			○									兼1			
		人格心理学		2			○			1									
		高齢者の心理学		2			○												
		犯罪心理学		2			○									兼1	集中		
		データ解析		2			○									兼1			
		実験計画法		2			○									兼1			
		青年期の発達心理学		2			○			1									
		学校臨床心理学		2			○												
		キャリアカウンセリング		2			○			1									
		臨床行政論		2			○									兼1			
		障害児(者)の心理と行動		2			○									兼1	集中		
		知的障害の心理と指導援助		2			○									兼1			
		カウンセリング心理学		2			○			1									
		家族療法論		2			○									兼1			
		健康心理カウンセリング		2			○									兼1			
		健康心理アセスメント		2			○			1									
		心理教育的アセスメント		2			○												
		認知カウンセリング		2			○									兼1			
		LD、ADHDの心理と指導援助		2			○									兼1	集中		
		精神医学		2			○												
		医療・看護の心理学		2			○			1						兼1			
		精神保健福祉論		2			○									兼1			
		心身医学		2			○									兼1			
		生理心理学		2			○												
		臨床教育学		2			○									兼1			
		職場のメンタルヘルス		2			○									兼1			
		産業カウンセリング		2			○				1								
小計(32科目)		—	0	64	0	—	—	—	6	1	1	0	0	0	兼16	—			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨床心理学専門科目	特殊演習														
	遊戯・芸術療法	3・4後		1				○		1					
	心理査定法	3・4前		1				○			1				
	小計(2科目)	—	0	2	0			—		1	1	0	0	0	—
	実習														
	健康心理アセスメント実習	3・4後		2					○			1			
	心理学臨地実習A	3前		1					○	2					共同
	心理学臨地実習B	3後		1					○	2					共同
	カウンセリング実習A	3前		1					○	1		1			共同
	カウンセリング実習B	3後		1					○	1		1			共同
	小計(5科目)	—	0	6	0			—		3	0	1	0	0	—
	演習														
	臨床心理学演習ⅠA	3前	1					○		6	1	2			
	臨床心理学演習ⅠB	3後	1					○		6	1	2			
	臨床心理学演習ⅡA	4前	1					○		6	1	2			
臨床心理学演習ⅡB	4後	1					○		6	1	2				
小計(4科目)	—	4	0	0			—		6	1	2	0	0	—	
卒業論文・卒業研究	4通	2					○		6	1	2				
小計(1科目)	—	2	0	0			—		6	1	2	0	0	—	
合計(137科目)		—	6	221	0			—	6	1	2	0	0	兼109	—
学位又は称号		学士(臨床心理学)			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>授業科目を前期課程科目(1・2年次)と後期課程科目(3・4年次)に分けて、それぞれにおいて全学共通科目と学部専門科目(学部共通専門科目、学科専門科目)を開設する。卒業に要する単位数は、全学共通科目と文学部共通専門科目、文学部臨床心理学専門科目をあわせて124単位以上修得する。</p> <p>前期課程から後期課程に進級に要する修得単位数は、62単位(全学共通科目42単位及び学部専門科目20単位)とする。</p> <p>(履修科目の登録上限:半期22単位)</p> <p>全学共通科目          &lt;前期課程&gt;          外国語科目16単位以上、情報処理科目2単位以上、導入科目2単位、教養科目10単位以上、社会人形成科目3単位以上を含む42単位以上を修得する。          &lt;後期課程&gt;          教養科目4単位以上、社会人形成科目1単位以上を含む16単位以上を修得する。</p> <p>文学部共通専門科目、臨床心理学専門科目          &lt;前期課程&gt;          総論8単位以上、研究入門2単位、実習2単位を含む20単位以上を修得する。          &lt;後期課程&gt;          各論、特殊演習、実習から26単位以上、演習4単位、卒業論文・卒業研究2単位を含む46単位以上を修得する。</p>								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部臨床心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 外国語科目	英語A I a	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英語の基礎、特に音声英語への移行のための第一歩として、英語リスニングの入門、および、基礎固めを行う。短い基本的英語会話表現を聴き取り、内容を理解する活動を行いながら、その過程で出て来る基礎的な単語や語学的事項を確認する。それらの活動を通して、日常の短い基礎的な定番会話表現とその受け答えをマスターする。加えて、最低限のクラスルーム・イングリッシュに対応できるようにし、英語による短い自己紹介等もできるようにする。	
	英語A I b	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英語への移行の一環として、リーディングの基礎を固める。70語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、基礎的な語学的事項を確認するとともに付属のCDを活用するなどして、リスニングの活動も混ぜることで左から右へ戻らず英語を英語で読んで理解する方法に慣れる。また、題材である自然かつ簡潔な良質の文章を用いて、ディクテーション、暗誦、クローズ方式の活動等を取り入れることにより、基本的な英語作文能力の向上も図るなど、総合的英語コミュニケーション能力の向上にも目を配る。	
	英語A II a	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、英語A Iaを発展させて、少し発展的なダイアログのリスニング活動を行なうことにより、英語の会話の単発的な応答から、引き続き会話を続ける場合の表現や質疑応答の表現のパターンのレパートリーを増やす。その過程で、日常会話表現の表現や頻出英語表現のレパートリーを増やすとともに、自分の持つポキャブラリーを駆使して、意思疎通を行なう英語表現能力を向上させる。また、英語による少し長めの自己紹介と、それに関する質疑応答等の能力も向上させる。	
	英語A II b	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、100語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。その際、CDを活用するなどして、左から右へ、英語を英語で理解する訓練を行うが、A I b の場合より、読むスピードを上げることを意識しながら、活動に取り組む。また、題材の文章を用いて、ディクテーションやクローズ方式の活動等を取り入れることにより、英語作文能力や英語発話能力といった総合的英語コミュニケーション能力の向上にも目を配り、とりわけ、英語表現能力につながるポジティブ・ポキャブラリーを増やすことにも努める。	
	英語A III a	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、50語から80語程度の自然、かつ、簡潔な文体の英語のより自然なスピードの英語リスニング活動を行なうことにより、英語ダイアログから一歩進んだリスニングに取り組む。その過程において、聴き取った英語を書き取ったり、要点をメモしたりする活動を加えることにより、各自の簡潔かつ基本的なライティング能力、および、スピーキング能力の向上につなげる。とりわけ、聴き取った英語の内容を正確に理解し、その要点を自分のことばで伝える能力、すなわち、英語の客観的表現能力の向上に重点を置く。	
	英語A III b	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、200語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。その際、スピードを上げて、左から右へ英語を英語で理解する訓練を行う。また、ディクテーションやクローズ方式の活動等を取り入れて、ポジティブ・ポキャブラリーを増やすことで、英語作文能力や英語発話能力等の総合的英語コミュニケーション能力の向上にも取り組む。また、意味のわからない単語の意味をコンテキストから推量する活動にも重点を置くとともに、パッシブ・ポキャブラリーを増やすことにも努める。	
	英語A IV a	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ある程度のもつた長さの様々な状況における、より自然な文体の自然なスピードの英語リスニング活動を行うことにより、ある程度のもつた長さの英語のリスニングに取り組む。その過程において、聴き取った英語を書き取ったり、メモしたりする活動に加えて、その内容に関して、自分の意見を述べたり、質問したりする活動も行うことにより、ライティング能力やスピーキング能力の向上につなげる。客観的表現能力に加えて、とりわけ、内容に関する質問や自分の意見を表現する能力、すなわち、英語の主観的表現能力の向上にも重点を置く。	

全学共通科目	外国語科目	英語AIVb	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ある程度のまとまった長さの自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。その際、スピードを上げて、英語で英語を理解し、単語の意味をコンテキストから推量する訓練を発展的に継続するとともに、文単位ではなく、文章全体の流れやパラグラフのまとまり単位での内容理解を意識して活動を行う。また、題材の文章中のポジティブ・ボキャブラリーを使っての総合的英語コミュニケーション能力の向上に取り組むとともに、パッシブ・ボキャブラリーのさらなる増強にも継続的に取り組む。	
		英語B I a	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英語の基礎、特に音声英語への移行のための第一歩として、英語リスニングの入門、および、基礎固めを行う。まず、ベルリッツ方式の全て英語で行なわれるネイティブ・スピーカーの授業に慣れるところから始める。英語での挨拶や自己紹介といった基礎から始め、活動の指示などのクラスルーム・イングリッシュも含めての英語リスニングの基礎を固め、ネイティブ・スピーカーの教員との短い基本的コミュニケーションを重ねることで、各自が自分の英語コミュニケーション能力に対する不安を払拭し、自信を深めてもらう。	
		英語B I b	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英語への移行の一環として、リーディングの基礎を固める。まず、全て英語で行われるベルリッツ方式のネイティブ・スピーカーの授業に慣れ、クラスルーム・イングリッシュの理解の徹底をはかる。70語程度の自然かつ簡潔な英語の文章を題材にして、基礎的な語学的事項の確認を行なうとともに、ネイティブ・スピーカーの英語による説明を理解し、英語による質問に英語で答える活動等を通して、基本的英語作文能力や基本的英語発話能力を含めた総合的英語コミュニケーション能力の向上にも目を配る。	
		英語B II a	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ベルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行われる指導のもと、少し発展的なダイアローグのリスニング活動を行なうことによって、英語の会話の単発的な対応から、引き続き会話を続ける場合の表現や質疑応答の表現のパターンレパートリーを増やす。その過程で、日常会話表現の表現や頻出英語表現のレパートリーを増やすとともに、自分の持つボキャブラリーを駆使して、意思疎通を行なう英語表現能力を向上させる。また、英語による少し長めの自己紹介と、それに関する質疑応答等の能力も向上させる。	
		英語B II b	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ベルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行われる指導のもと、100語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。その際、左から右へ、英語を英語で理解する訓練を行なうが、Albの場合より、読むスピードを上げることを意識しながら、活動に取り組む。ネイティブ・スピーカーの英語による説明を理解し、英語による質問に英語で答える活動等を通して、基本的英語作文能力や基本的英語発話能力を含めた総合的英語コミュニケーション能力の向上にも目を配る。とりわけ、英語表現能力につながるポジティブ・ボキャブラリーを増やすことにも努める。	
		英語B III a	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ベルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行われる指導のもと、50語から80語程度の自然、かつ、簡潔な文体の英語のより自然なスピードの英語リスニング活動を行うことにより、英語ダイアローグから一歩進んだリスニングに取り組む。その過程において、聴き取った英語を書き取ったり、要点をメモしたりする活動を加えることにより、各自の簡潔かつ基本的なライティング能力、および、スピーキング能力の向上につながる。とりわけ、聴き取った英語の内容を正確に理解し、その要点を自分のことばで伝える能力、すなわち、英語の客観的表現能力の向上に重点を置く。	
		英語B III b	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ベルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行われる指導のもと、200語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。ネイティブ・スピーカーの英語による説明を理解し、英語による質問に英語で答える活動を通して、ポジティブ・ボキャブラリーを増やし、英語作文能力や英語発話能力等の総合的英語コミュニケーション能力の向上にも取り組む。また、意味のわからない単語の意味をコンテキストから推量する活動にも重点を置くとともに、パッシブ・ボキャブラリーを増やすことにも努める。	
		英語B IV a	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ベルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行われる指導のもと、ある程度の長さの様々な状況における、より自然な文体の自然なスピードの英語リスニング活動を行なうことにより、ある程度のまとまった長さの英語のリスニングに取り組む。その過程において、聴き取った英語を書き取ったり、メモしたりする活動に加えて、その内容に関して、自分の意見を述べたり、質問したりする活動も行なうことにより、ライティング能力やスピーキング能力の向上にもつながる。客観的表現能力に加えて、英語の主観的表現能力の向上にも重点を置く。	



全学共通科目	外国語科目	英語BIVb	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ペルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行われる指導のもと、ある程度のまとまった長さの自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。スピードを上げて、英語で英語を理解し、語の意味をコンテキストから推量する訓練を発展的に継続するとともに、文単位ではなく、文章全体の流れやパラグラフのまとまり単位での内容理解を意識して活動を行なう。また、ポジティブ・ボキャブラリーを使っての総合的英語コミュニケーション能力の向上に取り組むとともに、パッセージ・ボキャブラリーのさらなる増強にも継続的に取り組む。	
		英語 I	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英語の基礎、特に音声英語への移行のための第一歩として、短かめのダイアログ等を題材として、リスニングの入門および基礎固めを行うとともに、文単位の理解を確認・徹底することにより、リーディングにつながる基礎力も固める。それらの活動を通して、最低限の短い日常会話表現のスピーキングをマスターし、同時に簡潔な基本的英文の読解・理解力、簡潔な基本的英文のライティング力を身につける。加えて、最低限のクラスルーム・イングリッシュに対応出来るようにし、また、英語による短い自己紹介等も出来るようにする。	
		英語 II	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英語への移行の一環として、リーディングの基礎を固める。70語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、基礎的な語学的事項を確認するとともにテキスト付属のCDを活用するなどして、リスニングの活動も混ぜることで左から右へ戻らず英語を英語で読んで理解する方法に慣れる。また、題材である自然かつ簡潔な良質の文章を用いて、ディクテーション、暗誦、クローズ方式の活動等を取り入れることにより、総合的英語コミュニケーション能力の向上にも目を配る。	
		英語 III	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、少し発展的なダイアログや50語程度の英語のリスニング活動を行いながら、ダイアログや文章の流れを意識しながら英語の理解を徹底することにより、英語リーディング能力の向上にもつなげる。英語の会話の単発的な応対から、引き続き会話を続ける場合の表現や質疑応答の表現のバリエーションを増やす。自分の持つボキャブラリーを駆使して、意思疎通を行なう英語表現能力を向上させる活動を通して、総合的英語コミュニケーション能力を向上させる。また、英語による少し長めの自己紹介とそれに関する質疑応答等も出来るようにする。	
		英語 IV	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、200語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進めながら、テキスト付属のCD等を活用したりすることによって、リスニング活動も並行して行なう。その際、ディクテーションやクローズ方式の活動等を取り入れて、ポジティブ・ボキャブラリーを増やすことで、英語作文能力や英語発話能力等の総合的英語コミュニケーション能力の向上にも取り組む。また、意味のわからない語の意味をコンテキストから推量する活動にも重点を置くとともに、パッセージ・ボキャブラリーを増やすことにも努める。	
		フランス語 I	演習。週2回、計30回の授業を行う。この授業では、フランス語が楽しく親しみやすい外国語であることを実感してもらうために、フランス語の入門として初歩から手ほどきをする。フランス語の発音、読み方の概略を学び、その後にフランス語の構造を理解するために、フランス語特有の名詞の性と数、冠詞や形容詞の一致などの文法事項を学習する。さらに基本的な動詞を活用して日常的な言葉を学修し、ごく簡単な日常会話表現を通じてフランス語の語句や言い回しを少しずつ修得していく。	
		フランス語 II	演習。週2回、計30回の授業を行う。この授業では、「フランス語 I」に続いてフランス語の基礎を固めることを主眼としている。「フランス語 I」で学んだ基本的な事柄から内容的にも一段上の段階に進んで、種々の代名詞や、日常会話には不可欠な命令法などの動詞の法を学修する。さらに、日本語とは異質な多岐にわたるフランス語の時の観念を知る第一歩として、未来や複合過去形などの初歩的な時制を学修する。あわせてコミュニケーション能力の向上をはかるために、リスニング及びオーラルの総合的な訓練を行う。	
		フランス語 III	演習。週2回、計30回の授業を行う。この授業では、コミュニケーション能力を向上させるために、日常会話表現力の養成をはかる。「フランス語 I・II」で学んだ授業内容を土台にして、表現の練習による会話力を養うと同時に、フランス語の読解力を身につけるようにして、さらなるフランス語運用能力のレベルアップを目指す。一年次に学んだフランス語を復習しながら、フランス語を総合的に理解するために、フランス語の初歩段階から一段上に進んだ文法事項を学修する。	

全学共通科目	外国語科目	フランス語Ⅳ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。この授業では、「フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で学修した内容を踏まえて、フランス語の基礎的な学力の最終段階の仕上げとして、フランス人とのコミュニケーションをはかるのに最低限度必要な実践的なスキルの確立を目的とする。フランス語の総合的な運用力の育成には欠かすことのできない条件法や接続法などの高度な時制まで学修する。フランス語学習の到達度を知るために、基礎的なフランス語学習の最終段階の指針として、仏検3級程度の合格を目指す。</p>	
		ドイツ語Ⅰ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。対象は、初めてドイツ語を学ぶ1年次学生とする。目標は、ごく簡単な表現を理解して、名前や年齢を伝えられるぐらいの、ドイツ語運用能力の習得とする。内容は、週2回の授業で、一方を「コミュニケーション練習」、もう一方を「文法練習」とする。「コミュニケーション練習」では、日常的な語彙・表現による練習を行い、ドイツ語の基礎的な運用能力の習得をめざす。「文法練習」では、ドイツ語の初歩的な文法規則の習得をめざす。学習上の位置づけとしては、初めて学ぶ「ドイツ語」について、ドイツ語学習の基礎固めをするものとする。なお、ドイツ語の言語的文化的背景の紹介も適宜織り交ぜつつ授業を進める。</p>	
		ドイツ語Ⅱ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。対象は、ドイツ語Ⅰを1セメスター以上受講した1年次学生とする。目標は、ドイツ語Ⅲと合わせて日常の簡単な表現を理解して、基本的なやりとりができるぐらいの、ドイツ語運用能力の習得とする。内容は、週2回の授業で、一方を「コミュニケーション練習」、もう一方を「文法練習」とする。「コミュニケーション練習」では、日常的な語彙・表現による実用を想定した練習を行い、ドイツ語の基礎的な運用能力の習得をめざす。「文法練習」では、引き続きドイツ語の初歩的な文法規則の習得をめざす。学習上の位置づけとしては、ドイツ語学習の初歩的な段階の知識の定着を図るものとする。なお、引き続きドイツ語の言語的文化的背景の紹介も適宜織り交ぜつつ授業を進める。</p>	
		ドイツ語Ⅲ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。対象は、ドイツ語Ⅱを1セメスター以上受講した2年次学生とする。目標は、ドイツ語Ⅱから引き続き、日常の簡単な表現を理解して、基本的なやりとりができるぐらいの、ドイツ語運用能力の習得とする。内容は、週2回の授業で、文法やコミュニケーションの基礎的な事項の整理、および読解・文章表現・リスニング・状況別コミュニケーション練習とする。学習上の位置づけとしては、学習者本人による問題解決能力の習得を図るものとする。なお、ドイツ語の言語的文化的トピックの紹介も適宜織り交ぜつつ授業を進める。</p>	
		ドイツ語Ⅳ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。対象は、ドイツ語Ⅲを1セメスター以上受講した2年次学生とする。目標は、日常の基本表現を理解して、簡単なやりとりができるぐらいの、ドイツ語運用能力の習得とする。内容は、週2回の授業で、文法やコミュニケーションの基礎的な事項の整理、および読解・文章表現・リスニング・状況別コミュニケーション練習とする。学習上の位置づけとしては、引き続き学習者本人による問題解決能力の習得を図るものとする。やはり、ドイツ語の言語的文化的トピックの紹介も適宜織り交ぜつつ授業を進める。</p>	
		中国語Ⅰ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。中国語学習の基礎固め、特に前半は初級中国語学習の要である発音の完全習得を目指す。後半は、それと並行してごく基本的な文法や表現に関して知識を得、運用練習を行う。これらのことを段階的に積み上げ、次の学期への展開へとつなげていく。授業においては、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。</p>	
		中国語Ⅱ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。「中国語Ⅰ」で固めた発音を中心とする基礎の上に、文法や表現に関する知識を拡大し、運用能力を発展させる。最終的にはこの授業の終わり時点で、初級中国語の「読む・書く・聞く・話す」能力の基本ができていることを目指す。また、「中国語Ⅰ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。</p>	
		中国語Ⅲ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」で習得した基本的な知識や中国語運用を活用して、具体的に内容のある文章の読解や会話などが行えるようになることを目指す。初級中国語の「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力をさらに強化する。また、「中国語Ⅰ・Ⅱ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。</p>	

全学共通科目	外国語科目	中国語Ⅳ	演習。週2回、計30回の授業を行う。基本的には「中国語Ⅲ」の路線をさらに発展させて総合的な力を養わせつつ、自習方法などについても助言を行い、例えば検定受験を目指すなど、具体的な目標をもたせて、その後の継続的な学習につなげる。また、「中国語Ⅲ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。	
		朝鮮・韓国語Ⅰ	演習。週2回、計30回の授業を行う。朝鮮・韓国語学習の基礎固め、特に前半は初級朝鮮・韓国語学習の要であるハングル(文字)および発音の完全習得を目指す。後半は、それと並行してごく基本的な文法や表現に關して知識を得、運用練習を行う。これらのことを段階的に積み上げ、次の学期への展開へとつなげていく。授業においては、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。	
		朝鮮・韓国語Ⅱ	演習。週2回、計30回の授業を行う。「朝鮮・韓国語Ⅰ」で固めた発音を中心とする基礎の上に、文法や表現に関する知識を拡大し、運用能力を発展させる。最終的にはこの授業の終わり時点で、初級朝鮮・韓国語の「読む・書く・聞く・話す」能力の基本ができていることを目指す。また、「朝鮮・韓国語Ⅰ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。	
		朝鮮・韓国語Ⅲ	演習。週2回、計30回の授業を行う。「朝鮮・韓国語Ⅰ」「朝鮮・韓国語Ⅱ」で習得した基本的な知識や朝鮮・韓国語運用を活用して、具体的に内容のある文章の読解や会話などが行えるようになることを目指す。初級朝鮮・韓国語の「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力をさらに強化する。また、「朝鮮・韓国語Ⅰ・Ⅱ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。	
		朝鮮・韓国語Ⅳ	演習。週2回、計30回の授業を行う。基本的には「朝鮮・韓国語Ⅲ」の路線をさらに発展させて総合的な力を養わせつつ、自習方法などについても助言を行い、例えば検定受験を目指すなど、具体的な目標をもたせて、その後の継続的な学習につなげる。また、「朝鮮・韓国語Ⅲ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。	
		英語マルチメディアレッスン	演習。コンピューター学習教材を用いた、履修生の自主的な英語学習を重視する授業。履修生は自分のペースで学習を進め、すでに学んだ英語語彙・語法・英文法の知識が定着しているかを確認し、それをより高いレベルへと発展させることを目指す。担当教員の指導を受けながら、履修生は各自の英語習得レベルにあった内容から学習を始め、実践的な英語力を段階的に伸ばしていく。	
		英語再入門A	演習。大学の英語授業は中学校・高等学校の英語授業で学んだことを土台としており、大学で新たに学ぶ文法知識は極めて少ない。したがって、大学入学以前に学んだこと、特に実際のコミュニケーションと結びついた実践的な文法知識をしっかり身に付けておかねばならない。この授業では、英語の文の意味理解および生成の土台となる、基礎的な文法(語のしくみ、文のしくみ、数詞、進行形、完了形、受動態、比較級、不定詞・動名詞、接続詞、関係詞等)を英語が実際に使用される状況と結びつけて学び直し、英語への苦手意識を克服し、英語による受信・発信能力を向上させることを目的とする。	
		英語再入門B	演習。辞書の活用方法、文章の分析方法、多読方法を学び、自律した英語学習者になるための能力を身に付けることが本授業の目的である。いきなり漫然と辞書に頼るのではなく、文脈から意味を類推し、どの語の意味が分かれば文章の意味が把握できるのかを意識し読み進める。また文章の音読練習を通して発音やイントネーションで気をつけるべきことも学ぶ。辞書を使って短めでまとまりのある英文を読み、つまずきやすい部分を教員が解説する。辞書を使えばある程度の英文を理解できるという自信を身につけてもらう。	

全学共通科目	外国語科目	英語リーディング	演習。この授業では、履修生が身近に感じる事柄を扱った新聞や雑誌の記事やエッセイ風の読み物を、文法訳読方式にできるだけ依存せずに、英語を母語とする人々の発想法にできるだけ沿った形で多読する練習を行う。トピック・センテンスなど英語のパラグラフの構成要素を意識して英語の文章の型と展開の仕方を学び、自分が英文を書く際にも役立てられるようにする。	
		英語ライティング	演習。この授業では、和文英訳を行うのではなく自由英作文を書く。まず、基本的な語彙と文法の知識とを復習し、それを使って易しい文章をパラグラフ単位で書いてみる。次に、描写文や意見文など英語で書かれた文章をモデルとして、もう少し多くの語彙や構文を用いて書く練習をする。内容的には、最初は身近な内容を主観的に述べることから始め、最終的には、抽象的な内容を客観的に論じられるようにする。	
		フランス語リーディング・ライティング	演習。「フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」が「聞く・話す」に重点を置くのに対して、本演習は「読む・書く」に重点を置く。インターネット上の記事を読み、電子メール等で用いる簡単なフランス語の文章が書けるようになることを目標とする。この目標のため、初級文法を復習しつつ、「フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では十分に扱うことのできない中級レベルの文法事項を学修する。	
		ドイツ語リーディング・ライティング	演習。「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」が「聞く・話す」に重点を置くのに対して、本演習は「読む・書く」に重点を置く。リーディング・ライティング能力を習得するために、現代ドイツ語圏社会における様々な言語資料(郵便局や銀行、駅や空港、役所や学校、さらに各種の店における動画などの会話資料、Webページや印刷された資料)を用いて授業を進める。また、リーディング・ライティング能力の習得を効果的に促すために、リスニング練習・スピーキング練習を適宜導入する。	
		中国語リーディング・ライティング	演習。「中国語Ⅲ」「中国語Ⅳ」に飽き足らない学生の向学心や個人的な関心に合わせ、さらに進んだレベルの内容を扱う。文法、語彙や表現方法の着実なレベルアップを目指し、多くの運用練習などを通じて実用化を図る。内容的にも中国文化に関する基本的な知識から社会的時事的な話題をもとりあげ、今日的なニーズに広く対応できるようにする。学習者の希望に応じて、検定受験や短期留学研修の状況を紹介するなど、自主学習の様々な方法についてもアドバイスをを行い、将来的な継続学習に繋げる。	
		朝鮮・韓国語リーディング・ライティング	演習。「朝鮮・韓国語Ⅲ」「朝鮮・韓国語Ⅳ」に飽き足らない学生の向学心や個人的な関心に合わせ、さらに進んだレベルの内容を扱う。文法、語彙や表現方法の着実なレベルアップを目指し、多くの運用練習などを通じて実用化を図る。内容的にも朝鮮・韓国文化に関する基本的な知識から社会的時事的な話題をもとりあげ、今日的なニーズに広く対応できるようにする。学習者の希望に応じて、検定受験や短期留学研修の状況を紹介するなど、自主学習の様々な方法についてもアドバイスをを行い、将来的な継続学習に繋げる。	
		テーマで学ぶ英語(文化)Ⅰ	演習。この授業は、文化に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。英語圏をはじめとして、日本も含む様々な国々や文化圏を扱う地域研究的な意味の文化、ポピュラーカルチャー的な文化、複数の文化を比較する比較文化、異文化を体験することによるカルチャー・ショック等の様々な文化からテーマを設定し、それに関して、英語で調べたりすることによって、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる入門的な授業である。	
		テーマで学ぶ英語(文化)Ⅱ	演習。この授業は、文化に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。英語圏をはじめとして、日本も含む様々な国々や文化圏を扱う地域研究的な意味の文化、ポピュラーカルチャー的な文化、複数の文化を比較する比較文化、異文化を体験することによるカルチャー・ショック等の様々な文化からテーマを設定し、それに関して、英語で調べたりすることによって、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる授業である。Ⅱは、Ⅰの内容を発展させた授業となる。	

全学共通科目	外国語科目	テーマで学ぶ英語(ビジネス) I	演習。この授業は、ビジネスの英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。ビジネスにおける自己紹介、受付における応対、ビジネスの電話での応対、アポイントの取り方、基本的なビジネス交渉、短いビジネスレターの書き方、ジョブ・ハンティングにおける基本的な面接、基本的なビジネス・メールの理解や書き方等を初歩的なビジネス用語とともに身につける。ビジネス英語の入門的な授業である。	
		テーマで学ぶ英語(ビジネス) II	演習。この授業は、ビジネスの英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする授業である。ビジネスにおける社交の場の英語、ビジネス交渉やトラブル対応の英語、ビジネス電話の応対、スケジュールの調整の英語、ビジネスレターの書き方、ジョブ・ハンティングの面接における受け答えの英語、ビジネスにおいて相手の要求を断る際の英語や依頼の英語、ビジネス・メールの理解や書き方等を、ビジネス用語とともに身につける。I の内容を発展させた授業となる。	
		テーマで学ぶ英語(観光) I	演習。この授業は、観光の英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする授業である。海外に観光に出かけた際に必要となる基本的な英語表現を身につける。「空港における出入国の手続き」、「ホテルでのチェックインとチェックアウト」、「海外の街での道の尋ね方」、「買い物」、「レストランでの注文の仕方」等を学ぶ。I においては、どちらかというと、観光客の側に立って、観光客が理解する必要のある英語、および、観光客として話す必要のある表現等を扱う。	
		テーマで学ぶ英語(観光) II	演習。この授業は、観光の英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。海外に観光に出かけた際に必要となる基本的な英語表現を身につける。空港における出入国の手続き、ホテルでのチェックインとチェックアウト、海外の街での道の尋ね方、買い物、レストランでの注文の仕方等を学ぶ。II においては、どちらかと言えば、観光客を迎える側に立って、ホテル従業員の英語やお店の店員の英語、キャビン・アテンダントの英語等に重点を置き、観光業界で働くために必要な英語表現等を扱う。I の内容を発展させた授業となる。	
		テーマで学ぶ英語(社会問題) I	演習。この授業は、社会問題に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。教育問題、非正規雇用、男女差別、晩婚化の問題、身近な人口の都市集中と地方の過疎化の問題、ジャンク・フードと健康、アルコール依存症や子どもとインターネットの問題、活字離れの問題、振り込め詐欺の問題、若者の自動車離れの問題等の身近な社会の諸問題を取り上げ、その記事等を理解し、問題に対する自分の考えを英語で発言し、学生同士で意見交換する入門的授業である。	
		テーマで学ぶ英語(社会問題) II	演習。この授業は、社会問題に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。地球環境、生命倫理の問題、少子高齢化問題、女性の権利、メディアの放送倫理の問題、国際間の摩擦の問題、人口爆発と貧困の問題、貧富の格差拡大の問題、家庭内暴力の問題、エネルギー問題、医療保険の問題、諸ハラスメントの問題、匿名と個人情報等の問題等、I より複雑な社会の諸問題を取り上げ、関連記事等を理解し、自分の考えを英語で発言し、学生同士で意見交換する。I の内容を発展させた授業となる。	
		テーマで学ぶ英語(メディア) I	演習。この授業は、メディアの英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。英語の映画のセリフ、英語のテレビドラマ・コメディ・ニュース・ドキュメンタリー等の番組、英語のラジオ番組、グラミー賞やアカデミー賞といったセレモニーにおけるプレゼンテーション、インターネット上の英語等の現代の様々なメディアで使われる英語を題材に、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる。I は、上記のメディア英語の入門的な授業である。	
		テーマで学ぶ英語(メディア) II	演習。この授業は、メディアの英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。英語の映画のセリフ、英語のテレビドラマ・コメディ・ニュース・ドキュメンタリー等の番組、英語のラジオ番組、グラミー賞やアカデミー賞といったセレモニーにおけるプレゼンテーション、インターネット上の英語等の現代の様々なメディアで使われる英語を題材に、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる。この II は、I の内容を発展させた授業となる。	

全学共通科目	外国語科目	フランス語上級 I	演習。1・2年次に学んだフランス語・フランス文化の知識をさらに深く掘り下げ、生きていくための技術としてフランス語・フランス文化を身につけることを目標とする。フランス語で発信されるインターネット上の情報なども参照しながら、「フランス語について何を知っているか？」から「フランス文化を知るためにいかにフランス語を使うか？」へのステップアップを図る。それと並行して、フランス語圏の国々の文化・伝統・風土・歴史などについても理解を深める。	
		フランス語上級 II	演習。「フランス語上級 I」で学んだ内容をふまえて、フランス語・フランス文化についての理解をさらに深めることを目標とする。フランス語で発信されるインターネット上の情報なども参照しながら、「フランス語について何を知っているか？」から「フランス文化を知るためにいかにフランス語を使うか？」へのステップアップを図る。それと並行して、フランス語圏の国々の文化・伝統・風土・歴史などについても理解を深める。	
		ドイツ語上級 I	演習。1・2年次に学んだドイツ語・ドイツ文化の知識をさらに深く掘り下げ、生きていくための技術としてドイツ語・ドイツ文化を身につけることを目標とする。聴く・読む・話す・書く、言語運用の4技能に万遍なく配慮した実用的な練習を行いながら授業を進める。また、広くドイツ語圏の文化や歴史、そして社会に関するトピックを適宜取り上げる。	
		ドイツ語上級 II	演習。「ドイツ語上級 I」で学んだ内容をふまえて、ドイツ語・ドイツ文化についての理解をさらに深めることを目標とする。聴く・読む・話す・書く、言語運用の4技能に万遍なく配慮した実用的な練習を行いながら授業を進める。また、広くドイツ語圏の文化や歴史、そして社会に関するトピックを適宜取り上げる。	
		中国語上級 I	演習。週1回、半期開講。これまでに修得した中国語の能力を生かしつつ、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法等について、自らが生の情報や資料に対処できるようになることを目指す。具体的には、選択した項目に沿って知識を深めるとともに、それらに関連した表現の把握と応用練習を繰り返すことにより、中国の文化に関わる基本的な文章の解読や情報の収集ができ、さらにこれらに関して、話すなり書くなり、自分自身の考えが表明できるような力を身につけさせる。	
		中国語上級 II	演習。週1回、半期開講。「中国語上級 I」の目標は「これまでに修得した中国語の能力を生かしつつ、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法について、自らが生の情報や資料に対処できるようになることを目指す」であった。本授業ではその深化を目標とする。具体的には、取り上げたテーマについてより高度な教材を用い、読む・聴く・話す・書くのそれぞれの技量を向上させ、課題をこなす能力を養う。	
		朝鮮・韓国語上級 I	演習。週1回、半期開講。これまでに修得した朝鮮・韓国語の能力を生かしつつ、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法等について、自らが生の情報や資料に対処できるようになることを目指す。具体的には、選択した項目に沿って知識を深めるとともに、それらに関連した表現の把握と応用練習を繰り返すことにより、朝鮮・韓国の文化に関わる基本的な文章の解読や情報の収集ができ、さらにこれらに関して、話すなり書くなり、自分自身の考えが表明できるような力を身につけさせる。	
		朝鮮・韓国語上級 II	演習。週1回、半期開講。「朝鮮・韓国語上級 I」の目標は「これまでに修得した朝鮮・韓国語の能力を生かしつつ、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法について、自らが生の情報や資料に対処できるようになることを目指す」であった。本授業ではその深化を目標とする。具体的には、取り上げたテーマについてより高度な教材を用い、読む・聴く・話す・書くのそれぞれの技量を向上させ、課題をこなす能力を養う。	

全学 共通科目	情報 処理 科目	情報リテラシー I	<p>演習。大学で学ぶうえでのアカデミック・スキルの基本である情報リテラシーを身に付けさせる。授業はコンピュータの操作を中心とし、インターネットを活用した情報収集能力を養うとともに、文書作成ソフトウェアを駆使して文章表現を行うための技術を修得させる。具体的には、中等教育までの学習内容の復習と定着を端緒とし、論文作成のために必要な知識を学ばせる。また、情報社会を生きるうえで不可欠な情報倫理について、被害防止、加害防止、被害回復の観点から指導する。</p>	
		情報リテラシー II	<p>演習。情報リテラシーIに引き続き、より多様な情報リテラシーを身に付けさせる。とくに、プレゼンテーションと、情報分析のために必要な技術に重点を置く。具体的には、プレゼンテーションソフトウェアの活用方法と、実際のプレゼンテーションを経験させるなかで、効果的なプレゼンテーションの仕方を身に付けさせる。また、専門教育での活用を想定し、表計算ソフトウェアを用いた情報の整理や、分析のための技術と知識を身に付けさせる。</p>	
		画像処理基礎演習	<p>演習。本授業では、2次元コンピュータグラフィックスに関する基礎的な知識と技法を習得することを目標とする。授業では、コンピュータで扱う2次元画像とはどのようなものか、2次元画像の修正・編集・合成・作成といった画像処理とはどのようなことなのか、そして、そのためにはどのような知識が必要で、どのような技法が用いられているのか、という内容の中からテーマを設定し、テーマに関する講義とソフトウェアを用いた演習を行う。</p>	
		Web制作	<p>演習。Web ページ制作のための基本技術である、HTML 言語、CSS そして JavaScript の利用方法を学習する。授業の到達目標は個人でホームページを作成する技術を習得すること、そして、事業としてホームページ制作を行う場合にも(努力次第で)対応できるスキルを養うことである。そのために、ソフトウェアの使用法よりも言語の文法や記述スタイルに重点を置いて演習を行う。半期の授業の3分の1ずつを、HTML言語、CSS、そして JavaScript に割り当て、基本から応用までを網羅する。</p>	
		マルチメディア基礎演習(映像制作)	<p>演習。入門者を対象として、デジタル・アニメーションやインタラクティブWeb サイトなどのデジタルコンテンツを制作するための技術を指導する。授業はコンピュータ教室で行う。半期で一つの作品を完成させることを目標とする。その過程を通じて、動画作成のためのソフトウェア技術や、動画制作のプロセスを体験させる。また、マルチメディアデータ利用技術や、映像技法の基本について指導する。授業終盤では作品の発表や相互評価を行う。</p>	
		マルチメディア基礎演習(音楽制作)	<p>演習。音声処理とコンピュータ音楽の制作のための基礎的な技術の獲得を目標とする。コンピュータでDTMソフト等を使用しながら、作曲、編曲、音声処理のための技術と知識を身に付けさせる。授業では、コンピュータ音楽の基礎を理解させ、録音や音声圧縮などの実践を行う。さらに、多様な音楽制作ソフトを駆使して、楽曲の制作や編集、CD制作などを行う。これらを通じて、コンピュータ音楽制作の全体像を理解させる。</p>	
		Microsoft Office Specialist 基礎演習	<p>演習。Microsoft社が実施するMicrosoft Office Specialist試験の「Word」「Excel」について、エキスパートレベルのスキル獲得を目指し、アプリケーション中級レベルの操作方法を身につける。Wordは、スタイルの作成、データの差し込み、脚注と相互参照など、Excelは、検索関数と行列関数、フィルタとリスト作成、ピボットテーブルなどを、講義、演習、および課題作成を通して習得することを目標とする。</p>	
		コンピュータ・グラフィックス	<p>演習。コンピュータを利用して描かれた立体画像、あるいは、コンピュータを利用して立体画像を描く技術のことをコンピュータグラフィックス(Three Dimensional Computer Graphics : 3DCG)と言う。本講義では、講義およびソフトウェアを用いた演習を通じて、コンピュータで立体画像を描くとはどのようなことなのか、そして、そのためにはどのような知識が必要で、どのような技法が用いられているのか、ということについて学ぶ。</p>	

全学共通科目	情報処理科目	デジタル・アニメーション	演習。デジタル技術を用いたアニメーション制作の技法について、コンピュータによる具体的な作業を中心として指導する。具体的には、ソフトウェアによる描画や、動画制作の技術の獲得のほか、制作プロセスにおける企画の立案からリリースまでの流れを体験することで、アニメーション制作の全体像を理解させる。また、ソフトウェアの制御においてはプログラミング技術をも視野に入れた内容とする。	
		デジタル編集	演習。この授業では、情報デザイン・情報マネジメント活動における「総合」的行為として「編集」を位置づけ、実践を通じてその世界を体感する。編集という営為の適用範囲は、印刷出版業界のみの物ではなく、本来、衣服のコーディネートや、机上の整理など身近な所から、大きくは組織の人材マネジメントにまで及ぶものである。学期前半では、デジタルコンテンツの収集・加工の演習を通じて編集行為の基礎を学ぶ。学期後半では、散在するコンテンツを一つの融合体としてまとめ上げる総合的編集をDTP関連の専用ソフトウェアを用いて行う。	
		アプリケーション・プログラミング	演習。Microsoft Windows 上で実行可能なアプリケーションを構築する方法の習得を目標とする。Microsoft Windows上でアプリケーションを開発するためには、プログラミング言語(ここでは C++ 言語)のほかにも Windowsアプリケーションを作成するためのライブラリ(MFC)の使い方や開発環境の使い方を学習しなければならない。そのため、開発環境の使用方法、C++ 言語の知識、そしてWindows に特化したプログラミングの演習を順に行ってゆく。毎回テーマを決めて解説・演習を行う。	
		Microsoft Office Specialist 演習	演習。Microsoft社が実施するMicrosoft Office Specialist試験のエキスペートレベルの合格を目指し、「Word」「Excel」についての上級レベルの操作方法を身につける。Wordは、索引と目次、グループ文書とサブ文書、変更履歴など、Excelは、テンプレート作成、データエクスポート・インポート、マクロなどを、講義、演習、および課題作成を通して習得することを目標とする。	
	導入科目	プロゼミⅠ	演習。プロゼミⅠとプロゼミⅡを通して、高等学校等における「勉強」ではない、大学における「研究」の方法に習熟することを目標とする。Ⅰでは、「研究」の最も重要な根幹である「問い」の立て方、資料収集等の方法、図書館の利用方法、「仮説」の立て方、「論文」の書き方、「発表」の仕方等を、段階を追って学んでいく。また、少なくとも、2回以上の小レポートを課した上で、コメントをつけて返却することにより、「論文」を書くためのトレーニングを行う。	
		プロゼミⅡ	演習。プロゼミⅠとプロゼミⅡを通して、高等学校等における「勉強」ではない、大学における「研究」の方法に習熟することを目標とする。Ⅱでは、Ⅰで学んだことを前提に、学問研究のためのより進んだ知識、技術の獲得をめざす。「論文」を書くことのトレーニングはⅠに引き続き少なくとも2回以上の小レポートと添削返却を通して行い、一層の向上を図る。加えて、少なくとも1回の発表・質疑・討論・ディベート等の適切な作業を課して、「発表」を行うためのトレーニングを行う。	
	教養科目	文芸理論	講義。文学という言葉芸術の理論を多面的に学習し、実際の読書体験を豊かにしながら、究極的に人間理解を深めることを目的として授業を構成する。第一には、文学芸術の材料である言語についての理論を知ることにも務める。特にソシュールに端を発する構造主義言語学、記号論とそれ以降の流れを理解する。また、西洋古代に始まるレトリックの歴史を辿り、修辞理論を学ぶ。文学理論としては、構造主義、ポスト構造主義の理論、精神分析主義、フェミニズム、ポストコロニアリズムの理論等を学ぶ。	
		歴史理論	講義。歴史理論の授業目的は歴史記述のあり方への理解と関心を深めることに設定する。授業は主として講義形式で行い、国内外の著作を通じた理論と歴史叙述の実例紹介を重視する。具体的な予定としては、最初に歴史上の出来事と叙述された歴史との相違点と歴史叙述の方法を説明する。その後は近代以降の政治だけでなく、歴史叙述にも影響を与え続ける理念としてナショナリズムに着目したい。理念の理解から始め、歴史叙述の内容と枠組み(いわゆる「国民史」)への影響、国民史の相対化の意義とその方法に関して実例を提示しつつ講義を進める。	



全学共通科目	教養科目	言語科学	講義。一般に言語の研究は人文学のみに属するものと考えられがちであるが、20世紀以降の言語学は、言語に対して自然科学的なアプローチをとることによって発展してきた。本講義では、音韻・形態・統語・意味の科学的な分析法を概観し、言語学を科学の一部門とみなすことの利点と限界を論じる。	
		記号論	講義。「記号論」(Semiotics)という学問分野について概説し、人間の「意味」活動について考察する。言葉、文字、絵、映像などを受けとる、送るなどの活動を通して、「意味」を作ったり、伝え合っている。「意味」を生み出す要素が記号論でいう「記号(Sign)」である。これら、人間のコミュニケーション活動を成り立たせているイメージ、言語、音声などを考察することで、人間の「意味世界」について理解を深める。	
		日本現代史	講義。戦後日本の政治・外交・国際関係をめぐる諸問題について、政治思想や社会構造、社会意識などの視角から検討していく。現代の日本社会が抱えている、政治や国際関係及び精神状況の諸問題を、戦後日本史との連関を踏まえて批判的にとらえ直す視点の獲得を目指す。	
		アジア現代史	講義。21世紀の日本とアジアとの関係を理解するために、近代日本と関わりの特に深い東アジア諸国を中心として、歴史性に留意しつつ近代から現代に至る政治、経済、社会、文化の諸問題をとりあげる。いち早く近代国家を形成した日本が、今後アジアと共生し、一体化する世界に貢献するには、ヨーロッパに始まる植民地問題も含め、アジアの実情を知り、われわれが果たすべき役割について認識することが不可欠であろう。	
		ヨーロッパ現代史	講義。グローバル化時代を生きる我々に必要な基礎教養として、戦争と革命に彩られた変化に富むヨーロッパ現代史を、日本を含む国際社会・国際政治の枠組みで捉え直す。ヨーロッパを発火点とする二つの世界大戦や「ベルリンの壁」に象徴される戦後の東西分断、冷戦終結後のヨーロッパ統合の進展と「東方拡大」など、ヨーロッパ現代史に関する基礎知識を獲得するとともに、しばしば紛争の原因となってきた排他的なナショナリズムや人種主義の動きなど、現代社会が抱える諸問題について、批判的に考察する能力を高めることをめざす。	
		日本文学	講義。日本文学の代表的な作品を、冒頭の一文を中心として、各時代ごとにとりあげて読み考察する。作者の心を担い読者の心を惹きつける最初の一文が担う意味をさぐり、それぞれの作品の特徴を考えることから、文学に親しむ心と知性を養い、時代をこえて受け継がれ人々を魅了して已まない日本の古典文学への理解を深めることをめざす。	
		中国文学	講義。中国の古代から現代に到るまでの文学について、特に代表的な作品を中心に挙げながら、講義する。これら中国文学は、当代文学はもちろんのこと、更には古代文学さえも、現在の中国人の生活に、今なお反映されている。そのような、現在の中国を理解する有効的な視点を、学生に伝えることも意識しつつ講義を行う。また、中国から招来した文学は、日本に多大な影響を与えた。それが如何なる形で影響を与え、あるいは与えなかったかを講義して、両国の異文化を考える契機としたい。	
		英文学	講義。中世から現代に至る英文学の大きな流れを理解し、名作に親しむことを目標とする。授業では各時代における主要な作品を取り上げてその一部を觀賞し、その作品が生まれた背景や作者の思想について学ぶ。受講生が興味を持つ作品を多く見つけ、作家の特徴や作品のメッセージについて考えながら自発的に読書をするきっかけづくりになることをめざす。	

全学共通科目	教養科目	ドイツ文学	講義。中世から現代に至るドイツ文学の流れを把握し、作品に親しむことを目標とする。授業では主要な作品を取り上げ、作家の問題意識や表現の特徴を考え、言葉の美しさを味わいながらドイツ文学の世界を探訪するが、その際時代精神や社会的・地理的背景、あるいはまた他の芸術やメディアとのかかわりについても触れていきたい。具体的には古典主義やロマン主義、あるいは19世紀末から両大戦間期を中心に現代までを扱う。	
		フランス文学	講義。中世から現代に至るフランス文学の流れを把握し、名作に親しむことを目標とする。授業では日本でも馴染みの深い19世紀、20世紀を中心とした主要な作品をいくつか取り上げ、その時代に共通する社会状態や文学上の傾向を把握するとともに、各々の作家に見られる独特のテーマやその扱われ方、特徴的な表現等を考察し、作品世界に対する理解を深める。	
		ロシア文学	講義。今日までのロシア文学の流れを概観した上で、たとえば、プーシキン、ゴーゴリ、ツルゲーネフ、ドフトエフスキー、トルストイ、チャーホフなど、ロシア文学の著名な作家が書いた代表的な作品をいくつか取り上げ、重要なテーマを探りながら鑑賞する。また、作品の歴史的背景、作家の生涯や思想なども学び、様々な視点から作品に対する理解を深める。	
		西洋古典文学	講義。古典ギリシア語やラテン語で書かれた文学作品について学び、西洋古典文学に親しむことを目標とする。授業ではたとえばアリストテレスの文芸理論について学びながら、ホメロスによる叙事詩、『イリアス』や『オデュッセイア』、ソポクレスによるギリシア悲劇の傑作、『オイディプス王』等、主要な作品をいくつか取り上げて鑑賞する。時には映画や演劇など映像化されたものも紹介し、こうした古典文学に受講生が関心を持ち、自発的に読書をするきっかけづくりとなることをめざす。	
		百人一首	講義。カルタで慣れ親しまれる「百人一首」は、中世初期に成立したのではないかとされる秀歌撰である。それが後世に至り多くの人々に受けとめられ、江戸時代以降さらにさまざまなかたちで享受されて広く愛されるようになった。ここでは、「百人一首」の歴史的展開を知り、それぞれの和歌への理解を深め、「百人一首」の文化的な広がりについて学ぶ。教養としての基礎的な知識を体得するとともに、対象を広い視点から柔軟にとらえ考える力をも養うことをめざす。	
		異文化理解	講義。生活様式、産業や経済の実態、社会制度や教育システムなど様々な面から他の国や地域の文化を学ぶことによって、その根底にある基本的な価値観について理解を深め、広い視野や柔軟な思考を養う。また、異文化との接触や多文化が共生する社会において起こりうる問題についてあらためて考え、コミュニケーションの重要性に対する意識を高める。	
		地理学	講義。地理学の基礎を学び、地理的見方、考え方を身につける。地理学は、人類集団の生活舞台としての「地表の構造」を追及する空間の科学であることを認識し、地理的事象(自然、人文地理学=系統地理学)の秩序性、法則性・規則性、類型化や特殊性を理解し、地理空間(場所、地域=地誌)を科学的に説明できる能力を培いたい。さらに、地球環境や世界遺産など、現代のさまざまな地理的事象について考察し、将来に応用できる態度を養う。	
		社会学	講義。現代社会は変化に富んだ社会であり、これを把握し、解釈することは、今日我々がいかんにか生きていくかを考える際の重要な手がかりとなる。本科目では講義の形態をとり、社会学的な視点を習得するとともに、それを基点として現代社会への把握と解釈を目標に据える。よって授業計画もまた、左記のように、まず社会学についての基本的な知識を習得し、続いて今日的な社会のトピックを取り上げ、これについての考察を深めるといった手順で展開していく。	

全学共通科目	教養科目	国際関係論	講義。国際社会で活動し、そこに影響を与える様々な人間、組織、集団の相互作用(協力関係、対立、紛争など)について研究する学問分野である「国際関係論」の方法論を手ほどきする。基本的な理論であるリベラリズムやリアリズムについて理解し、グローバル化した現代の、国家と国家を超えた様々な組織の複雑な関係のあり方を学際的に考察し、理解する。	
		ボランティア論	講義。現代社会ではNPOやNGOが果たす役割が増大するに伴い、「ボランティア」という働き方が注目されている。本講義ではボランティアの基本理念や歴史的背景、現状の活動内容と社会への影響についての理解を深めることを目的とする。具体的には①環境問題、②福祉政策、③国際協力の分野における、日米欧のボランティア事例の比較検討をおこなっていく。また映像等を交えた実践例にふれることにより、受講生がボランティアに関心を持ち、取り組む、きっかけづくりとなることを目指している。	
		法学	講義。初めて法に触れる学生を対象に、法とはなにかということから始まり、様々な適用・解釈があるという点について説明を加える。法は決して専門家のみが扱う分野ではなく、身近なところに様々な法が存在している事を学んでいく。主としては私法を中心に、立法趣旨や判例等にも触れながら、法の原理を習得する。ことにより、リーガルセンスを身につけることを目標とする。	
		日本国憲法	講義。わが国は民主主義国家であり、その根幹をなすのが日本国憲法に規定される基本的人権と統治機構である。本講義では、これら日本国憲法に関する基本的な理解を身につけることを目標とする。教科書を中心に、受講生との議論を交えながら、講義方式で行なう。まず、「日本国憲法とは何か」ということを説明した上で、日本国憲法の歴史および基本的原理を概説する。その後、基本的人権を中心に講義をすすめ、統治機構に入っていく。	
		政治学	講義。たとえば「国家」や「権力」といった政治学の基礎的な概念を身につけ、現代の社会における政治的な事象について理解を深めることを目標とする。具体的には、日本や外国における政治制度やしくみを学び、市民生活における政治の役割およびそのシステムについて、歴史的視点からはもちろん、時事的な問題も適宜取り上げることで今日の問題意識を持って考察する。	
		経済学	講義。経済を体系的に理解しようとするのが経済学であるが、そもそも経済とはどのような問題を扱うのか、この講義では、経済学の基礎を解説する。そのため、景気や個人の消費、貯蓄、企業活動、金融、社会保障問題、貿易などさまざまな問題について、日常生活に関連する話題から取り上げていく。身近な問題についてその背後にある経済学の考え方を身につけていく。必要に応じて、新聞記事、広告、報道番組なども教材として使用する。各自が経済学の立場から、経済理論やデータを示して答えることができるようになることが、講義の目標である。	
		家政学	講義。日本家政学会において「家政学は、家庭生活を中心とした人間生活における人と環境の相互作用について、人的物的両面から、自然、社会、人文の諸科学を基礎として研究し、生活の向上と共に人類の福祉に貢献する実践的総合科学である。」と定義されているように、人間が生きていくためにすべての営みに最も深く関わっている学問である。この家政学についてその起源と歴史、家政学の中心となる家族と家庭生活、家政学の社会的展開等について学習する。	
		哲学	講義。西洋哲学は、万物の根源を合理的な理性によって探求し、そうして捉えられた「全体としての世界」の中で自分を有意義な部分として位置づけたという人間の「形而上学」的な欲求として始まったと思われる。ここでは、そうした形而上学が一種の有機体論的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的営みの背景になってきている様子を見る。本講では、プラトン、アリストテレス、デカルト、ヘーゲルなどの形而上学的世界観を扱う。	

全学共通科目	教養科目	倫理学	講義。倫理学の観点から、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論である。新技術の開発によってこれまで考えられもしなかった未知の状況で次々と人間としてのあり方の選択を迫られる現状においてこそ、人間らしさとは何か切実に問われるであろう。本講はその問題意識を根底としつつ、西田や和辻、M・ブーバーなどの哲学的人間論を扱う。	
		論理学	講義。伝統的な形式論理学に加えて、記号論理学の基礎を学ぶ。記号論理学とは、文が表す命題を記号で表し、命題と命題との論理的関係を厳密な手法で明らかにしようとする学問である。本講義では、日常言語を題材として、ある命題が真になるのはどんな場合か、ある命題から他のどんな命題を論理的に導き出すことができるか、といったことを検討することにより、主として命題論理と呼ばれる体系を理解する。また、論理学の知識を応用することにより、適切な論証を行う技術を身につける。	
		認識論	講義。物事を複眼的に見る眼や自主的・総合的に考える能力を養うことを目標に、認識行為・内容の様々な側面・問題について考えてみる。人間が世界を認識する際の基本的な仕組みや前提と、現代の知がもついくつかの特徴や問題について検討する。さらに、知恵、暗黙知、先入観、視点、観測者、想像力など、認識や知識について具体的な問題群を取り上げると同時に、思考力・判断力向上につながるような「認識・思考技術」にも目を向けてみる。	
		心理学	講義。心理学の各領域(心理学史、知覚、記憶、思考、感情、社会、性格、臨床など)の興味深いトピックを概観することで、心理学の学問的特徴や日常生活との関連を理解し、人間や社会に対する洞察力や判断力を養う。	
		教育学	講義。教育格差、学力低下など現代の具体的な教育問題との関わりで、現代教育学の基礎的な理論や方法を講義する。また、現代にいたる日本の教育のあり方を支えてきたものであると同時に、その自明性・有効性が問われている近代教育(思想)について解説する。これらによって、現代に相応しい教育のあり方を構想する力を養うことを目標とする。	
		保育学	講義。保育の場である幼稚園、保育所、認定子ども園の機能や保育内容、乳幼児期の子どもの特性、子どもを取りまくさまざまな問題などに関心を持ち、今後の生活のなかで活かせるようにしていく。乳幼児期の子どもたちの存在に関心を持ち、地域社会や職場で子どもと接する際、適切な関わりや援助ができるよう、基本的な知識や技術を学ぶ。子どもの発達の様子や行動特性、子どもが育つ環境などに目をむけ、今を生きる子どもたちが抱える問題や課題を探る。幼稚園や保育所、認定子ども園の機能、保育理念、保育内容など保育の場について理解を深めたい。児童憲章や子どもの権利条約など、子どもの人権を守るための取り組み、社会支援の実態についても理解を深める。	
		統計学	講義。統計学の基礎と応用の学習を目的とする。項目としては、情報の収集と整理分類、集団特性値と種々の分布、正規分布、二項分布、ポアソン分布、検定と推定(t検定、F検定、カイ二乗分布と検定推定等)、二変量の関係(相関関係、相関係数)、多変量解析、ベイズ理論統計の基礎等を行う。基礎を学習し、その応用として身近なデータや問題について適応させることで基礎の定着を図る。	
		科学史	講義。科学は本質的に社会に開かれた営みである。科学が正常な社会的機能を果たすためには、社会の成員それぞれが、たとえ科学者ではなくても、科学の動向に常に関心を払う必要がある。科学史とは「科学とは何か?」と考えながら、社会における科学の役割を論じる学問である。本授業は科学の営みを歴史的視点から捉え、科学と社会との関係がどうあるべきかを考える契機とする。	

全学共通科目	教養科目	情報科学	講義。情報科学は、コンピュータ全般に関する基本的な領域を数学的な手法に基づき研究されてきた。具体的には、コンピュータを動かす原理やソフトウェアの開発言語、リレーショナル・データベースなどをどのように実現するかを論じている。この授業では、コンピュータの仕組みや、情報の意味、言語、データベースなどを取り上げ、各テーマの理解を深め、情報処理に関する基礎学力やコンピュータ利用技術の向上を目指す。	
		数学	講義。数量の取り扱い方やその処理について基礎から応用までを学習することを目的とする。講義項目としては、行列・行列式、逆行列とその利用、ベクトルの内積外積、1次変換と固有値、微分・積分、微分方程式、複素数、集合、論理と論理回路、近似と数値解析、波形と級数、アルゴリズム、流れ図、数学の歴史について行う。基礎を学習すると共に、身近なデータや問題について応用することで基礎の定着を図る。	
		物理学	講義。物理学の基礎を理解し、我々の日常生活や身近におこる現象を、物理学に基づいて考える習慣を身につけることを目標とする。身近な問題を例にして、現代物理学の基礎となる古典力学、熱力学、電磁気学、量子論について学習する。	
		地球科学	講義。地球科学は地球に関して空間的、時間的にも総合的に扱う学問である。地球科学の基礎を理解し、地球環境問題を科学的に理解する力を身につけることを目標とする。固体地球、大気・海洋、宇宙分野にわたり、地球科学の基礎について学習する。	
		生物学	講義。生物やその存在様式について研究する分野であり、その全体像を理解させたいので、具体的な研究対象を取り上げて解説し、生命現象の神秘に迫る。具体的には、生命の構造や機能、発生や成長のメカニズム、進化のしくみなどのほか、生命の分布や分類の仕方など、幅広い領域について対象としつつ、最新の情報を踏まえ、専門的な内容についても触れる。	
		化学	講義。日常生活の中で用いている「物質」を適切にかつ合理的に用いるためには物質の成分や性質を良く知り、これにあった取り扱い方法を考えることが必要である。そのためには種々の物質の成り立ちや化学的性質を良く理解することが大切である。授業では暮らしの中で応用されている化学をわかりやすく解説する。高校で化学を学んでいなくても理解できるよう、なるべく身近な生活に題材を選び、生活のいたるところに潜む化学の魅力を説明し、科学的手法のあり方や考え方の基盤を理解させる。	
		自然保護論	講義。自然界はこれまでの人間の活動によって農地や都市等のために開発され、世界的に自然界の面積は減少傾向にある。自然保護は水源の保全や洪水防止という地域的な環境保全にとって重要だけでなく、生物多様性の保全、さらには地球温暖化ガスである二酸化炭素の固定源としても人間の生存に不可欠な役割を担っている。自然の保護のための我が国の政策の現状と課題、世界的な自然保護への取り組み等について講義し、自然保護の在り方を考える。	
		生理学	講義。生活環境の改善や、医学の進歩に伴ってわが国は世界有数の長寿国となった。更に年々この記録を更新している。この長寿をより健康に全うするためには人間の体のしくみについての基礎的な知識を習得し、その知識を基に日常生活に対処することが重要である。そこで、人体のしくみを理解する学問である生理学を、個体はどのようにしてつくられているか、心臓の拍動やホルモンのはたらき、摂取した食物の消化や吸収等についてわかりやすく解説する。	

全学共通科目	教養科目	健康科学	講義。世界保健機構(WHO)の憲章には、「健康とは、単に疾病や傷害がないだけでなく、身体的、精神的、社会的に安寧な状態を言う。」と定義されている。生活環境の改善や医学の進歩によって我が国は世界有数の長寿国となり、身体側面では高いレベルに達したが、人口の高齢化や社会構造の急激な変化に伴うストレスの増加等、他の側面での問題が生じている。このような現代社会の中で、明るく豊かな生活を送るために、その基盤である健康について、健康の概念、中心となる栄養と食生活、健康を脅かす疾病や、生活習慣上の危険因子等について幅広く学習する。	
		日本宗教論	講義。日本の宗教について考える上で、前提となる宗教的問題を歴史的につかむことを目的とする。歴史上の仏教・キリスト教などに対して、各自が抱えている疑問、知りたい事柄を前もって明確にした上で授業に臨み、講義によってそれがどれだけ解明できたかをはっきりさせ、さらに考えたい問題をあきらかにする。仏陀の思想と日本仏教、「神が生じ、神が産む」思想と古代国家、鎌倉新仏教、戦国乱世下のキリスト教、幕末民衆宗教、明治維新と神仏分離といった主題を取り上げる。	
		聖書学	講義。中東・西洋の文化を理解する上で極めて重要な諸宗教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)の聖典を成している聖書に関して基本的知識を解説する。旧約聖書及び新約聖書について、その構成に即して概説を行なう。具体的に旧約聖書については、律法・預言書・その他と分ける3区分に即して、最も重要な部分である律法(いわゆるモーセ五書)を中心に解説を行なう。新約聖書については、イエス・キリストの言行を記した福音書を中心に解説を行なう。	
		ヨーロッパ中世文学	講義。10世紀にローマ・カトリック教会の典礼儀式から起こり、宗教改革の進展とともに16～17世紀頃姿を消した中世宗教劇は、中世キリスト教の汎ヨーロッパ的性格をそなえつつ、各地で地域性豊かな多様な展開を遂げた。古代劇の遺産や、それを手本にした近世以降の演劇からは、歴史的に孤立した、中世固有の文学的・社会的現象といえる中世宗教劇の諸形態(復活祭劇、受難劇、聖体劇など)を概観しつつ、宗教美術や民俗文化との影響関係についても検討する。	
		ミステリー文学	講義。英米のミステリー文学もろもろを概観する。個々の作品の魅力なり持ち味なりを押さえるかわら、それらの作風を支えている時代や社会の文化的背景にも目を向ける。また日本のミステリー作品数篇を取りあげて、彼らの比較文化論的アプローチも試みたい。主に扱う作家としては、エドガー・アラン・ポー、チャールズ・ディケンズ、ウイルキー・コリンズ、コナン・ドイル、G・K・チェスタトン、アガサ・クリスティ、エラリー・クイーン、江戸川乱歩、松本清張、結城昌治など。	
		児童文学	講義。「昔ばなし」「おとぎばなし」「童話」などをキーワードとして、児童文学を紹介していく。初めに、耳で聞く文芸である「昔ばなし」について基本的な特徴を学ぶ。次に、日本で初めて子どもに向けて物語りが創作されたときに注目しながら、近代日本児童文学を歴史的に概観し、特徴をとらえていく。授業内に作品講読の時間を設け、感想等を提出してもらい、履修者の作品への「気づき」が、児童文学研究にどのように関わっていくのかを交えて講義する。	
		ギリシア語とギリシア文化	講義。本講義は、現代ギリシア語ではなく古典ギリシア語の授業である。授業では、もっとも平易に書かれた教科書を用いて、叙事詩、ギリシア悲劇・喜劇、ギリシア哲学、『イソップ物語』などから採られた名言を学び、そこに登場する文法事項を解説し、練習問題を解く。現代語に比べてはるかに文法体系の難しい言語を学ぶことによって、一語一語をおろそかにせず読解していく姿勢を身につけてもらうとともに、英語・独語・仏語など西洋語の根本的理解を深め、古代ギリシアのすばらしい文化にも触れてもらうこと、これらが講義の目的である。	
		ラテン語とローマ文化	講義。本講義では、もっとも簡潔に書かれた教科書を用いて、ラテン語の文法を学習する。授業は、古典語特有の動詞・名詞の著しい語形変化の解説にはじまり、複雑な文構造の解釈へとすすむ。その際、各課の練習問題を解く。現代語に比べてはるかに文法体系の難しい言語を学ぶことによって、一語一語をおろそかにせず読解していく姿勢を身につけてもらうとともに、英語におけるラテン語由来の語彙を正攻法的に豊かにし、古代ローマの華々しい文化にも触れてもらうこと、これらが講義の目的である。	

全学共通科目 教養科目	イタリア語とイタリア文化	<p>講義。古来ヨーロッパ文明の中心に位置し、とくに美術や音楽の分野で重要な遺産を残してきたイタリアの言語と文化を学ぶ。イタリア各地に見られる数多くの世界文化遺産に触れつつ、現在注目を浴びているファッションやデザイン、食文化なども取り上げる。</p>	
	スペイン語とスペイン文化	<p>講義。中南米を含めて4億を超える話手がいるといわれるスペイン語の基礎を学ぶとともに、『ドン・キホーテ』から現代のボルヘスやガルシア＝マルケスにいたる文学や思想、宗教、美術、音楽、建築などさまざまな分野で世界的に注目されている多彩なスペイン語圏の文化について基礎的な知識を得る。</p>	
	ロシア語とロシア文化	<p>講義。ロシア連邦のみならずいろいろな地域で話されている国際語であり国連の公用語ともなっている、豊かな文学や芸術の伝統を持つロシア語の基礎に加えて、ロシア文化の多様な展開と現代世界への影響について学んでいく。極東・中央アジアやバルカン地域にまで広がる独自のキリル文字の簡単な読み書きができるようにする。</p>	
	ファッション論	<p>講義。ファッションの現在を知るにあたり、パリのオートクチュール、ブレタボルテのデザイナー及びそのメゾンの活動を軸として、20世紀ファッションの成り立ちを繙く。また、社会情勢の変化に伴う女性の意識変革とファッションの関係を読み、ファッションに対する独自の視点を持ち、ビジュアルと文章による編集者の表現法を身につけることを目標とする。授業形態は、多くのファッション写真資料によるスタイルの変遷を提示するために、パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式とする。</p>	
	ジェンダー論	<p>講義。この授業では、フェミニズム主義的ジェンダー論の研究成果を視野に入れながらも、主に文化人類学的な立場からジェンダーの問題にアプローチする。講義形式と双方向的授業形式を併用しながら、できるだけ具体的な民族誌的データをもとに文化の多様性とジェンダーの関連に焦点をあて、先ず異なる文化におけるジェンダーの問題に対して知識と理解を深める。その後、現代日本社会の男女関係、結婚、家族などのテーマを手がかりにして、日本社会のジェンダーの問題について考察を展開する。</p>	
	刑事法	<p>講義。本講の内容は、刑法総論・刑法各論・刑事訴訟法の三部に分かれる。刑法総論においては、刑法の課題、刑罰の目標、犯罪行為(罪)についての一般理論を習得することを目指す。より具体的で解りやすい刑法各論においては、財産犯とコンピュータ犯罪を例として述べるとともに、考察の対象を法律外の立法政策的な局面にまで拡大してみたい。刑事訴訟法においては、刑法上の法発見を可能にする手続として捉えるとともに、憲法で保障された人身の自由の具体化という観点からも説明を加える。</p>	
	民事法	<p>講義。民法・民事訴訟法・労働法・社会保障法を主な法分野として「人の成長の過程(ライフステージ)」にあわせて場面ごとに関わる法を講義する。前半は総論をして、「民事法とは」「契約」「債務不履行」など、民事法全体に関係する事柄を講義する。後半は各論として、「出生」「就職」「相続」といったライフステージにおける出来事を講義し、現代的な問題として、「セクシュアル・ハラスメント」や「医療過誤」といったテーマも検討する。そして、具体(出来事)と抽象(法)を行き来する考え方にふれてもらうことをねらいとする。</p>	
	労働法	<p>講義。民法の原則の一つに「契約自由の原則」がある。しかし、これは契約を締結する両者が対等な立場であることを前提とする。労働者は、経営者と対等な立場ではない。何故なら「雇用者」と「被雇用者」という関係にあるからだ。この講義に於いては「労働基準法」「労働組合法」「男女雇用機会均等法」等を扱う。労働者としての権利を知ること、その後の人生において非常に有用であり、実際に起きた事件についても触れながら説明を行う。</p>	

全学共通科目	教養科目	国際法	講義。本講では、国際社会におけるルールすなわち国際法の基礎を概観し、国際情勢について理解するための基礎となる知識を身につけることを目標とする。また、グローバル化が進む今日において、国家や国際機関と個人とがどのような関係にあるべきかについて考える。前半は国際社会の構成要素や条約、国際機関などの国際公法について学び、後半は、国籍や経済活動に関わる国際私法を扱う。その時々で話題になるトピックや、過去及び現在のニュース・具体的事例にも随時触れる。	
		国際社会論	講義。この授業の目的は、地域統合、エスニシティ、ナショナリズム、グローバルイゼーション、少数民族問題など、国民国家を超えた社会過程に対する基礎的な知識を身につけ、国際社会の諸問題を考察し分析する力を養うことにある。代表的な事例としてヨーロッパの統合分裂過程、特にEUヨーロッパ連合の統合過程、旧ソ連諸国の統合分裂過程、その他の現象を国際関係論、外交史、社会学、政治学の立場から概説し、またその原因と現在の状況などをふくめ多様な分析を試みる。さらに将来の日本と世界との関係、国際関係・国際社会がいかにあるべきかを考える。タイムリーな話題、ホットな話題も随時取り入れる。またビデオ教材、スライド等を多数併用し、ビジュアルな面からも国際社会への理解を深める。	
		国際経済	講義。国際経済の仕組みを理解し、わが国が国際経済において置かれている現状を把握することを目標とする。自由貿易と保護貿易の歴史的経緯、内外均衡と対外均衡等、国際経済学の基礎概念を解説し、国際金融におけるドル、ユーロ、円の役割を通じて資本移動のあり方を具体的に把握し、また各国の貿易構造を例示することによって一国経済における国内市場と海外市場の連関を明らかにする。	
		深層心理学	講義。無意識は所与のものではなく「発見」され発展してきた概念であることを押さえた上で無意識に関する基本的なトピックについて講義を行う。講義ではまずフロイト、ユング、アドラーといった初期の重要な担い手を紹介し、次に精神分析のその後の流れ、ミルトン・エリクソンの臨床実践によって示された無意識論等について提示する。また、臨床実践における無意識概念の応用のされ方についても言及していく。知識の獲得だけに留まらず、無意識概念自体について適宜見直すことを通じて、柔軟なものを見方ができるようにすることを目標とする。	
		精神病理学	講義。精神医学は人間を知ること、どのように寄与しうるか、ということを主旨に講義を展開する。基礎編では精神医学の学的基礎を人格の基本的ありようまで遡って探求する。応用編では人格の基本的ありよう(原形)から出発して、さまざまな動因の影響下に生じる人格の構造変化(メタモルフォーゼ)のありようを非疾病性のもから疾病的性格を有するものまで、順次構造分析をする。それを通じて、心の障害性の側から本来の人間のありようとは何かを繰り返し問い直すことを目的とする。	
		天文学	講義。天文学は、天体や、天文現象など、地球以外の天体について、観測や推論に基づいて法則を見出してきた。長い歴史を持つ学問であり、これまでに携わってきた研究者たちの足跡とその成果を追うことで、天文学の概略を掴むとともに、天体の構造などについての基礎的な知識を獲得する。また、天文現象の発生のメカニズムについても触れる。	
		建築環境論	講義。この講義では、さまざまな地域・時代の建物のあり方を知ること、日頃無意識に接している身の回りの建築を見直すきっかけにすることを目的とする。前半の講義では、建築を構成する屋根や柱などの要素を取り上げ、その形状・配置による機能的・心理的效果や、用いた材料・構造による表現手法の違いについて解説する。後半の講義では、建築がその建てられた時代や場所の社会的・文化的環境とどのように関わっているかについて分析する。授業はスライドを中心にした形式で行う。	
		水産学	講義。水産学がいかに幅広い実学ベースの学問であるかについて概説するとともに、古くから行われてきた漁業の歴史について述べる。さらに、かつての狩猟的な漁業から現在発展している「育てる漁業」について解説する。また、主要な魚種のライフサイクル、漁獲方法、貯蔵から流通、食卓に上るまでの流れをDVDなどの映像をつかって講義する。さらに、水産資源には限りがあること、資源を枯渇させないために現在取り組んでいるさまざまな方法について講義する。	



全学 共通科目	教養科目	河川海洋学	講義。地球上の水がどのような形態で存在し、どのように循環しているかについて講義する。つぎに川の成り立ちと姿、人と川のかかわりについて日本の川を例に紹介する。また、海の姿、海の仕組み、海に含まれる物質の動き、海の生産力、地球環境に果す海の役割について講義する。さらに、森と川と海が深く関係していることを理解させる。また、広い海に起こる現象をどのようにして把握するのかについての科学技術、沿岸防災技術などについてもふれる。	
		農林科学	講義。世界人口は現在65億人に達し、2050年に90億人と予想されている。一方、農地の拡大は限界であり、木材・紙需要の増加、農地開発、焼畑、過放牧などにより森林面積減少など地球環境問題が顕在化している。21世紀は食料・環境・健康・資源エネルギーが地球的課題であり、本授業を通じて国民生活に寄与する農林科学を学び、新たな価値観、自然観の形成、環境倫理、食の倫理にも追究することを授業の目標とする。	
		公衆衛生論	講義。「公衆衛生論」は、社会レベルから人々の健康を守るための望ましい健康管理・疾病予防のシステムを考えることを目標とする。衛生統計の分析、地域・社会の健康評価・地区診断、保健・医療制度、健康の保持増進のための行動変容、環境保全、食物や医薬品の安全などについて、集団の健康を守るためのシステムの現状を把握・分析するとともに、様々な事例をもとに集団の健康保持・増進のための方策を、15回にわたって講義、討論する。	
		ネットワーク論	講義。人は意識するしないにかかわらず、さまざまなグループが作り出すネットワークのなかに存在している。今日、ネットワークの形成は、インターネットの環境を無視して語ることはできない。むしろインターネットの仕組みなどを理解し活用することが必要となっている。このために本講義では、コンピュータ化以前のネットワークの意味とコンピュータと通信が提供する双方向の情報伝達の仕組みを意識したネットワークの意義を学習する。	
共通 専門科目	共通専門科目	環境心理学	講義。環境心理学とは、「人間」と、空間や場所などの周囲にある様々な「環境」との関係を中心に考察する学問である。人は環境からどんな影響を受けるのか、人は環境をどう変えよう使いこなしていくのかを考え、くらし・環境のあり方・デザインに活かしていくというものである。講義では、環境心理学の基礎理論について、今日的なトピックや日常で体験する事例を交えながら解説する。また、学生が建築・都市などの環境に対して日常生活の中で考える小課題を複数出題し、環境を人間的視点から洞察する能力を磨くようにしたい。	
		コミュニティ心理学	講義。コミュニティ心理学は、「人」と「環境」の適合を図ることを最終課題とする実践学である。すなわち、社会(コミュニティ)とのかかわりの中で生活している人間の心理社会的問題を解決するためには、人の環境への適応を援助するだけでなく、その個人をとりまく環境を人に適合するように改善していく働きかけが重要であると考え。本講義では、コミュニティ心理学の定義、歴史、理論的背景、基本的発想、介入・援助の方法について概論的な解説をおこない、臨床心理学的地域援助の実践に必要な発想と方法を習得することを目的とする。	
		教育原理	講義。教育の基礎・基本として、教育の目的、教育の歴史、学校及び教師の役割などについて学習する。一方で、消費者教育、環境教育などの教育課題を考え、今日の教育への理解を深める。授業形態は、講義の中にテーマによっては事例研究やグループディスカッションなどの演習を取り入れる。教育の基本と教育課題をバランスよく授業計画の中に配置し、しっかりした教育観を形成していくことが目標である。	
		生涯学習概論	講義。生涯学習の視点から「学ぶこと」の意味をとらえなおし、社会教育の現代的意義を再考する。はじめに、生涯教育、リカレント教育、学習社会などのキーとなる考え方を紹介しながら、一生涯にわたる学習・教育がどのような社会的・個人的意味を持ち得るのかを論ずる。その後、生涯学習の現状と可能性をめぐって、生涯学習関連施設、生涯学習の内容と方法、指導者の類型とその役割、学習情報ネットワーク、学習主体別の学習内容・方法の特徴、などについて具体的に論じていく。	

全学 共通科目	共通 専門科目	教育社会学	講義。教育を社会現象として捉え、人間の成長・発達に果たす様々な要因について、具体的な事例に即して学習する。とくに教育と類似した用語の養育、保育、養護、さらにはしつけや子育てなど、動物としての「ヒト」を「人間」に育てる過程＝人間形成機能について理解を深める。「家庭」、「学校」、「地域社会」、「職場」などの現代的な教育上の課題に沿って講じる。	
		人間関係論	講義。人は社会を作って、他人と「関わり合って」生活する。人は他人といろいろな「関係」を持っている。人は「関係」の中に生活して始めて存在していける、「社会的動物」である。人は一人一人固有の「自己」を有する。その自己の中には「社会性」と「個性」が含まれる。それらは、その人を取りまく人たちの関わりによってその発達が促進されていく。結局のところ、対人関係性による社会性の高まりによって、個性も強化され、人格も精錬され、またそれによって「社会性」も高まるという循環構造がある。本講義では、社会性に関わる共感性・思いやりなどについて説明し、また社会性と文化的な要因の関係についても説明し、また「個性」の発達についても言及する。	
		社会調査法	講義。社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する。調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数と誤差、サンプリングの諸方法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理（エディティング、コーディング、データクレンジング、フィールドノート作成、コードブック作成）などを含むものとする。	
		フィールドワーク方法論	講義。フィールドワークとは、日常的な社会生活や文化的営みが展開される「現場」に身を置いて、全体的な文脈の中で対象となる人や事象の理解をめざす調査研究方法である。本講義では、フィールドワークの歴史・意義・方法・技術・問題点について文献や映像資料、様々な実践例を用いて詳細に解説すると同時に、受講生が実際にフィールドワークを模擬体験することを通して観察力と分析力、そしてコミュニケーション能力と交渉術を養い、あらゆる社会状況に柔軟かつ主体的に対応できる個の確立を目指す。	
		現代ジャーナリズム論	講義。テキストだけでなく、ビデオやパワーポイントもつかった、分かりやすい講義、積極的に質問ができるような授業を目指す。最近のメディアの動向も踏まえたメディア論も交えて、錯綜する情報を確かに読み解く力をつけさせるのを目標とする。時にはメディアの現場で活躍する現役、特に女性を特別講師として教室に招く。現場での課題、問題点などを紹介するほか、学生時代に何を目標にしたか、就職ではどんな体験があったかなど、学生の参考になる話を披露して、将来作りに役立ててもらおうとする。	
		イベント論	講義。現代における「イベント」の意味を理解し、その実践に関する知識を得る。イベントの歴史からノウハウを学ぶとともに、情報の溢れる現代社会に生きる人々が、実際に興味関心を持ち参加したいと思うイベントはどのようにすれば企画できるかに重点を置いて発想力を養う。同時に、イベント開催に伴う事故災害の発生を防ぐリスクマネジメントに関する知識も得る。地域活性化のためのイベント事例など映像資料を豊富に使い、具体的な展開方法を習得する。	
		家族心理学	講義。人間は、家族の中に親密な関係を求めるが、その一方で、家族の中で言い知れぬ孤独を感じることもある。家族関係、家族問題を考えるとき、家族を親、子、祖父母などの構成要素に分けて考える立場から、メンバーが相互に抱いている「意味づけ」の変遷などについての知見を与える。また家族をシステムとして捉える立場から、多世代に亘って見られるその家族特有の問題、メンバー間の連合の強度など、構造上の特徴に関する知見を与える。それらを踏まえて、家族関係を変化させ、問題を解決するにはどのような方法があるのかについても考える。	
		マーケティング心理学	講義。授業の目的・目標：マーケティングとは、モノやサービスが「売れる仕組み」を作ることと定義される。そのために、マーケティングの現場では、まず、消費者の心理を把握し、そして購買に至る態度変容をもたらすことが求められる。この授業では、心理学の知識がマーケティングの実務において応用でき、寄与できることを学ぶ。授業の概要：マーケティングの基本概念を踏まえた上で、ブランド、価格、広告、ヒット商品といった身近なテーマから、マーケティングにおいて心理学的考え方がどのように生かされているかについて考察する。	

全学共通科目	共通専門科目	教育学概論	講義。人間社会において教育の果たすべき役割と世界の教育の現状と課題、生涯学習社会における学校教育及び社会教育の役割について専門的な視点で学ぶ。講義を中心に、教育の役割とその動向、学校教育及び社会教育の在り方や今後の課題について学習する。また、教育をめぐる様々な課題について 順次取り上げ、グループによる話し合いや各自研究・調査した成果の発表など行う。	
		近代家族論	講義。核家族－複婚家族－拡大家族、直系家族－傍系家族など、《家族》の諸類型を学習しながら、近現代の《家族》のかたちの変遷を追う。また、かつて日本に広く見られた親分子分(擬制的親子関係)という社会的親子のつながりを学んだ上で、養父母と養子、里親と里子との比較を試みる。このとき、海外ホームステイ先のホストファミリーや、国内で盛んな『山村留学』の受け入れ先との交流など、現代的事例も取り上げる。血縁、婚姻、居住、相続がなくとも、強い親近感を有するオヤコ関係までを視野に入れることで、《家族》とはなにかと改めて考えるきっかけを提供したい。	
		男性学	講義。近代社会のジェンダー構造に由来する「男性問題」の考察及び実際的な課題解決の試みの紹介を視野に入れつつ、より広く普遍的な問題関心を養うことを目的とする。講義において、近代以前の男性の社会的あり方を様々な文化の通過儀礼など民族誌的資料の検討を通じて理解し、現代と比較することによって、男性の諸問題の本質を考える。随時レポートを課し、それらに示された関心に基づき討論も行い、これからのジェンダー構造を多面的に考察し主体的に捉え直す契機とする。	
		マーケティングコミュニケーション	講義。企業などの組織を現代社会の中で、より良い形で運営していくにはマーケティングの発想が不可欠となっている。マーケティング活動の中でもコミュニケーションは極めて重要な位置を占めており、マーケティングコミュニケーションの基本的なノウハウを学ぶことをこの科目の狙いとする。広告のノウハウを中心に広報・パブリシティの手法についても学ぶ。また、インターネットを通じたコミュニケーション手法についても触れる。豊富な映像資料などを活用する。	
		メディア環境論	講義。今日のメディアを、特にコンピュータ通信の部門から概観することを授業の第一の項目とする。そのために、①情報通信のインフラストラクチャーの進歩と実態、②インフラ性能が通信内容(コンテンツ)に及ぼす影響と制約、さらに③具体的製作とさらに受信に必須のディストリビューション、以上の3つの視点を各論的な項目として、それぞれの実例的な理解を試みる。こうした作業を通じて、原題のメディアが持つ特性と問題点を抽出することを授業の第二の項目とする。	
		プロダクトデザイン論	講義。この授業では、プロダクトデザインを中心に建築、家具や彫刻も織り交ぜて、人間が道具を作り使い始めたころから現在までの、特に産業革命以降の素材・製法を含めた、デザイン史デザイン論を展開する。高度な情報化社会におけるプロダクトの役割や変化にも触れ、最新の材料テクノロジー、製造テクノロジーについても、随時情報を提供し、社会に出てすぐに役立つ知識を習得する。	
社会人形成科目	花蹊の教育とライフプラン・キャリアプラン	講義。学祖跡見花蹊の教育から建学の精神とその現代的意義を理解するとともに、自己のキャリア形成を意識したライフプラン・キャリアプランの作成方法を学ぶ。 前半では、学祖跡見花蹊の人と学問、その教育理念や実践方法について紹介しながら、建学の精神を伝えるとともに、その現代的意義をふまえて、大学で学ぶことの意味を明らかにしていく。 後半では、自己のキャリア形成への気付きおよびキャリアを考えることの習慣化を目標としつつ、人生85年時代を輝いて生きていく「ライフプラン」の土台となる「大学4年間のキャンパス・キャリアプラン」の作成を通じて、自律的で自立した女性としての総合的人間力を醸成していく。		
	パーソナリティを考える	講義。この授業では、パーソナリティを多様な視点からみることを通して、パーソナリティについて理解を深めることを目標とする。また、授業で得た知見を、学生が自分自身の成長に役立てることを狙いとする。具体的には、パーソナリティを知ることの意味、定義・構造、分類(類型論・特性論等)、記述、説明、表現について考える。また、フロイト、ユング、エリクソンの理論、学習理論や社会心理学からみたパーソナリティ、脳とパーソナリティとの関係等について概観する。		

全学共通科目	社会人形成科目	「自分らしさ」を探る	講義。この授業では「自己理解」に焦点を当て、自己に関する心理学的な知見を紹介する講義や演習課題を通して、受講者の自己理解を深めることを目標とする。具体的には、自分のパーソナリティ、興味・関心、価値観、他者とのかわり方の特徴などを探り、アイデンティティについて考察する。また、キャリア形成に関する課題を通して、自分の将来への意識・関心を高める。グループ・ワーク等を通して自分では気づきにくい側面について理解を促す。さらに自分らしさについて文章にまとめ、小グループ内で発表しあい考察を深める。	
		対人関係のスキル	講義。人との関係の中で自分を生かし、他者をも生かす自己表現のあり方とその方法について「アサーション」の理論を中心に紹介し、対人関係スキルの習得を目指すことを目標とする。そもそも“アサーション”とは「自尊に基づく率直な自己表現」であり、自分の考えや感情を大切に、異なる考えや感情を持つ他者と歩み寄りとうする対人関係の一つのあり方を示す概念である。このことを人権運動の歴史とリンクさせながら、この理論の本質の理解を深め、エクササイズを通してアサーティブな自己表現を体験的に学ぶ。	
		ストレス・マネジメント	講義。ストレスとなる出来事であるストレスラーの種類、ストレス度に関係する要因、身体、心理、行動に表れるストレス反応について講義する。同じストレスラーに直面しても、ストレス反応には個人差がある。個人差を生み出す環境、人格、行動様式などの媒介要因について自己診断を行ないながら理解を深める。行動様式は学習されたものであり、認知行動療法の色々な技法を用いてより適切な対処行動に変えることが出来る。代表的な幾つかの認知行動療法の技法を習得することによりストレス・マネジメント法を身に付ける。	
		職業人のルールとモラル	講義。なぜ社会や企業の中で「不祥事」が頻繁に起こるのか。多くの人は社会や企業組織の一員として働き貢献し「夢と志」の実現に挑戦していく。その過程において社会性・公共性を欠く出来事が起こり、誰もが当事者になってしまうリスクを背負っている。表裏一体の「経済と倫理」と「企業の社会的責任」の中で、個人には多様な価値観と普遍的な倫理観・公正性を踏まえた意思決定力と毅然とした行動力が求められている。「NO」と言える基軸と見識・倫理観と誠実さを持った人材の育成と凛とした生き方と働き方の原点を学ぶ。	
		産業と職業	講義。本講義の目標とするところは、「職業」について全体的かつ具体的な知識を得つつ、社会の中で「働く」ことについて自分の考えを整理することにある。この「仕事」についての全体的な理解のために、産業活動と職業・仕事を体系的に理解するための講義を行い、あわせて、実際に具体的な職業について正確な知識を得ることができるように「職業ハンドブック」等を活用し、仕事の内容、その職業に就くために必要な資格や能力、実際の働く環境などについての情報収集の实地習得を行う。	
		マスコミとの付き合い方	講義。マスメディアの発展の歴史を踏まえ、現代におけるその機能・役割を学び、各種メディアの特徴を知ることによって、生活の中でどのようにマスコミに接していくべきかを考えさせる。特に、世論がどのようなプロセスで形成されるか、マスコミによって人々の価値観がどのように変化していくかなど具体例を挙げて理解させる。新聞、雑誌、テレビ番組、インターネットなどの各種情報を具体的に取り上げ、ニュースや記事の背景を説明し、広い視野から物事を見ることを学ぶ。	
		ソーシャルマナー	演習。『作法』とは人としての立ち振る舞いと思いやりの心の表現をいう。作法は社会人としての価値観と人間性の基盤となるものであり、人間関係・信頼関係の原点をなすものであることを理論と実践を通して再確認する。社会で通用する「当たり前」の力を「ロールプレー」を通して学び体得する。社会で通用する作法を『ソーシャルマナー』と位置づけ『人間関係の基本・ビジネスマナー・言葉遣い・電話対応・スマイル・ボーディング等』のテーマをとりあげる。	
		ビジネス文章表現演習	演習。この授業は、レポート、小論文、論文を作成するにあたっての、基本的な論理的な文章の書き方を研究する。演繹法、帰納法、総括的な文章作りと、テンプレートを使った、対比文、意見文、説明文を作成する。さらにビジネス文書と個人的なオフィシャル文書を研究する。ビジネス文書については、社外文書では、社交、案内、取引、注文、請求などを、社内文書では、通知、案内、報告文書を学習することを目的とする。また、個人的なオフィシャル文書では、通知、クーリング・オフなど、また、手紙、葉書などの書き方を研究することを目的とする。	

全学共通科目 社会人形成科目	ディベート演習	演習。ディベートを実際に経験することで、高度なコミュニケーション能力の養成を目指す。①ディベートの定義、意義と効用、②論題設定とリサーチの仕方、を理解した後、③ディベート試合のビデオ視聴や内容分析を行い、記録の取り方、立論構成、反論の仕方など基礎技能を身につける。次に④試合形式での演習を繰り返し、スピーチの仕方などまで学ぶ。仕上げとして⑤論題に関する論説文を書く。最後に⑥他の受講生の論説を分析・批評する。教員はディベートやレポートに具体的なコメントを与えて理解の助けとする。	
	自己表現演習	演習。授業目的は、①自分の個性や魅力的に表現するプレゼンテーション能力を身につける、②自分の考えや意志を正確に論理的に伝達する、③自己分析を通じて自分らしさを発見する、の3点である。授業運営は、①自己表現のための重要ポイントを理解する、②対人間における諸要素であるコミュニケーションスキル、プレゼンテーション、ディスカッション、自己理解、相互理解、自己表現等の重要性の理解とその実技、演習、③振り返りをポイントとして行う。	
	プレゼンテーション演習	演習。学生、社会人としての基本的なコミュニケーション力の習得を研究する。コミュニケーションをはかるということは、話すことだけではなく、聴くことも関わってくる。「良き話し手は、良き聞き手」であることを理解する。また、コミュニケーションをもつということは、言語(バーバル)だけではなく、言語外(ノン・バーバル)の表現も重要であるということをビデオなどの視聴覚資料を利用し、理解、習得する。その学習の結果として、ビジネスの現場に対応できるコミュニケーション力を修得することを目標とする。したがって敬語表現も研究する。	
	キャリア基礎演習(グループワーク)	演習。自身の「キャリア」を描いていくために必要な要素の中に、「考える力」と「チーム力」がある。特に「チーム力」は、企業等の組織における重要なスキルであることは言うまでもない。この授業では、まずディスカッションの前提となる「考える力」を理解し、グループワークによるディスカッションとプレゼンテーションを、基礎から実践までの段階的なワークを通して、「チーム討議力」を身につける。この授業を通して、「人前で話す力」、「チームによる問題解決力」、「プレゼンテーション力」の向上を目指す。	
	キャリア基礎演習(公務員・数的処理) I	演習。公務員試験の教養試験で出題される数的処理の基礎を身に付けることを目的とする。具体的には、数学の基礎から学習し、最終的には高卒生対象公務員試験の本試験問題を解ける学力を身に付けることで、大卒生対象公務員試験合格への土台を作る。キャリア基礎演習 I では、数学の総復習からスタートして、数学の苦手な人でも一般企業の就職試験レベルの数学まで解けるようにすることを目的とした授業を行う。	
	キャリア基礎演習(公務員・数的処理) II	演習。公務員試験の教養試験で出題される数的処理の基礎を身に付けることを目的とする。具体的には、数学の基礎から学習し、最終的には高卒生対象公務員試験の本試験問題を解ける学力を身に付けることで、大卒生対象公務員試験合格への土台を作る。キャリア基礎演習 II では、大卒生対象公務員試験へのステップとして、高卒生対象公務員試験の本試験問題を解けるようにすることを目的とし、大卒生対象試験に繋がるような授業を実施する。	
	キャリア基礎演習(公務員・法律) I	演習。公務員試験の法律科目は憲法・民法・行政法がメインである。そこで、まず3科目の講義に入る前に導入として「法律入門」を扱う。その中で法律の解釈の基本的な考え方を講義する。その上で次に憲法の学習に入る。憲法は人権と統治の分野に大別されるので、人権では基本判例を素材にしながらか判例の重要性を学習する。人権の学習の後は国の組織である国会・内閣・裁判所を仕組みを憲法の条文を参照しながら学習する。	
	キャリア基礎演習(公務員・法律) II	演習。民法入門を扱う。民法の本試験での出題はいわゆる財産法の出題(総則・物権・債権)が圧倒的に多く家族法の出題は少ない。そこで、まず民法総則・物権編を扱う。具体的には動産売買・不動産売買の具体的な素材をベースにしながら契約の基本的しくみ・不動産の物権変動を学習していく。債権回収の基本的しくみについても時間が許すかぎり言及していく。キャリア基礎演習(公務員・法律) I の授業を受講していることが望ましいが、独立性が強いので、単独受講も可能である。	

全学共通科目 社会人形成科目	キャリア基礎演習(公務員・政治経済) I	演習。この授業は、主に政治学・国際関係分野の基礎を理解し、公務員試験の学習を効果的に始めることを目的としている。志望する試験種によって要求される知識の水準が異なるため、どの試験種でも必ず必要とされる基礎的な知識を重点的に学習する。この授業を手掛かりとして、政治学・国際関係分野の最低限の基礎を理解し、本演習以降に行う公務員試験の学習を効率的に進められるようになって欲しい。	
	キャリア基礎演習(公務員・政治経済) II	演習。この授業は、主に行政学・社会政策分野の基礎を理解し、公務員試験の学習を効果的に始めることを目的としている。志望する試験種によって要求される知識の水準が異なるため、どの試験種でも必ず必要とされる基礎的な知識を重点的に学習する。この授業を手掛かりとして、行政学・社会政策分野の最低限の基礎を理解し、本演習以降に行う公務員試験の学習を効率的に進められるようになって欲しい。	
	秘書技能演習	演習。今後の就職・生活において役立つ社会人として必要な基本的知識と技能を習得し、同時に秘書技能検定2級取得を目指す。秘書としての知識とその業務を行うのに必要とされる技能、すなわち、一般的な仕事を率先して実行できるようにし、状況に応じた判断力に基づいて実践する能力を理論領域と実技領域の2つの領域に従って習得させる。理論領域は、秘書の資質、職務知識、一般知識から構成され、実技領域はマナー・接遇、技能から構成される。	
	簿記会計基礎演習 I	演習。日商簿記検定3級で合格点を取るために必要な基礎知識を身につけることを目的とし、簿記の初歩(簿記の全体像・仕訳の仕方と勘定への転記)から日常の取引の記録(現金預金・手形・有価証券の売買・固定資産の減価償却など)や決算(試算表の作成・精算表の作成等)まで日商簿記検定3級の出題範囲を中心に学習する。	
	簿記会計基礎演習 II	演習。日商簿記検定3級に合格するために必要な知識を身につけることを目的とし、日常の取引の仕訳(固定資産の売買等)や仕入帳・売上帳などの帳簿への記録、そして決算手続き(試算表の作成、精算表の作成、帳簿の締め切り等)まで日商簿記検定3級の出題範囲を問題演習中心に学習する。春学期で簿記会計基礎演習 I を受講していること(又は仕訳のルールなど簿記の初歩の知識があること)が望ましい。	
	TOEIC特別演習 I	演習。英語の基礎的な力を伸ばし、TOEICのテストの形式に慣れ、スコアを伸ばすことを目標とする。TOEICのテストでは、特にリスニングとリーディングの力が試されるため、聞き取りと読解の訓練を重点的に行う。また、TOEICのテストの傾向の分析も行う。さらに、ボキャブラリーを補強し、文法の復習にも力を入れて、TOEICのテストに対応し得る一般的なコミュニケーション能力を身につけることを目指す。	
	ボランティア実践A	実習。実際にボランティア経験することを通して、自ら積極的に物事に関わっていく姿勢を養うとともに、ボランティアの意義を体感的に会得することを目指す。情報収集から報告書の提出に至るボランティア活動全般の手法や留意点を指導する。必要に応じてグループ作業や個別面談も行う。もっとも基本的なボランティア活動を実践的に学ぶ機会とする。	
	日本語演習	演習。社会人として日本語を正しく、豊かに使うために、漢字をはじめとする日本語全般に対する知識と運用能力を高めることを目的とする。それは、書くこと、読むことばかりでなく、話すこと、聞くことを含めたコミュニケーション能力の基礎を築くことであり、また、日本文化理解を深めていくことにもつながる。そうした幅広い視野に立って、「日本語検定」、「日本漢字能力検定」等の2級に相当する能力の獲得をめざす。	

全学共通科目	社会人形成科目	キャリア演習(公務員・数的処理) I	演習。公務員試験の教養試験で出題される数的処理について、本試験レベルの問題を解くために必要な知識、解法、テクニックを解説し、本試験の最終合格を目的とした授業を行う。また、公務員試験情報についても随時説明をし、意識レベルを高く保つことも目的とする。本試験で出題数が多く、かつ最も数学に近い「数的推理」を中心に引き上げ、数学に苦手な人でも合格レベルに達する学力を身に付けることを目標とする。	
		キャリア演習(公務員・数的処理) II	演習。公務員試験の教養試験で出題される数的処理について、本試験レベルの問題を解くために必要な知識、解法、テクニックを解説し、本試験の最終合格を目的とした授業を行う。また、公務員試験の情報を提示しつつ、意識レベルを高く保つことも目的とする。本試験で出題数が多く、かつ論理的思考を必要とする「判断推理」を中心に引き上げ、判断推理を得意科目にすることを目標とする。	
		キャリア演習(公務員・法律) I	演習。公務員試験の「民法」対策の授業として、とくに債権・家族法を扱う。債権では特に日常生活の素材を例にしながら債権の回収手段を中心に扱う。そして、次に本試験で出題される典型契約を検討する。契約以外では不法行為を中心に検討することになる。債権編の終了後は家族法を扱う。家族法では婚姻(離婚)、親子関係及び相続の基本的仕組みを取り扱う。キャリア基礎演習(公務員・法律) IIを受講していることが望ましいが、独立性が強いので単独受講も可能である。	
		キャリア演習(公務員・法律) II	演習。公務員試験の「行政法」対策の授業を行う。行政法は作用法と救済法に出題が集中しているため、この2つの分野の基本仕組みを学習する。行政法は概念の整理と判例が重要であるため、日常生活での具体例(営業許可等)を使用しながら行政法の基本的仕組みを学ぶ。その後行政救済制度のメインである国家賠償と取消訴訟を中心に学習する。行政法は法律3科目(憲法・民法・行政法)の中で抽象度が一番高いので、憲法及び民法の学習後に取り組みが望ましい。ただ、独立性が強いので、単独受講も可能である。	
		キャリア演習(公務員・政治経済) I	演習。主にミクロ経済学分野の基礎を理解し、公務員試験の学習を効果的に始めることを目的としている。志望する試験種によって要求される知識の水準が異なるため、どの試験種でも必ず必要とされる基礎的な知識を重点的に学習する。この授業を手掛かりとして、ミクロ経済学分野の最低限の基礎を理解し、本演習以降に行う公務員試験の学習を効率的に進められるようになって欲しい。	
		キャリア演習(公務員・政治経済) II	演習。主にマクロ経済学分野の基礎を理解し、公務員試験の学習を効果的に始めることを目的としている。志望する試験種によって要求される知識の水準が異なるため、どの試験種でも必ず必要とされる基礎的な知識を重点的に学習する。この授業を手掛かりとして、マクロ経済学分野の最低限の基礎を理解し、本演習以降に行う公務員試験の学習を効率的に進められるようになって欲しい。	
		簿記会計演習 I	演習。日商簿記検定2級で合格点を取るために必要な基礎知識を身につけることを目的とし、簿記一巡の手続き(手形・有形固定資産など)や株式会社の会計(株式の発行・社債・税金等)、そして製造業の原価計算(個別原価計算・総合原価計算等)まで日商簿記検定2級の出題範囲を中心に学習する。簿記会計基礎演習 Iを受講していること(又は簿記の基礎知識があること)が望ましい。	
		簿記会計演習 II	演習。日商簿記検定2級に合格するために必要な知識を身につけることを目的とし、帳簿組織や株式会社の会計(有価証券の処理・本支店会計等)、そして管理会計(標準原価計算・直接原価計算とCVP分析等)まで日商簿記検定2級の出題範囲を中心に学習する。春学期に簿記会計演習 Iを受講していること(又は株式会社の会計の基本的な知識があること)が望ましい。	

全学共通科目	社会人形成科目	ITパスポート演習Ⅰ	演習。経済産業省が実施する国家試験「ITパスポート」に合格するために必要な知識を身につけることを目的とする。パソコンのハードウェア/ソフトウェア、データベース、インターネット、情報セキュリティなど、学生、社会人を問わず、共通に備えておくべきIT(情報技術)に関する基礎知識を学ぶ。パソコン力の向上だけでなく、企業経営や戦略、マネジメント力の養成も狙う。	
		ITパスポート演習Ⅱ	演習。経済産業省が実施する国家試験「ITパスポート」に合格するために必要な知識を身につけることを目的とする。パソコン全体の知識(ハードウェアやソフトウェア、インターネットなど)や企業経営、企業戦略の知識など、ITパスポートの出題範囲を問題演習中心に学習していく。春学期に「ITパスポート演習Ⅰ」を受講していること(又はITパスポート試験学習経験やITに関する基本的な知識があること)が望ましい。	
		TOEIC特別演習Ⅱ	演習。英語の実践的な応用力を身につけ、TOEICのテストにおけるスコアの向上を目標とする。今日多くの企業において採用時にTOEICのスコアが重視される傾向にある。そのような状況を踏まえ、高いスコアの獲得をめざして、より複雑な内容のリスニングやリーディングの訓練に力を入れる。また、ポキヤブラーの補強や文法事項の確認も行いながら、小テストも取り入れることによって、各受講生の弱点を把握し、英語力全般の向上に役立てる。	
		イベント検定演習	演習。企業のマーケティングや地域経済の活性化において、重要な役割を担っているイベントに関する基本的な知識を習得し、イベント検定(社団法人日本イベント産業振興協会認定)の取得を目指す。テキストを用い、パワーポイントを活用した授業を行う。授業内容としては、イベントの概念や分類、特性を講義した上で、企画、会場の設営、広報、スケジュール管理、リスクマネジメントなどの各論など、資格取得に関わる基本知識を網羅する。	
		ビジネス実務法務検定演習	演習。営業・販売、総務・人事などビジネスの現場で必要不可欠な法律知識を習得し、ビジネス実務法務検定(東京商工会議所)の合格を目指す。授業内容としては、取引に関する法、法人に関する法、雇用に関する法などの基礎知識の獲得を目標とする。	
		色彩検定演習	演習。色彩に関する研究は古くから主に芸術の世界で行われてきた。18世紀ニュートンの光学の理論の発表以後、科学の分野として研究が進み、近代ではファッションや印刷に深く関与し、現代社会ではコンピューターのディスプレイの透過光の原理等の研究も科学的に進んできている。この講義では色彩の知識を身近な事例を取り入れながら、色彩心理を含んだカラーコーディネート力を習得していき、色彩検定2級合格を目指し授業を進める。	
		ボランティア実践B	実習。実際にボランティア経験することを通して、自ら積極的に物事に関わっていく姿勢を養うとともに、ボランティアの意義を体感的に会得することを目指す。情報収集から報告書の提出に至るボランティア活動全般の手法や留意点を指導する。必要に応じてグループ作業や個別面談も行う。より高度なボランティア活動を実践的に学ぶ機会とする。	
体育実技科目	体育実技A	球技種目(バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、サッカー等)を中心に。ボールを使うスポーツの場合、ボールの扱い方(技術)と敵・味方という人との関わり方(コミュニケーション)を身につける必要がある。どちらも難しそうであるが、これが面白さでもある。各スポーツ種目の経験や上手、下手は問わない。種目にこだわらず、チームプレーを通して、コミュニケーションをとる楽しさや面白さを味わうこと目標とする。運動強度は高めのクラスである。		



全学共通科目	体育実技科目	体育実技B	ダンス・体操を中心に行う。「話す」「書く」と同様に、自分の体を使って自己表現を行う手段として「ダンス」がある。また、体を「作る」「操(あやつる)」方法・手段として「体操」がある。自身の体を見つめ直し、身体を充分に使って自己表現を行う。身近な音楽、手具も使って様々な動きにチャレンジをする。日常生活におけるストレスの解放にも役立てて欲しい。具体的には群舞でダンス・体操を行ったり、グループでの創作活動を行って発表をする。そのための体作りから始め、基本の動きの習得等、段階的に授業を進める。運動強度は中程度のクラスである。	
		体育実技C	ラケット種目(テニス・バドミントン・卓球等)を行う。道具を使うスポーツは技術習得の面白さがある。また、シングルスやダブルスといったゲームを行うにあたっての面白さと難しさがある。生涯スポーツとしてもポピュラーな種目であるので、授業では、生涯スポーツとしてこれらのスポーツが楽しめるようになることを目的とする。各種目ともダブルスのゲームが出来るようになることを中心に授業を展開する。各種目の経験の有無は問わない。運動強度は中程度のクラスである。	
		体育実技D	ゲーム・レクリエーションを中心に行う。体を使ったゲーム・レクリエーションは、心身のリフレッシュ、コミュニケーションや親睦を深めるために有効である。子供の頃の遊びや、小学校で親しんだドッチボール、ボートボールなどを思い出して、もう一度行ってみると意外な面白さや発見がある。一方、ニュー・スポーツといわれるカテゴリーがあるが、これもレクリエーションとして最適である。レクリエーションの観点から、スポーツ種目や遊びを捉えて授業を行う。運動強度は低めである。	
		体育実技E(水泳)	水泳中心のクラスである。水泳を通して身体の鍛錬をするともに、生涯スポーツとして水泳が実践できるように、正確な泳ぎを習得することを目標とする。泳げる者は、泳法のフォーミング(フォームを直す)と、さらにもう一種目の泳法の習得を目指す。泳げない者は、クロールまたは平泳ぎの泳法の習得を目指す。また、続けて長く泳げる様なフォームと体力を養う。授業は泳力別班編成を行い、班別での泳法練習を中心に授業を進める。運動強度は高めである。集中授業で行う。	
		体育実技F(水泳)	水中運動中心のクラスである。健康のための運動として水中運動は有効である。授業は水中運動を経験することで、水中運動全般の楽しさを体験、習得することを目的とする。具体的にはリズム水泳、水中エクササイズダンス、水中トレーニング、着衣泳などを行う。また、タイムにこだわらず、楽なフォームで続けて泳ぐという健康のための水泳も身につけたい。最後の授業で、リズム水泳の発表会、水中運動会を開催する。運動強度は中程度である。集中授業で行う。	
		体育実技G	健康のためのスポーツの観点から、個人の目的に合った運動を適切に実践できるように、その知識と運動方法を学ぶ。生涯にわたって運動を実践することは、私たちの健康にとって大切なことの一つである。健康度、体力、心身のコンディションは、個人によって異なるので、自分の目的にあった運動(運動種目・方法)を、どのくらい(運動量・運動頻度)行えばよいかという「運動処方」が立てられることが必要である。その知識と方法をレクチャーし、各自が実践をする。運動強度は個人で設定できる。	
		体育実技H	基礎運動能力(走・跳・投)を高め、様々なスポーツが楽しめるような体の使い方の基礎を確認する。幼児に運動が嫌いな子はいない。しかし、いつの頃からか運動が苦手になったり、嫌いになったりしてしまうことがある。その理由の一つに「出来ないから」がある。そこでスポーツを楽しむための基礎運動能力を養うために、コーディネーション(運動の神経支配、調整力)を高める運動を中心に行う。この授業では運動種目はコーディネーションを高める手段であって、目的ではない。運動が苦手、嫌いな人も大歓迎である。運動強度は低めである。	
	総合科目	総合科目(地域文化)	講義。日本および諸外国における地域文化の諸相について考察する。沖縄の文化が明治以降の近代化のなかでどのように変化・拡大・創造されてきたのかを、今や世界中で活躍している「移民」(主にハワイ)と、沖縄の女性が主として担ってきた「シャーマニズム」を中心に見ていく。そこから、文化はいわゆる伝統として継承されるのと同時に創造もされるということ学ぶ。	共同

全学共通科目	総合科目	総合科目(地域社会)	講義。近年、防犯・防災・福祉・教育・観光等における「地域」への関心が高まっているが、地域社会が抱える課題は多い。地方自治体の動向に加えて、NPO法人等の実践事例を取り上げながら、そうした課題解決の方法を探るとともに、行政とのパートナーシップ、コミュニティビジネス、社会資本(ソーシャルキャピタル)等について学んでいく。	共同
		総合科目(日本とアジア)	講義。アジアの国々はそれぞれ固有の多様な文化を持っているが、日本人にとっては知っているようでよく知らず、似ているようで実は違う場合がよくある。日本と近隣アジア諸国の現在に至る長い交流の歴史を振り返りながら、各国の共通性・類似性だけでなく、それぞれに異なる社会的・文化的背景や思考方法について考察する。近現代史における日本と近隣アジア諸国の関わりにも注目する。	共同
		総合科目(国際政治)	講義。数世紀にわたる国際関係史及び各国の政治情勢を振り返りながら、現代の諸問題の位相を確認しつつ、それらを理解・分析するための概念や理論枠組みを学ぶ。いわゆる国際政治学や国際関係論に限らず、政治思想史、歴史学、比較政治学、国際法、安全保障論など多面的なアプローチを通じて国際政治への理解を深めることをめざす。	共同
		総合科目(国際経済)	講義。各国の経済は国際化・グローバル化が進行しつつあり、経済、国民生活は、その大きな影響を受けつつある。世界経済を揺るがしたユーロ圏の財政・金融危機も欧州経済の国際化がもたらした副作用である。本講義では国際化・グローバル化の進展状況、これに対応する企業の経営戦略の変化並びにグローバル化・国際化がもたらした光と影について考察する。	共同
		総合科目(現代社会)	講義。時代とともに歩む女性、時代を切り開く女性など、明治期から現代に至るまでの各時代の文学、映画、演劇作品等に表象されるさまざまな女性像を通して、また、そのときどきの社会現象となった事件や出来事の報道事例等を通じて、現代社会における女性の生き方を考える。	共同
		総合科目(観光)	講義。現代日本は、製造業空洞化の進展に伴い、従来の物作りを中心とした産業構造からサービス産業の比重を高める産業構造へと変化しつつある。そのなかで観光産業は新たに雇用を創造するものとして注目され、官民を挙げて活性化に取り組んでいる。こうしたことを踏まえ、この授業では、まず観光産業に関する基礎的知識を習得するとともに、日本・アジア地域における世界遺産観光を事例として、民族・風習・宗教やそれらに関する史跡等が観光資源としていかに活用されているか。そのなかでどの様な問題が新たに発生しているかについて論じていく。	共同
		総合科目(芸術と社会)	講義。ヨーロッパのさまざまな都市をとりあげ、都市という観点から西洋の芸術と社会を考える見方を学ぶ。まずヨーロッパの都市の一般的な特徴を考え、都市形成の歴史の概略を説明する。続いて、具体的な都市としてイタリアのフィレンツェをとりあげ、やや詳しく都市形成の歴史をたどり、代表的なモニュメントを紹介する。中世とルネサンスの代表的都市の比較、フィレンツェと並ぶ代表的な観光都市ヴェネツィア、永遠の都ローマ、オーストリア・ハブスブルク家の帝都ウィーンなどをとりあげる。	共同
		総合科目(人間と自然)	講義。科学技術の発達により私達人間はかつてない程の豊かな生活を営み、自然を支配したかのような錯覚をおこし、傍若無人にふるまってきた。その結果失ったものの大きさに気づいた今、地球環境を含めた生活全般の見直しを余儀なくされている。人間と自然の関係に注目しながら、こうした生活全般に関わる諸問題を科学的に捉え考察する。	共同

全学共通科目	総合科目	総合科目(生活と環境)	講義。生活の根幹である衣・食・住や家族の環境など、生活を取り巻く様々な生活環境を対象としつつ、生活に関わる諸問題を科学的に分析・考察する。健康的で快適な、しかも環境への負荷に配慮した衣・食・住を運営するために必要な知識を獲得するとともに、環境問題全般への理解を深める。	共同
		総合科目(キャリア)	講義。生き生きと仕事をするために何が必要か。自分に合った仕事は探せるのか。自分探しは必要か。実社会の最前線で働く企業人の話を通じて、「社会人基礎力」に定義される、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」について追体験させ、自己のキャリア形成の助けとする。併せて、社会貢献についても考えさせ、個人レベルの豊かさと社会レベルの豊かさとを、バランスさせていく力を養うことを目指す。	共同
臨床心理学専門科目	総論	心理学概論	講義。心理学の主要分野の研究成果を広く浅く学ぶことで心理学を概観し、心理学の基礎知識を習得する。心理学の歴史、感覚、知覚、学習、記憶、言語、思考、欲求、感情、性格、知能、発達、社会、臨床の各領域の理論および研究について学ぶ。心理学の基礎知識を学ぶことで、人間の様々な心理的機能について理解を深め、他人や自分の行動についての洞察力を養う。	
		臨床心理学概論	講義。個人または集団の抱える心理的困難の軽減・解決を心理学的に支援する心理臨床活動の基盤となる知識と技術を系統的に学ぶ。認知、行動、発達、人格、適応、障碍などに関する基礎研究、心理アセスメント、心理療法、臨床心理的地域援助、研究方法および研究倫理などについて概観し、実践科学としての臨床心理学の理解を深める。	
		心理学研究法	講義。目に見えない心の現象をより科学的に研究するための様々な研究法を学ぶ。事例研究法、質的研究法、量的研究法をはじめとする諸々の心理学的研究法の特徴や限界点について理解する。また、実際に研究を進めるうえでの研究倫理、研究の公表に向けての文献検索、論文作法について、知識と技能を身につける。	
		知覚・認知心理学	講義。視覚認知、感性認知、注意、感覚記憶・短期記憶・ワーキングメモリー・長期記憶などの記憶のしくみ、知識・概念の表象と構造、言語理解、思考過程など、人間の認知機能及びその障害に関しての、伝統的な心理学研究から、人間を情報処理システムとして捉える認知心理学の研究を概観し、理解を深める。	
		学習・言語心理学	講義。認知や学習、言語といった観点から、人間の心理や行動を理解する。古典的条件付け、オペラント条件付けなどの学習理論から、社会的学習理論まで概観し、人間の行動の発生要因や行動変容の機序についての諸理論を学ぶ。また、人間の認知、行動における言語の影響について言語心理学の知見から理解を深める。さらに、行動理論や学習理論などを基盤とした心理療法として、行動療法・認知行動療法を取り上げ、その理論的背景を含めて理解する。	
		発達心理学	講義。人間の「受精から死に至るまでの発達」を生涯発達の視点から概観し、その各時期の特徴を学ぶ。更に発達段階を捉えるための様々な観点や理論、個人の発達を支える家族や社会の影響などに関して生態学的な理解を身につけ、各段階の発達の様子、起こりやすい問題とその対応などについて学ぶ。	

臨床心理学科専門科目	総論	社会・集団・家族心理学	講義。人と人との相互作用のあり方について、①対人認知、原因帰属と印象形成、自己と自我、好悪感情などの個人内過程、②対人コミュニケーション、同調と服従などの対人関係、家族・学校・会社などにおける身近な人間関係のあり方、③リーダーシップなどの集団内過程、④人と人との影響し合っ生じる集合現象、⑤家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響、などを幅広く学ぶ。	
		心理学史	講義。過去の哲学的心理学から、実験心理学が誕生し、感覚研究、精神物理学、意識主義、記憶研究、知能の尺度、動物研究と行動主義、精神分析、ゲシュタルト心理学、新行動主義、種々の数量化の理論を経て、現在の認知心理学に至る心理学の変遷を辿り、目に見えない心の現象を対象に実証的な科学を目指して取り組んできた心理学の、様々な工夫について学ぶ。	
		教育・学校心理学	講義。学校現場において生じている問題及びその背景を概観し、現代の学校が抱える様々な心理社会的課題について考える。それらを踏まえ、子どもの学習面、健康面、心理社会面、進路面等への支援のあり方として、すべての児童生徒を対象とする一次的援助サービス、配慮を必要とする一部の児童生徒を対象とする二次的援助サービス、重度の援助ニーズをもつ特定の児童生徒を対象とする三次的援助サービスといった3段階の心理教育的援助サービスモデルを理解し、具体的な支援のあり方を学ぶ。	
		健康教育概論	講義。人々の健康について啓蒙・介入を行う健康教育が、人生にどのように寄与しているか理解することを目的とする。ストレスの要因や影響およびその対処、健康的なライフスタイルの形成方法などについての理論および健康教育に関する諸理論およびその実際について概観し、地域や職域、医療・福祉場面をはじめとする様々な場で実践されている健康教育プログラムについて、その構築方法や効果検証について理解を深める。	
		人体の構造と機能及び疾病	講義。身体疾患を持つ人の心理、心理的問題と心身の不調との関連、心理的問題を持つ人の身体的合併症等、身体と心の関係は密接である。このため、医学の知識は心理学を学ぶ者にとって重要である。まず心身機能と身体構造等、医学の基礎的な知識について学習し、その理解の上で、様々な疾患や障害について学びを深める。がん、慢性疾患、難病などに罹患している人には生活上の困難や心理的問題を抱えている場合が多い。それらの疾患の理解とともに、心理・社会的支援についても学習する。	
研究入門	心理学統計法	講義。具体的なデータに基づき、記述統計と推測統計の違いを学ぶ。特に推測統計における画期的な考え方について学習する。主な統計的検定手法の習得と、それを支える理論について知り、心理学研究に必要な統計の基礎的内容について学ぶ。また、結果の解釈の方法とその留意点についても理解する。さらに、実際のデータを扱いながら、こころを科学的に分析する意義や、統計特有の考え方を実践的に身につける。		
各論	神経・生理心理学	講義。神経・生理心理学に関連する諸現象が、いかに我々の日常・社会生活場面において発生し、活用されているかについて学ぶ。脳科学全般や自律神経系、感覚モダリティなどの諸理論を理解するとともに、その理解をもとにして、日常場面に適用できる健康増進方法を習得する。さらに、呼吸法や筋弛緩法といったリラクゼーションの諸技法を実際に身につけ、それらを活用した支援技法について実践的に学ぶ。		
	視覚と芸術の心理学	講義。色彩が人間の物理的・生理的側面に与える影響などの基礎知識をはじめ、色彩に関わる心理学的諸側面を学習する。また、それらの学習内容に基づき、芸術をはじめとする私たちの社会生活に関連した色彩の役割を理解する。さらに、視覚のみならず様々な感覚モダリティについての知識を深め、色彩と知覚・感覚についての幅広い関連について学ぶ。		

	感情・人格心理学	<p>講義。感情に関する理論及び感情喚起の機序、感情が行動に及ぼす影響などについて学ぶ。さらに、人格、性格、気質、個性など、人の行動における個人差を説明する概念について、第1に、個人差を生み出す遺伝、社会・家庭環境、人間関係の要因、第2には、類型論、特性論、行動理論、精神分析理論、現象学的人格理論、認知社会的人格理論といった人格理論の基礎にある人間観、第3に、諸理論に基づいた人格アセスメント法を学ぶ。</p>	
	言語心理学	<p>講義。言語心理学における、①人間が言語を獲得する過程についての研究、②言語の認知処理、言語の生成過程など、人間の心理的過程と深く関わる言語使用の研究を概観し、そのような研究を通して、言語心理学が人間の心(mind)の本質を探ろうとする学問であることを理解する。チョムスキーの生成文法理論、普遍文法、統語解析、言い間違いの分析、脳科学の進展、等の基礎知識などの学びを踏まえて、①言語獲得については、母国語の獲得と外国語の獲得、②言語使用に関しては、言語理解と言語産出について学習する。</p>	
	思考心理学	<p>講義。人間の思考のメカニズムが、どのように解明されてきたか、知識の構造、メタ認知等について概観し、思考の多様性や意思決定の理論、直観的な判断における歪み等について学ぶ。思考心理学における概念形成、問題解決、推論(演繹的推論と帰納的推論)の基本的な特性、意思決定といった研究テーマの基礎概念について理解し、問題解決における初心者と専門家の違いが何によって生じるのか、不思議現象を人々はなぜ信じ込んでしまうのかなどについて、人の思考の特徴を、言語と思考の関わりなどの視点から学び、思考のメカニズムについて発達の側面からの理解も深める。創造的思考、批判的思考、意思決定における人間の思考の特徴に関する様々な問題についての理解を深める。</p>	
	道徳心理学	<p>講義。1990年代以降の犯罪や少年非行を通して、これまでの犯罪心理学の理論では説明できない残虐な事件が起きていることを学ぶ。そこで、犯罪心理学以外の心理学の領域で行われてきた攻撃性に関する研究や、人間の脳の利他性と反して起きている反社会的行動、依存行動について知識を深める。それらを踏まえて、犯罪や非行の抑止力として道徳性の発達について、Freud,S., Piaget,J., Bandura,A., Kohlberg,L.、それ以降の道徳理論について学び、現代社会が抱える道徳性の育成の困難さについて学ぶ。更にジレンマ課題について討論し、正義や公平性について考える。また善悪と好悪の問題が混同されることで、道徳の視点がどのように変化するか、また正義と思いやりという2つの道徳的観点についての理解を深める。</p>	
	青年期の発達心理学	<p>講義。人間の生涯にわたる発達の中で、思春期、青年期の心理・社会的な発達を概観する。主に、身体的成熟と伴って生じる、生物学的、身体的変化や心理・社会的な変化を整理して学び、青年期の認知的発達、自我の発達、社会性の発達、感情の発達、対人関係などについて理解を深める。さらに、青年期の発達課題であるアイデンティティの確立の過程その様相について学ぶ。</p>	
	高齢者の心理学	<p>講義。高齢期は人生の心理的総括の時期にあたり、主に、加齢による身体的機能、認知的機能の低下および発達、パーソナリティ、家族関係、社会関係における変化が生じる。生涯発達における中年期から高齢期のこのような発達の变化について理解を深める。さらに、心身機能の低下、さまざまな喪失体験、死の受容および適応の問題、高齢期に多く見られる抑うつや認知症などの精神疾患、死に至るまでの心理的過程などについて学ぶ。</p>	
	心理学的支援法	<p>講義。代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、クライバーへの配慮などを学ぶ。また、面接室における本人に対する支援のみではなく、訪問による支援や地域支援の意義、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援についての理解を深める。</p>	
	力動論的アプローチ	<p>講義。心理療法の基礎的な理論と技法のひとつとして、力動論的なアプローチを学ぶ。すなわち、人の感情や行動に影響を及ぼす無意識の概念および精神機序、また無意識までを含めた人の心の包括的な構造や機構についての理論について学ぶ。さらに、そのような理論に基づき確立されてきた治療技法の基礎・応用を心理臨床全体の中に位置づけ、系統的に理解する。</p>	

認知行動療法	講義。心理療法の基本的な理論と技法のひとつとして、認知行動療法を学ぶ。認知行動療法とは、人間の気分や行動が、ものの考え方や受け取り方(認知)の影響を受けることから、その認知の偏りを修正し、問題解決を手助けする療法である。すなわち、人の抱えている課題や問題を、認知論的、行動論的視点からとらえる理論、さらに、そのような理論をもとに組み立てられた支援技法(認知再構成、自己教示法、認知的リハーサル、思考停止法等)などを、心理臨床全体の中に位置づけ、系統的に理解し学習する。	
家族療法論	講義。家族療法の変遷とともに、そのプロセスで提示されてきた、精神的な問題を他者との関係性から考えること、人間同士のコミュニケーションをシステムとして捉えること、直接的な解決構築といった知見について学ぶ。家族療法の「家族を治す」という字義通りのイメージから離れ、その独自のものの捉え方、考え方を理解することを目標とする。	
心理教育的アセスメント	講義。面接法と観察法による心理教育的アセスメントを学習する。心理教育的援助サービスにおけるアセスメントとは、「理解する、対策を立てる、対処する」というプロセスをくりかえしながら、よりよい援助の方向性をたえず模索していく過程が重要な位置を占める。サービスの対象者の人格、状況、問題に関連する情報収集、分析をし、それらを基にアセスメントし、そのアセスメントに基づいて介入方針を立てるのである。ここでは、観察法、面接法によるアセスメントの概要と技法を学習する。さらには、面接場面や事例の概要を通して、対象者自身および対象者と面接者の関係、さらには対象者の関わる環境を視野に入れたアセスメントの方法について学ぶ。	
健康心理アセスメント	講義。健康心理アセスメントの目的、各技法の特色、適応症状などを学ぶ。心理査定に必要な面接法、心理検査法などについての知識を深める。心理査定上必要となる情報の中には、生活環境、社会心理的側面のみならず、医師、看護師からの医学情報、服薬情報など専門知識を必要とするものもある。生理、病理、薬理的知識を含む、査定面接、カウンセリングの基礎となる知識を習得する。人格測定、心理測定をめぐる諸理念を理解することで、心理アセスメントにおける倫理問題に対する意識を高める。	
データ解析	講義。心理学では人間の意識や態度、行動を科学的に測定するために、さまざまな研究方法を用いて調査を行う。それらのデータを一定の手続きや解析方法によって分析すると、調査対象である個人の特性や影響する社会的な環境要因をより深く理解することが可能となる。本講義では、質問紙調査法を実践的に学び、データ解析の基礎から応用までの具体的な手法を修得することを旨とする。具体的には、①質問紙全体の作成手順から実施にあたっての細かな留意点を段階的に理解する、②統計ソフト(SPSS)を使用した、データ入力から、t検定、多変量解析などの統計的な分析手法、結果の理解と、その論文への記載方法を学ぶ。	
実験計画法	講義。心理学実験の基本的な方法論と、差の検定を中心としたデータ分析法を、両者の関連とともに学習する。基礎的な実験の計画方法と手続き、実験計画によるデータの様々な分析手法の詳細を理論と実践の両方から学ぶ。統計分析の手順、結果の解釈や表記を含めて、分析事例をおいて具体的に理解する。どのような仮説のもとで、実験手続きを進めているのか、また、どのような分析法で行っているのかを構造的に考える力を身につける。また、具体例を用いて、研究立案、仮説設定、実験デザインの決定、実験実施、SPSSによるデータ分析、論文の執筆の実際を理解する。	
公認心理師の職責	講義。公認心理師の役割とは、国民の心の健康の保持増進に寄与することである。公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育、その他の分野(産業、司法等)において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって行う具体的な業務を学習する。また、そのために存在する法的義務(信用失墜行為の禁止、秘密保持義務、多職種および関係者との連携、資質向上の責務、名称の使用制限等)及び公認心理師法に違反した際の法的罰則について学ぶ。倫理、多職種連携及び地域連携については、複数の事例を通して議論し理解を深める。さらに、公認心理師としてのさらなる研鑽に向けて、自ら課題を発見し解決する能力や、生涯とおして学習を続けることの大切さを理解する。	
関係行政論	講義。臨床行政について、援助サービスの管理・運営、システムの視点から学習する。そして、学校・教育分野、警察、家庭裁判所、少年鑑別所、保護観察所、青少年補導センター、児童相談所、福祉事務所、保健所、企業等における臨床行政の現状・実態と問題点について具体的な事例を踏まえながら学習する。さらに、これらの関係機関の協力・連携が強く叫ばれている中、援助サービスにおいての効果的協働のあり方を探り、今後の臨床行政の方向性について学習する。	

臨床教育学	講義。学校(主に小・中学校)の内外に広がる教育臨床領域全般の理論・現状に関して、関連諸機関の制度的変遷と現状、それを支える諸理論、実践の諸相という3つの側面から理解を深める。具体的には、不登校、いじめ、学級崩壊等に関わる現状や理論、実践の試みについて学び、適応指導教室、カウンセリングルーム、教師のカウンセリングマインドやフリースクール、福祉・医療諸機関等との連携の方法等について理解する。	
学校臨床心理学	講義。学校現場において生じる、いじめや不登校、学習困難といった課題に対する臨床心理学的援助・コンサルテーションの方法について、他職種との連携に焦点を当てながら学ぶ。また、具体的な支援方法として複数の心理療法を取り上げ、家庭訪問や通学支援、いじめ問題への適用についての理解を深める。さらに、学級や学年、学校全体を含めたシステム論的観点に基づく考え方を身につける。	
発達障害の心理と指導援助	講義。発達障害児(者)は、その特性ゆえに、家庭、学校、社会において学習、行動、対人コミュニケーションなどの様々な困難を生じやすい。本講義では、代表的な発達障害である自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder)、ADHD(Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder: 注意欠如多動症)、LD(Learning Disorder: 学習症)について障害の概要、心理的特徴を理解する。その理解に基づいて、その支援についての知識と技術を身につける。	
キャリアカウンセリング	講義。自分なりに納得のできる進路選択をするために、自らの個性理解や情報収集、職業理解を通して、キャリアプランニングの実際を考え、自己理解と職業選択を検討する。また、キャリアガイダンス、キャリアカウンセリングの概念の歴史の変遷を学ぶとともに、ライフキャリアという視点からの「キャリア」を考える。学校教育における進路指導(キャリアガイダンス&カウンセリング)を推進するうえでカウンセラーの在り方や役割そしてプログラミングについても学ぶ。	
健康・医療心理学	講義。健康心理学および健康行動の概念について、パーソナリティやストレス等の観点に基づき、心身両面から疾病予防や生活習慣病について学ぶ。また、健康心理学に関わる多様なモデルをもとに、健康開発への応用方法について学ぶ。さらに、医療・保険領域における心理・社会的課題、および災害時等の危機介入を含めた心理的支援について系統的に学び、その具体的な方法を学習する。	
健康心理カウンセリング	講義。健康の維持および増進、疾病の予防、治療に必要とされる心理学的な側面についての様々な知識と理論を学ぶ。さらにこれらの知識と理論に基づき、認知および行動の変容を通じて、健康を増進するための様々な技法について、その実際を学ぶ。また、健康心理カウンセリングを行う上で不可欠なカウンセリングの基本姿勢、主に、カウンセラーの基本的態度(自己一致、無条件の肯定的配慮、共感的理解)受容的、共感的に聴くこと(傾聴)とは何かを理解し、傾聴のスキルを身につける。	
福祉心理学	講義。福祉の理念を踏まえつつ、福祉政策の変遷について学ぶ。そのうえで、社会保障制度、生活保護制度、障害者自立支援制度等、現在の福祉制度ならびに関連法規について理解を深める。障害者(精神障害者、知的障害者、身体障害者)、児童、高齢者等における福祉の現場では、障害者の自立、権利擁護、虐待対応、高齢化等、様々な課題が生じている。これらの背景も理解したうえで、必要な心理社会的支援は何かについて学ぶ。	
障害者(児)心理学	講義。我が国の「障害者」の法律上の定義は、身体障害者、知的障害者、精神障害者で18歳以上の者をいう。18歳未満は障害児という。障害者(児)の分類、臨床像、心理社会的課題について理解する。障害者(児)は、家庭、学校、職場、において様々な困難をかかえている。そのような問題の解決や軽減のために必要な支援の理論と技法、関連した法律について学び、その実際を理解する。さらに、高齢化社会を迎え増加している、身体面、心理面に困難をかかえる高齢者の心理社会的課題や支援についての理解を深める。	

臨床心理学専門科目	各論	産業・組織心理学	講義。産業・組織心理学とは組織における人間行動を研究する学問である。人が仕事を選択し、組織に属し、キャリアを形成していく過程と、企業の側がどのような人を採用し、評価し、育成を行っているかという両者の視点から、職業適性、動機づけ、人事評価、人事管理や人材育成、職場での人間関係、キャリア支援、リーダーシップなどの知識を習得する。さらには、社会的作業環境、疲労と能率、災害や事故、機械器具と人間特性との関係、職務分析と職務満足、職場の組織形態が行動に及ぼす影響などについても学習する。それらの知識を習得し議論することで、産業組織を有機的・効果的に機能ならしめている理論的背景と実際を理解するとともに、そこで働く人の理解を深める。	
		産業カウンセリング	講義。産業カウンセリングとは、「働く人」のためのカウンセリングといえる。その主要なテーマは大きく分けてメンタルヘルスとキャリアである。まずは、産業カウンセリングの基礎知識(枠組み)についての概要を学ぶ。産業カウンセリングの歴史や理論、産業カウンセラーが担う役割等を学び、産業カウンセリングにまつわる基本的な知識を習得する。さらに、労務管理(法、国の施策も含む)の視点も重要な知識である。それらを踏まえた上で、はじめて産業カウンセリングが有効に展開されるのである。上述のことを踏まえ、複数の事例を通して、産業カウンセリングへの理解を深める。	
		司法・犯罪心理学	講義。犯罪や非行をした者について、そこに至る原因や心理の分析に関する基本的な理論について学び、重大事件の実証的研究を通してその理解を深める。また司法・犯罪分野において、必ずしも援助を求めている当事者に対して信頼関係を築き、再犯・再非行のリスクを評価し、矯正・更生のための指導・助言を行う過程、処遇プログラム、面接や心理検査、認知行動療法等が有効になっていく過程について学ぶ。さらに社会復帰後の生活をめぐって、当事者や身元引受人等への助言・支援について理解し、犯罪や非行の防止のために地域社会との連携の必要性について理解する。次に、犯罪被害者、犯罪家族等に対する相談援助について学ぶ。最後に、家事事件についての基本的知識を理解し、当事者や子どもへの中立的な立場での関与の必要性について理解する。	
		精神疾患とその治療	講義。代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援、向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化などに関して、基礎的な知識を系統的に学ぶ。また、精神医学の底に流れる思考方法を理解し、多様な悩みを抱える人々との相互関係の確立についての洞察を深める。さらに、医療機関との連携の実際について理解する。	
		心身医学	講義。心身医学の概念、心身関連のメカニズムについて系統的に学ぶとともに、現場における心身医学的診療の実際について理解する。さらに、心身症を循環器心身症、消化器心身症、神経系心身症、皮膚心身症、女性心身症に大別して、それぞれの代表的な心身症について、その発症機序、経過、治療的なかかわりなどについての理解を深める。	
		子どものこころとからだ	講義。子どもの身体の正常構造、機能、代表的な疾病・障害の理解に必要な小児科学の学習に加え、小児医療現場での対応が求められる低出生体重児、悪性腫瘍、先天性疾患、慢性疾患、難病などの疾病、心身症、発達障害、不登校などに対する心理・社会的支援について理解を深めるとともに、小児医療現場における、多職種連携の現状と有効なかかわりについて学ぶ。	
特殊演習	心理演習	演習。役割演技(ロールプレイング)や事例検討を行いながら、心理に関する支援を要する者等に関する理解とニーズの把握及び支援計画の作成と援助技能(コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等)、また現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務等に関する知識、技能を学ぶ。特に、学校での実習における心理教育的な援助について講義と演習を通して習得する。ヒューマン・サービスの心理教育的援助サービスの援助の具体例や、学校教育システム、児童生徒の発達課題や教育課題への理解を深め、子どもたちへのかかわり方を身につける。	共同	



臨床心理学専門科目

特殊演習	遊戯・芸術療法	演習。心理療法における遊戯療法、芸術療法について、その背景となる理論、技法、発達促進的な要素などについて整理する。その治療的機序として、カタルシス、投射、象徴、間主観的な体験を理解し、アクスラインの8原則をはじめとする実施にあたっての基本的な態度、配慮点について学ぶ。さらに遊戯・芸術を利用した様々な技法について、体験的に理解を深める。	
	心理的アセスメント	演習。心理的支援を実施するうえで不可欠な心理的アセスメントについて学ぶ。心理的アセスメントの目的および倫理、心理的アセスメントにおける様々な基準や観点、医療領域、司法領域、産業領域、福祉領域、教育領域などさまざまな分野におけるアセスメントの活用など、心理的アセスメントに必要な基本的知識を身につける。また情報収集のために行なわれる面接法、観察法、心理検査法について、その実施、結果の整理、記録および報告の方法をより具体的に学ぶ。質問紙法や投射法によるパーソナリティ検査、知能検査、神経心理検査などさまざまな心理検査の手続きについて学び、代表的なものについては、実際に受講者が検査者と被検査者となり体験したうえで、結果の整理と解釈を実際に行なってみるにより、さらに理解を深める。	
実習	心理学実験	人間の行動を、客観的に捉えるための実証的方法を理解し、具体的手法を、体験を通して習得する。主に知覚・学習・記憶など、より基礎的な研究方法を学ぶ第1分野と、主に認知心理学、社会心理学などに関する実験(情意・認知、社会・集団、行動観察、尺度構成法)など、より広範囲にその研究方法を学ぶ第2分野を学ぶ。2つの分野にわたり、先行研究に当たり、測定条件の統制、測定方法の吟味の必要性を学び、仮説を立て、検証することを学ぶ。そして、自身で計画立案した実験を含め、小グループを構成し、実験を体験する。そこで得た実験データの収集および統計的処理を実施し、その結果に対する適切な解釈の方法を学び、その後、報告書の作成の方法も学ぶ。ICTを用いた添削指導を受けることで、受講生全員が情報を共有して、理解を深め合う。	
	健康心理アセスメント実習	健康心理アセスメントは、心身の健康や適応状態等を、対象者自身の資質や特徴、生育歴や環境条件などの観点から査定し、より健康的な生活に向けて支援するための情報として活用することを目指す。パーソナリティ、感情(抑鬱、不安、怒り等)、ストレス、健康行動、Quality of Life(QOL)などといった多様な観点からの健康心理アセスメントに必要な基礎理論、尺度構成、実施の実際、結果の解釈などについての知識を深め、実習を通して体験的に学ぶ。さらに、面接によるアセスメント、特に初回面接の重要性を認識し、実際と活用について理解を深める。健康心理アセスメントを用いた介入過程、介入効果の測定も実習する。	
	心理実習A	心理実習Aでは、医療保健領域の心理職の活動についての理解を深める実習を行う。心理職の行う心理査定やカウンセリング、他職種との連携のありかた、医療保健領域の施設の特徴などを学ぶ。事前学習として特別講師から現場での業務の実際についてを講義を通じて学ぶ。その学びを元に、精神科病院・精神科診療所、精神保健福祉センター、障害者福祉施設等の見学を中心とした実習を行う。レポート作成、シェアリング、ディスカッションにより体験を深める。	共同
	心理実習B	カウンセラーをめざす学習の基礎として、学校現場での実習に臨む。学校の担当教員や関係教職員の指示に従い、児童生徒理解と対応の観察(授業や学級活動、行事、保健室における養護場面等の観察)や児童生徒との人間関係づくりの実習(休み時間や給食時のかかわり)、学級指導や教育相談、進路相談業務のワーキング(部屋の片付け、資料・会報づくり、相談活動のすすめ方に関する座学)に関する体験学習をする。心理教育的援助サービスのあり方について実践的に学習し、体験や実習と絡めて自己啓発、自己成長の機会とする。	共同
心理実習C	福祉分野(児童相談所、保育所、老人福祉施設など)および司法分野(少年院、少年鑑別所など)で、見学を中心とした実習に参加する。施設の心理・多職種職員から、認知症や被虐待体験などのために支援を要する者とその関係者に実施している面接、検査、観察及びその分析から、どのような支援目標を設定するか等の指導を受ける。更に現場での多職種連携支援、地域内・地域間連携支援の実施状況を体験する。見学前に、学内で事前ガイダンスを実施し、実習担当教員だけでなく、同種施設の心理・多職種職員による講演、ビデオの視聴、討論、ケースカンファレンス等を体験することで、現場に対するイメージを作り、理解を深める。見学終了後、学内での事後ガイダンスでは、討論を行い、学生相互の経験をシェアし、更に、報告書を作成することで体験を客観的に分析する方法を学ぶ。	共同	

臨床心理学専攻 臨床心理学専攻科目	演習	臨床心理学演習ⅠA	学生自身が調査・研究・発表していくゼミナール形式の授業であり、専門分野に応じた基礎的な知識を修得する。	
		臨床心理学演習ⅠB	学生自身が調査・研究・発表していくゼミナール形式の授業であり、専門分野に応じた研究技法を修得する。	
		臨床心理学演習ⅡA	学生自身が調査・研究・発表していくゼミナール形式の授業であり、本学科における専門的な学修の総仕上げに位置づけられる。ⅡAでは独自の研究テーマでの調査・研究・発表をおこなう。	
		臨床心理学演習ⅡB	学生自身が調査・研究・発表していくゼミナール形式の授業であり、本学科における専門的な学修の総仕上げに位置づけられる。ⅡBでは自身の研究をまとめ上げ、総括する。	
	卒業論文・卒業研究	卒業論文・卒業研究	臨床心理学演習Ⅰ、Ⅱで学んだ知識や研究方法を基に、学術的手続きに基づいた一定規模の論文(卒業論文)、あるいは創作、模写、翻訳、評論、調査等の成果物(卒業研究)を作成する。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の出定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

## 学校法人跡見学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>跡見学園女子大学</b>					<b>跡見学園女子大学</b>				
<b>文学部</b>					<b>文学部</b>				
人文学科	160	-	640		人文学科	160	-	640	
現代文化表現学科	120	-	480		現代文化表現学科	120	-	480	
コミュニケーション文化学科	110	-	440		コミュニケーション文化学科	110	-	440	
臨床心理学科	120	-	480			0	-	0	平成30年4月学生募集停止 学部の設置(届出)
					<b>心理学部</b>				
					臨床心理学科	120	-	480	
<b>マネジメント学部</b>					<b>マネジメント学部</b>				
マネジメント学科	180	-	720		マネジメント学科	180	-	720	
生活環境マネジメント学科	80	-	320		生活環境マネジメント学科	80	-	320	
<b>観光コミュニティ学部</b>					<b>観光コミュニティ学部</b>				
観光デザイン学科	120	-	480		観光デザイン学科	120	-	480	
コミュニティデザイン学科	80	-	320		コミュニティデザイン学科	80	-	320	
計	970		3880		計	970		3880	
<b>跡見学園女子大学大学院</b>					<b>跡見学園女子大学大学院</b>				
<b>人文科学研究科</b>					<b>人文科学研究科</b>				
日本文化専攻(M)	8	-	16		日本文化専攻(M)	8	-	16	
臨床心理学専攻(M)	12	-	24		臨床心理学専攻(M)	12	-	24	
<b>マネジメント研究科</b>					<b>マネジメント研究科</b>				
マネジメント専攻(M)	10	-	20		マネジメント専攻(M)	10	-	20	
計	30		60		計	30		60	